

2022（令和4）年度  
事業報告書

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

## 2022 年度事業報告書目次

	ページ
◆ 法 人	1
成年後見制度活用推進委員会	30
神戸聖隷歴史資料館	32
◆ 但馬地区	
平生園	34
わらしべ	41
さくらの苑	47
恵生園	53
真生園	61
和生園	71
北但広域療育センター	80
エスポワールこじか	88
◆ 神戸地区	
神戸聖生園	95
グループホームせいれいやまて	100
グループホームたいのはた東	104
神戸愛生園	108
きたすま障害者相談支援センター	113
神戸聖隷総合相談センター	119
神戸友生園	125
グループホーム南落合	133
神戸光生園	136
グループホームみなみたもん	142
グループホームふくだ	146
神戸明生園	149
ケアホームきたすま	153
神戸市立ワークセンターひょうご	155
しごとサポート中部	
神戸障害者就業・生活支援センター	
障害者雇用就業・定着拡大推進事業	
グループホームアリエッタ北須磨	164
ひょうご障害者相談支援センター	168
神戸市障害者基幹相談支援センター	
神戸市発達障害者中部相談窓口	
ひょうごデイサービスセンター	177
神戸市立自立センターひょうご	185
ワークセンターわかまつ	192
せいれいやさかだい	198
グループホームのぞみ	209
◆ 事業実績	213
◆ 施設整備実績	215

## 2022年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

理事長 水野 雄二

「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。」(ローマの信徒への手紙5：3~4)

### 1. はじめに

コロナ禍第6波が続く中で、2022年度はスタートしました。第6波をはるかに凌ぐ、その後の第7波、また第8波の流行と共に、私たちはこの一年を過ごしてきたこととなります。その状況に対して、神戸聖隷は、前年度に体験し教訓を得たコロナ禍での施設運営を活かして懸命な対応を進めてきました。すさまじいオミクロン株の流行に抗するのは難しい場面もありましたが、職員の懸命な感染防止対策やご利用者支援によって、比較的スムーズな施設運営を実施することができました。その間、毎週継続された「新型コロナウイルス感染症対策本部」からの情報発信が大いに貢献しました。また、緊急事態に備える重要性を更に意識し、地域貢献推進部の指導による事業継続計画（BCP）の精査が進められ、各施設においてもコロナウイルス対策に限らず、近く起こる可能性のある大規模災害にも備える準備を整えることができました。

2022年度は第4期中期計画の最終年度でした。過去2年の歩みを継承し、計画の完遂を目指すと共に、続く第5期中期計画の策定に取り掛かりました。長く続くコロナ禍は業務のノウハウも変化を強いることになりましたが、幸いにもこれを契機に業務のデジタル化が進み、ICT活用の業務や支援活動などデジタル活用が進みました。この傾向は業務の効率化や省力化をもたらし、ひいては生産性の向上にも繋がることを願い、今後もこの動きを進めていきます。

厳しさが続く人材確保と養成の課題にも積極的に取り組み、幸いにも職員新採用については前年よりはやや多い新入職員を得られました。依然として人材確保は厳しさが続いています。また、多様な人材の働きが強められるように、女性活躍の方策や外国人働き手へのアプローチ、次世代を担う人材養成に挑戦し、その中で、但馬地区においてネパールから4名の働き手を得ることができました。喫緊の課題である次世代経営層育成も「経営諮問委員会」の定期的開催などを通して進めることができました。

2022年度は、戦争が続く世界、コロナ禍が依然として続く日本、地域社会にあって、多くの人々が多様な恐怖や不安を持ち続け、苦難、忍耐の中におられました。しかし、私たちは、苦難や忍耐が「練達」を生むことを知っています。私たちはより良い「練達」の業を求め、そして私たちはその「練達」が希望を生むことも知っています。神戸聖隷もまた、苦難、忍耐の時こそ、理念に立ち返り、希望ある時を過ごしたいと願い歩んだ一年でありました。

## 2. 4 中計に基づく推進部事業報告

理念理解定着部会

### 中期事業目標① 創業50年に向けて、神戸聖隷ミッションの深く広い浸透をめざします

2022年度も、理念理解定着部会を推進役として、法人の基本理念の浸透と定着を目標に事業を進めました。コロナ禍の中、他法人理念研修とタイでの海外研修は今年度も引き続き実施することができませんでした。しかし、今年度もキリスト教に基づく基本理念について、分かりやすさ、親しみやすさを求め、基本理念の唱和、年間聖句の掲示などと共に、法人紹介DVDの日本語版、英語版の作成と配信を実施。また、マスコットキャラクター活用のトートバックを作成し、職員に配布することで、理念を共有する職員の一体感醸成に寄与しました。

また、職員に向けては理念の神髄に触れる機会としての研修の場を設定し、施設での理念研修、キリスト教福祉基礎研修の実施を進めることができました。

多くの職員が、この法人で働くことの意味を考えながら、その働きに喜びと誇りを感じることができるよう、継続して職員報を発刊し、第11号を数えました。特に本年は職員の多様な働きを紹介し共有することができました。

理念理解定着部会は第4期中期計画をもって終結しますが、今後も法人全体として理念浸透に向けての多様なアプローチを続けていきます。(水野雄二)

職員育成推進部

### 中期事業目標② 福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場を作ります

今年度は新型コロナウイルスに対する基本的な感染防止対策が定着してきていることに加え、ワクチン接種が進み各事業所で検査キットを使った感染状況の把握が定期的実施されていることなどもあって、ほとんどの研修について対面での実施を再開することができました。マスクの着用と一定の距離を保ちながら実施に多少の息苦しさはありましたが、職員によっては対面での研修を初めて経験する人もいて同じ空間を共有することから生まれる一体感を感じる機会となりました。特に3年ぶりにコープこうべ協同学苑の研修ホールで実施した総合職員研修では発表する職員一人ひとりから多くの熱量が伝わり、改めて当法人職員の持つポテンシャルを感じるすることができました。

福祉人材の確保については、学校訪問を44校(述べ65回)実施しました。これらの訪問活動を通じ施設からの協力のもとその学校の出身職員も同行し、学校が主催する学内説明会で学生に福祉の仕事についてのやりがい等について説明することや理事長の知人である大学教授の協力により同校出身の職員による学生への講義を行う機会を得ることなどができました。

新規採用試験の応募者は昨年度の15名に対し9名と減少し、内定承諾者についても支援職の採用予定10名に対し6名(高校卒を除く)と達成には至りませんでした。内定承諾率は昨年度の45%(11名中5名)に対して75%(8名中6名)と昨年度を上回る結果となり、母数は減少しましたが当法人を上位に志望する人材が得ることができたと思います。

(有川洋司)

## QOL 推進部

### 中期事業目標③ ひとり一人の居場所をていねいに作り、安心安全な生活を目指します

第 3 期中期計画の目標は、「一人ひとりの QOL を生涯にわたって（一貫して）支えます」とし、利用者を支えるという職員サイド取り組み課題として、第三者評価の推進、満足度調査の実施促進、標準となるマニュアルの作成、虐待防止チェックリストの実施、接遇ハンドブック作成、新しい障害福祉サービスの創設など、職員のサービス提供力の向上を目指しました。

第 4 期中期計画におきましては、さらに第三者評価結果に対する評価に対する達成目標の作成、満足度調査集計結果（接遇、支援内容、環境、食事、情報提供）の各施設ホームページでの掲載、標準となるマニュアルの更新、虐待防止チェックリスト集計結果を受けての対策シート作成、同じく虐待・不適切ケア評価表を用いた事例検討会の実施と判定表に対するコメント作成、法人内で募集した接遇アップの標語を用いたポスターでの接遇アップキャンペーンと接遇ハンドブック唱和依頼の実施、ハラスメントの観点から利用者、家族との困難事例の学習会実施、ヒヤリハット、事故報告の提出を促す目的でのヒヤリハット通信の発信をおこなっています。

第 4 期中期計画の最終年にあたり、通算 6 年間の推進部の働きは十分ではなかったのですが、客観的にサービスの質を見つめ、また職員の気づきを起こさせたのではないかと思います。

満足度や虐待防止への取り組みなどはマイナスからのスタートでしたが、職員からのサービス提供を通して利用者の皆さんがやりがい、楽しさを感じ、神戸聖隷があって良かった、利用して良かったと提供していただいているのではないかと思います。

これからも職員集団がしっかりした個々のデータに基づき、個別支援計画を作成し、ハートフルな介護、支援を提供し続けていきたいと思っています。（種谷啓太）

## 経営強化推進部

### 中期事業目標④ 社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます

各事業の利用延人数・給付費収入の年度目標値達成に向けて、進捗状況にコメントを添えた差異分析データを提供し、理事による担当施設のフォローアップに努めましたが、新型コロナウイルスへの感染、感染不安による利用控え、基幹施設の長引く利用定員割れの影響により、目標値を大きく下回りました。今後も大変厳しい状況が見込まれますが、第 5 期中期計画の重点実施項目に掲げる「神戸聖隷品質のサービス向上」を図り、コロナ減収からの脱却（安定的な事業収入の確保）に向け鋭意努力いたします。

数年来取り組んできたロボット等先進福祉機器整備、AI・ICT 化の推進においては、眠りスキンの追加整備、インカムの導入、記録システムのクライアント追加整備等を行いました。ご利用者の安心・安全な生活の確保は勿論のこと、職員の業務負担も幾分か軽減され、ご利用者個々に応じた支援・介護の提供に繋げることができています。

電子印鑑決裁とペーパーレス化への取り組みについては、昨年度導入したグループウェアデスクネッツネオのワークフローシステムを有効活用するため、施設内ワークフローを構築することで事務担当者や課長を加えた施設内決裁を可能とし、また、本部への各種届出書類にも運用を拡大しました。これにより、申請から最終決裁までの時間短縮、捺印・書類管理業務の効率化・省力化、ペーパーレス化を実現しました。

ペーパーレス化の浸透は web 会議の開催という波及効果を生み出しました。法人内の主要会議は Teams 又は Zoom と OneNote を使った web 会議となり、結果、会議資料や記録作成の効率化はもとより、会議開催に要する時間短縮にも繋がっています。（西山充）

地域貢献推進部

### 中期事業目標⑤ 誰もがつながり支え合う地域の実現をともに創る資源となる

BCPの策定については、法人内施設共通の「ひな形」を作成して全ての施設での準備を呼びかけて2024年度の完全義務化へ向けた準備を行いました。すべての施設の年度内完成には至っていませんが、次年度の中で更新と完成に取り組み、法人としてまとめて有事に活かせるようにします。

制度の狭間にある支援、地域のニーズに応じた支援活動の実施については、具体的な活動には至りませんでした。各地区のほっとかへんネットの立ち上げや活動の共有を行いました。

地域課題への取り組みとして「課題を抱える妊産婦等の就労支援」の受け入れ施設として県の要請に応えました。今後は「フードドライブ」や「ヤングケアラー」「DWAT」等の課題に経営協やほっとかへんネットを通じて取り組み、各拠点の活動に積極的に参加しリードしていきけるように引き継いでいきます。

地域活動拠点の一つを目指す「Tunagari」は継続営業して地域の方にその存在を知ってもらうことが出来ました。今後は多目的室の貸室利用等の場所提供も併せて取り組みを引き継いでいきます。各地区の行事再開やボランティア受入れについてもこれからの取り組みに委ねていきます。

広報の充実と活用については各部署の協力を得てタイムリーなページ更新を行いました。リニューアルを含めて、地域のニーズにより合ったページ作りと情報発信に取り組みます。

すべての計画について明確なゴールに達することは出来ませんでした。次年度の地域貢献に繋がる委員会の活動に引き継いで取り組んでまいります。（加藤成久）

人事・労務・危機管理推進部 2022年度事業報告

### 中期事業目標⑥ 持続的発展を担う組織基盤の確立を目指します

第4期中期計画の最終年、部員の弛まない努力で時宜にかなった取り組みが進みました。「モチベーション分野」の、職員の給与と人事考課、多様な働き方の制度の面では、国による更なる処遇改善のための施策でベースアップ等支援加算が得られることを活用して、実に四半世紀ぶりのベースアップを理事会で決定、2023年4月から施行しました。また多様な働き方の要請に合わせて、地区間異動義務をなくしたエリア正規職員（限定正規）の仕組みを構築しました。適切な人事考課制度運用のために普段の改良が欠かせませんが、本年度、評価作業のクラウドシステム化により、効率的に評価、面談を実施する仕組みを導入し、無事に評価を実施することができました。

「ワークライフバランス分野」も、経験を積むことで、より適切な取り組み手法で効果が出てきました。例えば残業の長時間化が続いている一部の職員へ、当推進部員が面談を通して、業務改善の道と一緒に考えるというアプローチをしたところ、当該職員の気持ちの変化につながり良い結果が出始めました。職員意識調査でも概ね良い結果でありましたが、中には一部分気になる課題があり、これも焦点を当てて地道に向き合うことで、まだまだ良くなるのではないかと考えています。

「経営者育成分野」では強い経営者が経営を引っ張る力が欠かせませんので、管理者や経営者に求められる職能を身に付けてもらうべく、理事・施設長への気持ちに訴えて来ました。またかねてから指摘されてきた経営層の若返りのための端緒を開き、2023年度は新たな法人像が生まれます。

「コンプライアンス分野」は、国が求める内部体制の在り方を、監事様と共に見直す方針を立てていましたが、監事様のご意向を受けて、理事による期中内部監査で、施設・事業所の実態を自主検査しました。3～4 中計を通じてご理解をいただきありがとうございました。

(吉田和夫)

第4期中期計画と推進策（理念理解定着部担当）

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
分かりやすさ、親しみやすさを求め、日常化を推進	基本理念の掲示、唱和推奨	全施設での掲示、唱和	全施設での掲示、唱和	◎
	年間聖句の掲示	全施設での掲示	全施設での掲示	◎
	法人マスコットキャラクターの活用	グッズ（第2弾）作成	第2弾としてトートバックの作成し、全職員に配布。	◎
研修や集会でのツール作成	神戸聖隷ハンドブック活用	第2版の活用継続と第3版の制作	アンケートの回収と分析を行い、第3版は未了	△
幅広い関係者を対象とした理念表出	理念講演会の開催	山形氏講演会講演録作成 2023年以降の講演会準備	講演録を作成し、職員及び関係者に配布	◎
初級職員や臨時職員を念頭に置いた研修	各施設での理念研修協力	3~5施設で実施	6施設で実施	◎
	キリスト教福祉基礎研修実施	但馬、神戸で実施	9月~10月に但馬地区及び神戸地区で実施	◎
キリスト教主義の他法人理念研修	他法人理念研修の開催	神戸（9月）、浜松（1月）で実施・新規他法人研修実施 （コロナウイルス感染状況で開催可否を判断）	神戸（6月）、浜松（1月）に実施予定を中止決定	×
海外での理念研修	タイでの海外研修の開催	コロナウイルス感染状況によらず中止 法人紹介DVDの有効活用 DVD（英語版）の作成	タイ・チェンマイで実施（11月）予定を中止決定。法人DVD作成し、各部に配布。	×
職員報の継続発刊	職員報作成継続とデータ保存・活用化	年2回の刊行（8月、3月）	昨年度分の第9号を上期に発刊。第10号・第11号を発刊。	◎
創業50年を念頭に置いた史料収集	創業者インタビューの保存	年2~3人の収集	コロナ感染拡大で自粛	×
	神戸聖隷My story収集	My story収集（インタビュー）継続	コロナ感染拡大で自粛	×
海外研修将来検討	新規海外研修の研究	実施要項の検討、準備	未実施	×
その他	QOL部会との連携	合同ミーティングの成果発信	2/27に困難事例学習会を実施	○

第4期中期計画と推進策（職員育成推進部担当）

実行計画	2022年度計画	上期実施状況	達成度
学生・就活者と現場で出会う機会の整備・充実	<p>①各施設の現場実習受入れ体制確立と確認 実習受け入れ体制および受け入れ状況の調査</p> <p>②実習指導モデルの確立 実習指導担当者等との情報共有・意見交換実施 実習指導モデルの検討</p> <p>③大学・各種学校訪問の充実 新規開拓を含め出来るだけ多くの訪問を実施</p> <p>④大学・各種学校の担当教員との繋がり強化 OBの同行について各施設の協力を得て訪問実施</p> <p>⑤神戸常盤大学との協働</p>	<p>① ア)未実施</p> <p>② ア)未実施</p> <p>③ ア)大学44校（述べ65回）訪問</p> <p>④ ア)水野理事長と旧知の関係にある四国学院大学教授の調整のもと、同校OB職員による学生への講義を実施</p> <p>イ)関西福祉大学学内説明会に同校OB職員も同行し参加</p> <p>⑤ ア)未実施</p>	○
法人を知ってもらう機会の整備・充実	<p>①Web求職サイトの活用 掲載内容について定期的な更新実施</p> <p>②各種就職フェアへの出展 Webでの出展も含め出展機会を増やす</p> <p>③学生・求職者の見学説明会の実施 但馬・神戸の各拠点で定期的に見学説明会を開催</p>	<p>① ア)マイナビ・キャリアス就活を活用 イ)代理店との打ち合わせ</p> <p>② ア)神戸市主催「合同企業説明会・面接会」 イ)兵庫県社会福祉協議会主催「福祉の就職フェア in HYOGO」 ウ)豊岡市主催「福祉の就職説明会・但馬地域オンライン」 エ)「インターンシップ導入・構築セミナー」 オ)「学生と企業のカフェ交流会」 カ)「福祉の就職説明会」 キ)「ワーク・ライフ・バランス推進企業で働こう！合同企業説明会」 ク)「但馬企業と大学キャリア担当者との意見交換会」 ケ)「KOBE 就職・転職フェア」</p> <p>③ ア)30名参加</p>	◎

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
採用試験エントリーに繋がる仕組み作り	①採用試験受験エントリーページの作成と活用 ②選ばれる募集要項の作成 職種ごと・目的・用途などに 応じたレイアウトの刷新	① ア) エントリーページ作成は未実施 選考試験を 6 回実施 内定通知者 8 名中承諾は 6 名 ② ア) 未着手	△
法人内部研修の充実	①既存各内部研修のブラッシュアップと報告・共有 ②既存の法人内部研修に新研修の取入れ 事業種別研修の継続 ③各研修に理念研修プログラムの取入れ 各研修のプログラムに取入れ継続 ④自主研修参加助成の継続 ①自主研修 ②実務者研修 ⑤人事・労務・危機管理担当との協働 キャリアパスに係る研修の再構築 一般事業主行動計画の目標達成にむけた研修の実施	① ア) ミニペーパーの発行について検討したが実施には至らず ② ア) 各事業種別研修（施設入所・通所日中活動・相談支援）を昨年度に続き実施 ③ ア) 各研修で開会礼拝、理事長のメッセージを実施 ④ ア) ①について 8 名、②について 9 名助成実施 ⑤ ア) 未実施	△
各研修への参加し易さの追求	①研修実施場所の検証 オンラインによる研修の際の受講場所の検討と環境整備 ②各研修年間計画の共有 内部研修一覧表の作成と共有 ③研修実施方法の新提案 オンラインと対面による研修の併用	① ア) 対面での研修も再開し、少人数での研修は但馬総合事務所、神戸聖隷オアシスで実施。オンラインでの研修については各事業所の状況に合わせてそれぞれで実施 ② ア) 一覧表を作成し、全施設長に配信済み（5 月）5 月配信時未定でそれ以降に確定した下半期実施予定のものについて 10 月に配信予定であったが未配信 ③ ア) 総合職員研修を会場参加とオンラインを併用したハイブリット型で実施	○

第4期中期計画と推進策（QOL 推進部担当）

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
サービスの評価（自己チェック体制の確立）	第三者評価の受審と評価	① 恵生園、神戸聖生園、ひょうごデイサービスセンター 第三者評価受審	① ア)9/27 恵生園受審 10/3 めぐみ、11/29 ひょうごデイサービスセンター、12/8 神戸聖生園受審 イ) 6/23 2021 年度受審神戸愛生園、平生園 WAM ネット掲載	◎
	満足度調査実施	② 満足度調査継続実施 公表用シート作成	② ア) 2022 年度報告を各施設の HP でアップ	
	接遇ハンドブック活用	⑤接遇ハンドブック年3回のキャンペーン実施	⑤ ア)5/16~27 第12回キャンペーン「その笑顔 コロナに負けぬ 愛運ぶ」 10/3~14 第13回「イライラしていない？ そんな時は深呼吸」「ソーシャルディスタンス！ でも心は寄り添って」 2/7~17 第14回「言葉のマナー 心のマナー あなたの一言大丈夫？」「心地良さ 感じる言葉 あなたにも」	

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
虐待防止への取り組み	年2回の虐待防止チェックリスト実施	①年2回の虐待防止チェックリスト実施	① ア) 年2回Googleフォームで実施し集計 各施設に施設評価・対策文作成依頼	◎
	年1回以上の基準表・判定表の基づく事例学習会の実施	②虐待防止基準表・判定表に基づく事例学習会の実施 ③ 困難事例への対応	② ア) 全施設事例検討での判定表提出、それぞれにコメント配信 ③ ア)2/27 神戸愛生園の困難事例報告 web にて実施	
高齢化への取り組み	高齢化に対する利用指針作成	①通所利用者基礎調査を基に神戸地区の高齢化対策の検討会実施	① ア) 神戸地区での高齢化対策については神戸地区に検討依頼	○
	再発防止策へのアプローチ	②事故報告調査票より内容を検討し、施設と共同で改善策検討	② ア) 12/14 第2号ヒヤリハット通信配信（さくらの苑事例）	

第4期中期計画と推進策（経営強化推進部担当）

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
各事業の年度目標値達成に向けた働きかけ	各事業の目標値（利用延人数・給付費収入）に対する月次実績チェック	①利用者延人数・給付費収入の年度目標値達成状況を把握 ②各施設（事業）の管理職に目標値達成状況をフィードバック	①②共通 ア) 全拠点・事業の目標値達成月次チェックを実施（毎月） イ) 目標値達成状況に担当者がコメントをつけ全管理職にフィードバック（毎月） ウ) 上半期対年度目標値達成状況を配信（10月）	◎
	予算ヒアリング等に分析データの提供、目標値達成に向けた対策の共有と提案	①各施設（事業）の実績を把握し、担当理事に分析データを提供 ②予算ヒアリングシート等の提案・配信 ③予算ヒアリング等に同席し、目標値未達原因の把握と対策の共有・提案	①②共通 ア) 過去5年の経営実績と利用延人数・給付費収入推移を配信（5月） イ) 4～5月、4～7月実績で進捗が気になる点を抽出し分析データを理事に提供（6月、8月） ② ア) 中間決算ヒアリング説明書の書式を提案（9月） イ) 2023年度予算ヒアリング説明書の書式を提案（11月） ③ ア) 中間決算ヒアリングに担当者出席し目標値達成状況と下期の取組・達成見込を確認（10月） イ) 予算ヒアリングに担当者出席し2022年度目標値達成見込と2023年度目標値・予算を確認、全拠点のヒアリング結果集計一覧表を作成（2月）	○
	各種加算の算定要件のチェック	①各事業所が取得している加算算定要件の確認	ア) 2022年度基本報酬・加算算定要件の確認調査を実施し、各施設での加算算定要件の継続したチェックを依頼（4月） イ) 内部監査Bチームにて加算算定要件確認（8月：5施設） ウ) 内部監査報告会にてBチームの監査結果を報告（11月）	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
各事業の 年度目標 値達成に 向けた働 きかけ	神戸地区で 独自の送迎 サービスの 実施	①参画施設による ルート調整（継 続） ②走行ルート・利 用者の確定 ③送迎車両の購入 ④送迎の実施	① ア) ヤマト・スタッフ・サプライ(株)よ り送迎事業撤退申出あり（6月） イ) 送迎システム実施3施設(神戸聖 生園・せいでいやさかだい・神戸 光生園)の打合せ実施（7月） ウ) ヤマト・スタッフ・サプライ(株)、 (株)みつばコミュニティ、実施3 施設の打合せ実施（8月） エ) 経営諮問委員会に送迎委託業者 変更に向けた経過を報告（9月） オ) 理事会にて送迎委託業者の変更 承認（11月） カ) (株)みつばコミュニティによる運 行開始（12月） ②③④ ア) コロナ感染拡大により中止	△
計画的な積 立金の計上	予算ヒアリ ングにて 目標額を 計上、中間 決算ヒア リングに て見込額 確認	①積立目標金額 1.25億円	ア) 当初予算の積立金計上額 1.60億円 *但馬地区 0.84億円 *神戸地区 0.76億円 イ) 3月最終補正積立見込額 1.91億円 *但馬地区 1.30億円 *神戸地区 0.61億円	○
ロボット等 先進福祉機 器整備、 AI・ICT化 の推進	各事業所の ニーズ調 査	①昨年度実施した 介護用ロボット 等先進福祉機器 の整備、AI・ICT 化の調査結果に 基づき情報収集 及び提供 ②先進福祉機器の 整備、AI・ICT 化計画の調査	① ア) 情報収集は行っているが、新型コ ロナの影響により進展せず ② ア) 2023 年度介護用ロボット等先進 福祉機器整備、AI・ICT化に関す る調査を実施、調査結果を配信し 共有（2月）	○
	情報収集と 提供	①展示会、メーカ ー等の情報収集 と提供	ア) 情報収集のみ実施	△

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
ロボット等 先進福祉機 器整備、 AI・ICT化 の推進	具体的な 導入への 提案とサ ポート	①補助金、助成金 などの情報収集と 提供 ②導入希望施設に 導入に向けた提 案とサポート	① ア)情報収集のみ実施 ② ア)神戸愛生園:クリアトークカム2 台追加整備完了(5月) イ)さくらの苑:介護業務における労 働環境改善支援事業(介護ロボッ ト補助金)の補助を受け、インカ ムシステム一式整備完了(3月)	△
記録システ ム機能の活 用	記録システ ム活用推 進学習会 の開催	①各施設の必要に 応じた web 学 習会、リモート 指導等に向けた フォロー ②学習会等実施内 容の把握と関 係施設への情 報提供	① ア)恵生園クライアント2台追加 (5月) イ)ND ソフトウェアによる個別指導 学習会希望調査実施(6月) ウ)個別指導学習会実施(8月) 実施施設:真生園・神戸愛生園 ② ア)個別指導学習会の学習内容を関 係施設に配信し共有(12月)	◎
	記録システ ム機能の 実践と共 有	①導入施設におけ る実践状況の把握 ②実践事例報告会 を通じた機能活 用状況の共有	① ア)実践事例報告会の開催方法・日程 等について検討(9月) イ)記録システムの機能活用状況に 関する調査内容を検討(10月)、 調査実施(11月) エ)実践事例報告会開催をやめ、機能 活用状況調査結果を配信し共有 することに計画を変更(11月) ② ア)記録システムの機能活用状況に 関する調査結果を関係施設に配 信し共有(12月) イ)2023 年度記録システムの整備に 関する調査を実施、調査結果を配 信し共有(2月)	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
各種様式等の見直し	各種届出様式の見直しを含む稟議書等電子印鑑決裁の導入、ペーパーレス化	①デスクネットワークのワークフローを施設内に構築し運用 ②出張届・旅費精算書のペーパーレス化の本格運用 ③各種届出様式を見直し、電子印鑑決裁（施設内決裁含む）を運用	① ア) 課長・事務担当者を含む施設内ワークフロー、内部稟議書のフォーマット等について検討（7月） イ) 内部稟議書のワークフローテスト実施（8月）、運用開始（10月） ② ア) 出張届ペーパーレス化の本格運用開始（4月） イ) 旅費精算を伴わない出張届・報告書（様式2）提案（7月）、運用開始（8月） ③ ア) 退職届報告書、育児・介護休業届報告書、労働災害発生状況報告書のワークフローシステム活用に向け検討（11月）、提案（3月）、4月運用開始予定	◎
	ケース記録等利用者処遇各種帳票の電子印鑑決裁の導入、ペーパーレス化	①ケース記録等の電子印鑑決裁及びペーパーレス化を全施設導入	① ア) エスポワールこじかを除く全施設で実践中	○
会議システム（準備・開催・記録）の見直し	会議資料・記録作成の効率化	① Teams 及び OneNote の更なる活用 ② 施設内会議システム効率化の検討	① ア) 主要会議でTeamsとOneNoteを活用したペーパーレス会議を実施 イ) TeamsとOneNoteの活用学習会を企画・開催 ・基礎編3回31名参加（8月） ・フォローアップ編3回32名参加（9月）	◎
	ペーパーレス会議の実施	①施設内ペーパーレス会議の検討	① ア) ペーパーレス会議等に関する調査内容について検討（8月・9月） イ) ペーパーレス化への取り組みに関する実態調査実施（10月）、調査結果を配信し共有（11月）	○

第4期中期計画と推進策（地域貢献推進部担当）

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
災害時要援護者に対する支援体制の構築	BCP策定 福祉避難所の体制整備	①BCPの策定 ②上半期に各事業所のBCP策定リード ③下半期に検証・更新を実施	①部内BCP策定し「ひな型」作成 ア)BCP策定会議の実施（6・7・8・月） イ)人労務部会とすり合わせ（9月） ②BCP策定計画のリード ア)全施設へ策定計画発表（9月） イ)策定計画と進捗管理連絡（9～3月）	○
	各地区、施設の災害時の体制等の整備（も・ひと）	①DWAT登録へ向けて準備する 上半期BCP策定後、下半期の検証で登録準備を進める	①DWAT登録へ学習と準備 ア)DWAT基礎研修（法人計12名：7月） ②神戸地区備蓄品確認（5・3月）	○
制度の狭間にある支援の実施	生活環境改善（ゴミ屋敷清掃）・生活困窮者支援（フードバンク等）への取り組み	①フードドライブ活動支援の実施 上半期半ばで活動準備、下半期にかけて活動を実施、検証継続する	ア)支援ニーズ確認と実施状況共有（4～3月） イ)神戸地区：近隣施設から協働依頼連絡有。検討継続（8～3月） ウ)「課題を抱える妊産婦等の就労等支援」について兵庫県（県経営協を通じて）と連携申請（7月）	○
法人外関係機関（ほっとかへんネット等）との連携	各ほっとかへんネット・自立支援協議会の取り組みを法人内に情報発信	①実施状況把握継続（但馬地区：自立支援協議会等）	ア)朝来市自立支援連絡会活動報告共有	○
		①実施状況把握（神戸地区：ほっとかへんネット・自立支援協議会等）	ア)関係各区ほっとかへんネット活動内容共有	
地域のニーズに応える体制の構築	地域ニーズの情報収集方法と支援内容の見極め	①「介護者の集い」再開協力とニーズ把握継続	（但馬地区） ア)朝来市ミニデイ活動状況共有 イ)ミニデイにさくらの苑OT派遣（4・7・9月）	○
		①Tunagariやフードドライブ活動実施協力とニーズ把握継続	（神戸地区） ア)「ワークセンターわかまつ：まつぼっくり」で認知症カフェ開催状況共有 イ)「Tunagari」の営業状況の共有	

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
	支援体制の検討と構築	①認知症カフェ・認知症サポーター研修実施 上・下半期にそれぞれ研修実施計画	ア) 認知症サポーター研修企画と実施(4~3月)	○
地域活動への積極的参加	地域のイベント等への参加	①地域イベントへの参加再開へ協力	ア) 友が丘大掃除会参加(6月) イ) 北須磨地区民生委員会出席(7月) ウ) 北須磨団地自治会「安心安全コミュニティ像のつどい」出席(8月)	○
地域との交流機会の提供	地域向けイベント等の実施	①グラウンドゴルフ・感謝祭等の再開と協力とフィードバック実施	ア) 但馬地区の行事には開催検討するも延期又は中止(7~2月)	○
		①おいでやすカーニバル等の再開協力とフィードバック実施	ア) おいでやすカーニバル準備と実施(5・6・7・8・9月) イ) 「Tunagari」おいでやすカーニバルの飲食提供場所として参加(9月)	
	交流スペースの地域開放	①さくらの苑を中心に地域への交流スペース開放再開へ向けて準備協力	ア) 再開へ向けて準備継続	○
		①友が丘交流スペースの地域開放 下半期フードドライブ活動・認知症カフェ・サポーター研修を実施(Tunagari 火・木曜日の利用)	ア) Tunagari 感染予防徹底して営業継続(4~3月) イ) 研修等への場所貸し出し(4~3月)	
	ボランティアの積極的な受け入れと仕組みづくり	①ボランティア活動受入再開準備の具体化 上半期に社協ボラセンや神戸常盤大学と連携して情報収集実施 下半期にボランティア受入再開マニュアル(ひな型)を策定する	ア) 両地区ともにボランティア受入再開へ向けた情報収集と共有(4~3月)	△

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
福祉教育、福祉体験等を通じた理解の促進	福祉体験学習等の継続を積極的に推進	①福祉体験学習の再開情報を共有し、今後の動きにフィードバックする	ア)但馬地区：朝来中学校1年生福祉体験学習「アイマスクと車いす体験」(6月) イ)11月：竹田小福祉体験学習予定 ウ)次年度への準備(10～3月) エ)神戸地区：各区で「トライやるウィーク」の受入相談等共有(9～3月)	○
広報の充実・活用	HP、SNS等を活用した情報発信	①更新担当者のスキルアップ継続 ②更新内容を明確化各部会とも共同してHPの改良・更新を進める ③HPリニューアルの検討継続	①② ア)2022年度各施設事業所のHP担当者の確認実施、担当者からの相談対応継続(4～3月) イ)満足度調査等、HPの更新継続(4～3月) ③ ア)「おりこうブログ【RICOH】」でセキュリティ強化実施(9月)	○

第4期中期計画と推進策（人事労務危機管理推進部担当）

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
（正規） キャリアアップ推進	正規職員の就業体系再整備	①2023年度組織体制へのキャリアラダー	ア) 支援職、専門職、事務職の3ルートから管理職・経営職に至るルート（渡り含む）を検討 イ) 専門職系から経営職層を目指すルートが想定できず、当面は現行キャリアラダーを継続運用と判断	○
	賃金改善・給与体系再構築	①給与制度再検討	ア) ベースアップ等支援加算を原資として2023年4月以降の正規職員・嘱託職員のベースアップ（6,000円）を実現 イ) 学歴差の「歪み」整合に向けた初任格付け見直しを検討（継続課題）	◎
		②課長職務明確化と手当アップ	ア) 労基法41条の2の「管理監督者」定義に対して当法人課長の勤務実態並びに現行の課長手当額を踏まえた厚労省派遣特定社労士の判断は、管理監督者性は不完全 イ) 課長の「残業」時間調査を基に、経営諮問委員会による長時間勤務の是正取組みを推進してもらうように具申。第5期中計取組みに継続	△
	人事考課制度の拡充	①昇給への反映方法確立	ア) 人手不足の現状、育成制度の不十分さの現状を超える議論未実施	×
		②人事考課業務のクラウド化	ア) 日本経営人事評価 Navigator 導入運用で、当年度人事考課を実施	◎
	（準正規） 限定正社員等の多様な雇用形態の導入	新型正規の就業体系構築	①地域限定正規制度創設	ア) 「エリア正規職員」（但馬・神戸間異動なし）を制定、2023年4月施行 イ) 同就業規則制定
給与体系構築		①限定正規給与規程整備	ア) 正規職員給与規程に準拠して限定正規職員給与表を制定	◎
限定正社員制度の運用		①2023年度運用開始へ	ア) 2023年度限定正規登用応募者2名の選考を実施（1月）	◎
「非正規」職員の活用	時給単価の再構成	①職員賃金単価表改訂	ア) ベースアップ等支援加算を原資として2023年4月施行の時給日給新単価見直し、賃金単価表を制定	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
働き方改革の更なる推進	有給休暇取得の推進	①2022 年度平均有給取得率 70%	ア)年間を通じ毎月管理実施、2023 年度：71.0%（正規職員：66.4%、非正規無期雇用者：85.5%、非正規有期雇用者 74.7%）	○
働き方改革の更なる推進	時間外労働時間の実態管理と改善支援	①データ活用による月 45 時間超労働者ゼロ	ア)毎月管理実施、計画抵触見込み職員への個別指導を実施 イ)45 時間/月を超過者 1 名 3 か月あるも、個別指導 3 回実施後には 45 時間以下に改善	○
	WLB の更なる推進	①「表彰企業」認証への取組み（取組みテーマの設定と施設の選択）	ア)認証乖離事項をテーマにした「キックオフプロジェクト委員会」を設置、第 5 期中計での取組み計画策定 イ)男性育児休業促進をテーマにした管理職研修実施	○
	生産性向上への取組①（支援現場業務改善への取組）	①事例集の活用と取組み事業所の増加	ア)6/29 第 9 回中計実現会議で、自立センターひょうごの生産性向上取組みを発表	△
	生産性向上への取組②（ペーパーレスの推進）	①モデル事業所による取組 ②主要会議のペーパーレス化	ア)経営強化推進部報告参照	—
	第 2 回職員意識調査の実施	①課題の発見と対策の協議	ア)5 月「職場環境等に関する職員意識調査」集計報告（仕事と生活センター） イ)全体施設長会議（7 月）、役員懇談会（12 月）で報告 ウ)第 5 期中計掲載	◎
働きやすい職場環境改善とアピール（ユースエール・くるみん・えるぼし認定）	女性の活躍推進に関する取組の実施	①女性管理職比率基準 41.5%への検討	ア)兵庫県男女共同参画センター主催の女性活躍関係研修に中堅女性職員を参加派遣	○
	次世代育成支援に関する取組の実施	①男性育児休業 10%への取組み	ア)相談窓口設置 イ)管理職向けリモート研修会開催	○
管理者育成	施設長コースの設定・運用	①候補者選抜と育成	ア)SMBC コンサルティング社 Web 研修導入、毎月受講レポート共有 イ)職務職能基準及び育成プログラムは未着手	△
法人経営者選抜育成	経営諮問委員会制度の	①実践的運用を深める	ア)常任理事が提案する法人の重要課題の審議が定着	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
	活用	②常任理事会との共働	ア) 執行機能までには未到達	△
	経営者コースの運用	①推進部の協働強化と 2023 年体制（構造）の検討	ア) 当年度の推進部協働は、「理念・QOL（処遇困難例）」、「地域・人事労務危機管理（災害BCP）」のみ実施 イ) 第 5 期中計策定に際して経営層の若返りを提唱し、新体制構築の糸口を創出	○
人手不足解消	「人事部」の創設	①推進部一体協議（職員育成推進部との連携）による働き甲斐向上	ア) 推進部協調取組みは未実施 イ) 人手不足対策として特定技能外国人介護労働者受け入れを提唱、支援	△
コンプライアンス意識の強化	不良事態対応体制強化	①ハラスメント防止研修会開催	ア) 施設長向け研修(7 月)、課長向け研修(10 月)を開催	◎
	内部統制チェックの実施	①監事監査との並行で内部統制チェックを実施	ア) 監事監査との並行実施を提案するも監事意向で理事主導での推進方向へ イ) 期中内部監査を内部統制チェックリスト観点で実施	○
危機対応を体系化する取り組み	新型コロナ対策の強化	①対策本部と協働して BCP 策定	ア) 新型コロナ対策本部が、前年の神戸愛生園クラスター等を踏まえて、4/25 に 6 項目の安全管理の取組方針を示したうえで、それらを実施	○
	法人 BCP 策定	①地域貢献推進部の BCP 策定取り組みと連携	ア) 7 月、地域貢献推進部合同会議で同部から入所・通所・相談系事業所災害 BCP モデル案説明 イ) 同部が 8 月実現会議、12 月役員懇談会でモデルを発表説明	○

### 3. 主な式典

#### (1) 辞令交付式

2022年4月1日(金)今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、但馬地区(但馬総合事務所)、神戸地区(神戸聖隷オアシス)に分かれてオンラインにて開催しました。新採用職員17名(うち登用者10名)、昇任者10名、異動者3名(課長3名)に辞令を交付しました。開会礼拝では、和田山地の塩伝道所小西直人牧師から「共にあるということ」との題でメッセージをいただきました。

#### (2) 創立47年記念式典

2022年6月22日(水)辞令交付式と同様に、但馬地区(但馬総合事務所)、神戸地区(神戸聖隷オアシス)に分かれオンラインにて開催しました。開会にあたって、2021年4月2日～2022年4月1日の間にご逝去された49名のご利用者、そして1名の元法人役員を覚え、永眠者記念礼拝をもちました。その後に神戸地区は水野理事長から、但馬地区は吉田常務理事から永年勤続者に表彰状と記念品が授与されました。対象者は、勤続10年表彰者23名、20年表彰者8名、30年表彰者9名、合計40名です。また、多額のご寄付に対して、1個人に感謝状を授与しました。

### 4. 主要会議

#### (1) 評議員会

##### ア) 第133回定時評議員会(2022年6月18日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③役員及び評議員の報酬等に関する規程別表の一部改定の件、(報告①)2021年度事業報告の件、(報告②)2021年度計算関係書類及び財産目録の報告の件、(報告③)2021年度計算関係書類に係る独立監査法人の監査報告の件、(報告④)2021年度事業報告及び計算関係書類に係る監事監査結果の報告の件、(報告⑤)2021年度期中監事監査の記録の件、(報告⑥)2022年度会計監査人による監査計画等の件、(報告⑦)2022年度役員賠償責任保険加入の件、(報告⑧)身体拘束に関する認識について(刑法並びに人権の観点から)、(報告⑨)社会福祉充実計画(2017年度～2021年度)の総括

##### イ) 第134回評議員会(2023年1月21日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③理事選出の件、(報告①)第5期(2023年度～2025年度)中計計画策定の件、(報告②)法人事業のご案内(DVD)の件

#### (2) 理事会

##### ア) 第222回理事会(2022年4月14日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③神戸市市有財産の土地・建物の賃料発生に伴う定期借地権設定契約ならびに定期建物賃貸借契約の件、(報告①)2022年度主要会議開催予定(2023年3月理事会日程変更)

##### イ) 第223回理事会(2022年6月2日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③定時評議員会に報告する2021年度事業報告(案)の承認の件、④定時評議員会で報告する2021年度計算関係書類及び財産目録の承認の件、⑤定時評議員会に報告する2021年度事業報告及び計算関係書類に係る監事監査結果の承認の件、⑥定時評議員会で承認を求める2022年度会計監査人選任と

監事同意の件、⑦役員及び評議員の報酬等に関する規程別表の改定の件、⑧定時評議員会の開催の件、⑨新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応助成金の活用による特別有給休暇の対象期間追加の件（就業規則等の改定）、（報告①）社会福祉充実計画（2017年度～2021年度）報告の件、（報告②）財務辞令発令の件、（報告③）寄付金受入報告の件

ウ)第 224 回理事会（2022 年 6 月 18 日）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③ひょうごデイサービスセンター多機能型障がい者デイセンターひょうご就労継続支援 B 型の利用定員変更の件

エ)第 225 回理事会（2022 年 10 月 4 日）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③北但広域療育センターの指定管理更新の件、④グループホームふくだ実地指導による改善報告書の提出の件、⑤新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応助成金の活用による特別有給休暇の対象期間追加の件（就業規則等の改定）、⑥元法人職員からの損害賠償請求の件

オ)第 226 回理事会（2022 年 11 月 17 日）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③さくらの苑 2022 年度福祉機器整備計画の原資としての介護業務における労働環境改善支援事業（介護ロボット補助金）申請書提出の件、④神戸地区マイクロバス送迎（3 施設共同運行）委託事業者変更の件、⑤2022 年度に 60 歳に到達する部長の嘱託契約締結の件、⑥新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応助成金の活用による特別有給休暇の対象期間追加の件（就業規則等の改定）、⑦-1 給与規程等の一部改定の件（福祉・介護職員等ベースアップ等支援加算ならびに介護職員等ベースアップ等支援加算を原資としたベースアップについて）⑦-2 給与規程等の一部改定の件（正規職員・嘱託職員の処遇改善手当の月額支給への変更について）、⑧限定正規職員制度の創設の件、⑨第 5 期（2023 年度～2025 年度）中期計画策定の件、（報告①）2022 年度上半期事業報告、（報告②）2022 年度中間決算報告

カ)第 227 回理事会（2022 年 12 月 6 日）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③理事退任の件、④後任理事選出の件、⑤第 134 回評議員会の招集事項の決定の件、⑥神戸光生園就労移行支援事業廃止及び多機能型（就労継続支援 B 型・生活介護）定員変更の件

キ)第 228 回理事会（2023 年 1 月 21 日）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③-1 さくらの苑インカムシステム整備事業に係る指名競争入札業者選定の件、③-2 第 3-1 号に係る予定価格決定の件

ク)第 229 回理事会（2023 年 3 月 15 日）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2022 年度第 1 次補正予算案の件、④神戸聖隷福祉事業団 第 5 期中期計画（2023～2025 年度）の承認の件、⑤2023 年度事業計画案の件、⑥2023 年度予算案の件、⑦嘱託施設長契約締結の件、⑧2023 年度施設長級人事の件、⑨法人推進体制変更に係る規程等改定の件、⑩嘱託職員就業規則一部改定の件、⑪評議員選任・解任委員会運営規則改定の件、⑫評議員候補者推薦の件、⑬真生園新館空調改修工事の件、⑭真生園新館特殊浴槽入替の件、⑮ 2023 年度神戸市立中部在宅障害者福祉センター建物等管理業務委託の件、⑯2023 年度資金運用の件、⑰資金運用委員の任命の件、⑱役員賠償責任保険加入の件、（報告①）2022 年度期中監事監査報告、（報告②）さくらの苑インカムシステム整備事業入札結果報告

(3) 第4期中期計画実現会議

7) 第1回実現会議（2022年6月29日開催）

「創造成果報告」をテーマにWEB会議方式で、理事、施設長、課長の参加にて開催。各施設の第4期中期計画の成果報告を課長が行った。

8) 第2回実現会議（2022年9月28日開催）

「法人の経営戦略」をテーマにWEB会議方式で理事、施設長、課長の参加にて開催。①BCP対策について（加藤理事）、②創業50年を迎える組織体制について（水野理事長）、法人5中計の経営戦略マップについて（吉田常務）、それぞれ説明が行われ、質疑応答を行った。

9) 第3回実現会議（2022年12月21日開催）

「私たちが第5期中計で実現すること -4期成果を踏まえた5期計画報告-」をテーマにWEB会議方式で、理事、施設長、課長の参加にて開催。各施設の5期中期計画の説明が行われ、質疑応答を行った。

10) 第4回実現会議（2023年3月29日開催）

「推進部の取組みを振り返る そして5中計委員会を展望する」をテーマにWEB会議方式で理事、施設長、課長の参加にて開催。3、4期中期計画の振り返り報告を推進部が行い、5中期計画を推進する各委員長と常務理事との座談会を開催し、質疑応答を行った。

## 5. 新型コロナウイルス感染症対策本部活動報告

(1) 6波クラスター対応の反省からの対策本部の行動の明確化と実践

2021年度事業報告のとおり、2022年初来複数の入所施設でクラスターが発生して計4名の死者を出したことから、対策本部はクラスター再発防止に向け以下の取り組み方を全職員へ明示し取り組みました（4/25）。

- ① クラスター下で法人職員が感得した知識・経験、成功例の文字化と周知
- ② クラスター経験に基づく研修の実施
- ③ 防護物資の調達と保管管理のシステム整備
- ④ 保健師、感染症管理認定看護師等との繋がりを持ち続ける
- ⑤ 緊急時の感染症対策の応援と治療がいただける医師との嘱託契約の打診
- ⑥ 情報発信

クラスター化がご利用者に及ぼす影響は、いわゆる重症化の可能性の高い方が利用する入所施設及び高齢者事業所で圧倒的に大きいことから、上記の行動の実践は入所施設と高齢者事業所に対して進め、実績を上げました。特に、神戸明生園山本施設長及び神戸愛生園加藤施設長により、但馬の全入所施設で実施されたクラスター発生時の初動訓練は、二人の施設長による研修施設現場でのゾーニングプランの提案とクラスター発生時のPPE物品コーナーの配置ポイントの提案を含め有意義で、但馬地区職員の意識を高めることができました。なお、自立センターひょうごでは通所事業所のクラスター経験の記録、今後への知見としてのとりまとめも行いました。

④のうち看護協会のリソースナースによるスタンドプリコーション研修派遣に関しては、看護協会に適時依頼を続けていましたが、第7波の拡大の影響で日程がのびのびとなり1月によりやく但馬地区において実施することができました。

⑥の具体的内容は、従来は対策本部にのみ送信していた各施設・事業所での感染者等の発生状況を、個人情報保護に留意して、施設長・所長レベルで共有する仕組みとしたわけで

すが、③のPPEの機動的な流通システムと合わせて、新たな発生状況への全施設対応（地区別）がスムーズになっています。⑤の医師との連携に関しては、嘱託医及び協力医に対して施設利用者が医療機関に入院することができないことを前提に、施設内での脱水補正、また流通並びに処方可能なコロナ薬の処方について協議をするなどにより、緊急時の医師の診断が受けられるように備えております。

## (2) 4回目、5回目ワクチン接種及び施設従事者に係る抗原定性検査

4回目については6月中旬から、5回目は11月下旬以降から協力医等の手で施設入所者へのワクチン接種が進められました。入所利用者への接種は医療上の理由で出来ない方以外は接種できています。通所施設においても可能な限り施設内での集団接種の実施や個別接種の支援を行うなどワクチン接種の推奨に努めました。職員の接種状況については、風潮を反映してか、あるいは副反応を心配してか、3回目までと比較して特に神戸地区で避ける者も多くなっている状況がみられました。また、インフルエンザの同時流行への対策としてインフルエンザの予防接種について職員の積極的な接種推奨のため予防接種に係る費用の補助を昨年度に続き継続しました。

6月下旬から、施設職員の定期的集中検査のための抗原検査キットが兵庫県、神戸市から一定量（1週に2回まで）が供給されることとなり、濃厚接触者となった職員の待機の解除時等にも活用が認められ、機動的に活用しました。しかし、就業前の検査では陰性であっても就業後に発熱等の症状が現れるケースや検査で陽性が確認されるが全く無症状であるためそれまでの数日間は勤務をしていたケースなどがみられ、完全に防止することは難しく対応に苦慮することがありました。

## (3) 第7波～第8波クラスター

7月以降の第7波の広がりですべての施設・事業所から大なり小なり感染者等の情報が入り、8月の神戸地区施設連絡会（施設長会議）には半数の施設長しか集まらないような事態になってきました。対策本部は連休や夏休み・お盆前に会食等の行動注意喚起を发出しているものの、今般の感染拡大期には家族やお子さんからの感染が非常に多く、職員も家庭等を通じて社会とつながる生活をしていることを強く感じさせられました。

その中で、6月にグループホームせいれいやまでで初発の感染者の確認後、自室で待機することが難しいご利用者が多く、ゾーニングによる感染拡大防止の対応を図ることが困難であったため、ホームで待機していた6名中5名が感染し、自宅に帰省した方と合わせてご利用者10名中6名が感染しました。

ワークセンターわかまつでは7/11以来の感染拡大でクラスターが発生しました。感染者数12名（利用者11名、職員1名）、事業所休業期間 7/13～7/19。休業中は職員の知見を総動員して、かかりつけ医と直接相談するなどご利用者並びに家族の在宅支援を提供しました。

8月、神戸明生園でクラスターが発生しました。最終感染者数21名（利用者17名、職員4名）で、通所事業は暫時休業せざるを得ませんでした。前回の経験もあって敏感に感染防御の態勢を敷いて神戸明生園では感染拡大を一つのユニットに抑えることができましたが、職員が濃厚接触者等となって勤務ができなくなる事態も同時進行したため、神戸地区で1名の応援職員を派遣しました。ご利用者1名が夜間往診で点滴を受けるレベルになりましたが、4回目ワクチンの効果か、マスクのできない陽性者がおられる中でも重症化は防ぐこ

とができ、概ね施設長のコントロール下で正常化に向けた行動をすることができました。

8/29 に高齢者グループホームわらしべで、にわか感染が拡大して定員 18 名中 13 名のご利用者、職員が次々と罹患していきました。支援現場へは但馬近隣施設から順次 3 名の応援が入ることになりました。法人外の医療機関にかかりつけのご利用者 2 名が点滴を受けるレベルになりましたが、すべてのご利用者は重症化されることなく 9/20 に正常化することができました。

しかし 11 月以降の第 8 波の拡大により年末、年始にかけて和生園（第 2 和生園、GH かしの木・もみの木を含む）でご利用者、職員合わせて 22 名が罹患するクラスターが発生しました。また、神戸聖生園では職員の感染拡大により職員体制の確保が困難となり約 1 週間休園せざるを得ない状況となりました。その他の施設においてもクラスターにまでは至らずともご利用者、職員に感染が相次ぎ、如実に第 8 波の影響が感じられました。神戸地区においては特にグループホームで感染者が出た場合にその後の対応について当該のグループホームに留まらず、日中利用をしている複数の事業所へもその都度影響を与えることとなり、多くの事業所で感染の拡大を抑制することに注力することが度々ありました。

#### (4) 続けざまに出てくる国の取り扱い変更と規制緩和

7/22 に政府は濃厚接触者の待機期間を短縮し、また 9/7 からは陽性患者の療養解除基準が緩和（短縮化）されました。特に、前者が人々へゆるみを与えたような印象を受けつつ、クラスター等の対応においてこれが救いになった面もあります。

一方で、無症状陽性患者の場合は「感染リスク」からハイリスクと言われる入所ご利用者への接触は避ける政府の注意もあることから、勤務再開後のご利用者との接触を 10 日間が経過するまではしないようにとの指導も行いました。

2023 年の 1 月以降にはさらに規制が緩和される方向に進み、2/10 付の厚生労働省より発信された「令和 5 年 3 月 13 日以降のマスク着用の考え方について」では 3 月 13 日以降のマスクの着用は基本的に個人の判断に委ねられることとなりました。しかし同時に感染による重症化リスクの高い方が利用する医療機関や社会福祉施設等については引き続きマスクの着用を推奨することが明記されているためそれに基づき、職員に対して業務中のマスクの着用を求める文章を全施設に配信し、社会全体が緩和の方向に進みつつあるなかであって改めて感染防止の意識と行動を徹底することを求めました。

#### (5) 職員派遣

12 月に兵庫県身体障害者支援施設協議会より同協議会所属の他法人で発生したクラスター対応のため職員の派遣要請が神戸愛生園にあり、同園より職員 1 名を派遣しました。（神戸愛生園は昨年度末にクラスター発生した際に同協議会より職員派遣を受けています）また、1 月に神戸市北区保健所主催の感染症実務者研修会で神戸明生園山本施設長が同園でのクラスター発生時の協力医との連携について事例報告をしました。

#### (6) 2022 年度 法人内感染者数

2022 年度の法人内関係者の新型コロナウイルス感染症発生状況は陽性となったご利用者は 324 名、職員 218 名で濃厚接触者となったご利用者は 130 名、職員 134 名でした。

## 6. 出来した事案

2022 年度に出来した法人本部が危機管理上関与すべき事柄は以下の通りでした。

- (1) 虐待が疑われる支援行為事案：なし
- (2) 利用者事故事案：なし
- (3) 利用者間トラブル：なし
- (4) 支援体制への苦情：なし
- (5) パワハラ通報事案：なし
- (6) 苦情事案；なし
- (7) 利用者金銭にかかわる事件・事案：なし

## 7. 地域貢献・交流

(1) 各施設の事業計画「地域貢献の視点」の実施状況

(但馬地区)

### ・ 恵生園

- ・ あったかプラザ：市民・利用者作品展示（4・5・6・7・8月）
- ・ あったかプラザ：検討会議実施（4・6・9月）
- ・ あったかプラザでイチゴ苗栽培～収穫提供（4・5月）
- ・ あったかプラザ来訪者アンケート実施（5・6月）

### ・ 真生園

- ・ 竹田地域の散策と店舗利用外出支援実施（6月）
- ・ 地域移動販売利用や地域へ施設作成物の提供（5・6・7・8月）
- ・ 機関誌の作成委員会実施（5・6・8月）
- ・ Facebook 記事送信（7月）

### ・ 和生園

- ・ 地域清掃活動実施（4・5・6・7・8・9月 毎週火曜日）
- ・ 地域の資源ごみ回収協力（車両とコンパネ提供と職員協力 5/29 実施）
- ・ 地区行事への協力準備と実施（4・5・6月）
- ・ 朝来市民一斉クリーン作戦に合わせて園周辺の除草作業実施（6/2）
- ・ 朝来市自立支援協議会参加（認定審査会出席 4・5月）

### ・ 平生園

- ・ 「せいいい介護者のつどい」職員派遣調整（6・7月）実施も開催中止（9月）
- ・ 認知症サポーター（キャラバンメイト）講師の養成：未実施
- ・ フェイスブック・ホームページ更新実施（4・5・6月）
- ・ 機関誌「ひなたぼっこ」作成委員会実施（4・7・8月）と発行（9月）
- ・ 新規ボランティアの開拓と定着：未実施

### ・ さくらの苑

- ・ 地域貢献委員会「地域を学ぶ勉強会」の開催と研修会への参加（4・5・6・7・8・9月）
- ・ 「地域を知るためのマップ作り」サブ委員会（4・5・6・7・9月）
- ・ 「地域サポート施設」からサブ委員会等開催（4・5・6・8・9月）
- ・ さくら新聞発行準備（5・6月） 6/21 発行（配布）
- ・ 上町ミニデイ参加、（4・7・9月）ケーブルテレビ取材と撮影（9月）

### ・ わらしべ

- ・こども園・小学校交流・地域ボランティアの受入：未実施
- ・ホームページ・フェイスブックデータ更新（4・5・6・7月）
- ・機関誌編集委員会実施・原稿作成（7・8月）
- ・地域行事への参加：主だった地域行事は中止
- ・キャラバンメイト連絡会への出席：依頼無し
- ・北但広域療育センター
  - ・関係機関、地域へ講演会・研修会の情報収集と開催（4・5・6・7・8・9月）
  - ・放課後等デイサービス事業所等へのコンサルテーションの実施（4・5・6・8・9月）
  - ・ホームページ検討と更新（4・5月）・発信方法検討（7・8月）
  - ・市内事業所への情報発信方法の検討（パンフレット更新）（6・7・8・9月）
  - ・関係機関からの情報収集・ニーズ整理と協議（4・5・6・7・8・9月）
  - ・事業展開に向けた組織体制検討と市町との協議（6・7・8・9月）
- ・エスポワールこじか
  - ・依頼に応じて園校訪問・療育参観の実施（6・7月）
  - ・養父市・朝来市・香美町自立支援協議会へ参画（6・7・8月）
  - ・養父市・朝来市・香美町委員会・協議会への協力（5・6・7・8月）
  - ・ホームページ活用内容検討（4・5・6・7・8月）
  - ・こじか便り毎月発行（4～9月）

（神戸地区）

- ・神戸聖生園
  - ・「花のプランター」歩道沿い設置・配布（4・5・6・7・8月）
  - ・ゴミステーション清掃作業実施（4・5・6・7月）
- ・神戸愛生園
  - ・おいでやすカーニバルの準備～開催（5・6・7・8・9月）
  - ・福祉避難所としての環境整備実施（4・5・6・7・8・9月）
  - ・フェイスブック・インスタグラム更新（4・5・6・7・8・9月）
  - ・機関誌「神愛」作成・発行（5・6・7月）
- ・きたすま障害者相談支援センター
  - ・制度の狭間、生きづらさを抱えた方へ対応、事例共有開催（4・5・6・7・8月）
  - ・須磨区自立支援協議会の運営（全体会・運営委員会開催 5・6月）
  - ・就労支援部会 定期部会開催（7月）
  - ・すまいんど部会 定期会議・活動実施（4・5・6・7・8月）
  - ・まなぼ一部会 定期部会開催（7月）
  - ・ともいき部会 定期部会開催（4・6・8月）
  - ・親子部会 定例会（5・6月）サポートブック「すまっこナビ」広報チーム会議（4月）  
「すまっこナビ」説明会準備と実施（6・7月）
  - ・相談支援部会 合同相談支援部会（6・7月）定例会（5月）
  - ・発達の気になる子を持つ保護者向けグループピアカウンセリング実施（4・5・6・7月）
  - ・ほっとかへんネットすま 役員会、実務者会、コア実務者会出席（5・6・7・8月）
- ・神戸聖隷総合相談センター
  - ・「Tunagari～あつまり処」運営（4・5・6・7・8・9月）

- ・北須磨・多井畑東地区民生児童委員会へ調整と参加(6・7月)
- ・フードバンク拠点取組(6・7・8月)
- ・神戸友生園
  - ・青陽須磨・いぶき明生特別支援学校進路担当責任者と面談実施(7月)
  - ・神戸総合医療実習オリエンテーション(5月)
  - ・須磨区自立支援協議会「すまるしえ(作品販売会)」参加(7・8月)
  - ・須磨区自立支援協議会「すましあ(合同販売会)」実行委員会出席(5・8月)
  - ・おいでやすカーニバル実行委員会出席(5・6・7・8)
- ・神戸光生園
  - ・ミニバザーを通して地域交流実施(4・5・6・7・8月)
  - ・防災イベント企画と広報(4・5・6・7・8月)
  - ・福祉避難所機能充実(4・5・6・8月)
- ・神戸明生園
  - ・しあわせの村医療福祉部会との連携(7月)
  - ・シルバーカレッジの取り組み「再エネパーク構想調査」協力
  - ・市民福祉振興協会「軽度認知症者の就労的活動調査」協力
- ・ワークセンターひょうご
 

(神戸市障害者就労推進センター・神戸障害者就業・生活支援センター)

  - ・障害者雇用就業・定着拡大推進事業)
  - ・地域の人々との関係構築年間計画確認(4月)活動中止(7月)
  - ・地域清掃活動計画確認(4月)
  - ・中部ネットワーク会議 打合せ実施(4月)、会議開催延期(8→12月)
  - ・6者会の開催 連絡調整会議(4・5・6・8・9月)
  - ・就業支援基礎研修 計画確定と準備(4・5・7月)
- ・ひょうご障害者相談支援センター
 

(神戸市基幹相談支援センター・発達障害者中部相談窓口)

  - ・身体知的相談員連絡会開催(6・8月)
  - ・ほっとかへんネット研修参加とプロジェクトチーム定例会議出席(5・6・8月)
  - ・発達障害者の理解と啓発、代替え案計画(6・8月)
  - ・災害時要援護者支援(障害者支援センターとして避難訓練等)の実施(7・8月)
- ・ひょうごデイサービスセンター
  - ・市社協ワークキャンプ依頼 プログラム検討(4・5月)
  - ・トライやるウィーク受入アンケート回答(6月)
  - ・兵庫大開小学校「まち探検」提案受入検討(6月)
  - ・吉田中学校からトライやるウィーク協力依頼(7・8月)
  - ・須佐野中学校・兵庫中学校トライやるウィーク打合せ実施(8月)
  - ・葺合高等学校ワークキャンプ担当者に施設見学提案(8月)
- ・自立センターひょうご
  - ・大規模改修に向けた神戸市へのアプローチ(4月)
  - ・活動スペースの見直し・整備・施設内美化活動(4・5・6・7・8月)
  - ・よつば寄席開催企画と同時開催イベント検討(4・5・6・7・8月) 対策付実施(7月)
  - ・月1回の地域清掃実施(4・5・6月)

- ・ワークセンターわかまつ
  - ・大正筋商店街企画参加 神戸まつり代替イベント (5月)夏祭り臨時営業(8月)
  - ・神戸商店街, 小売り市場, お買物券「こうべでこうて」参加(7月)
  - ・認知症カフェの実施(4・5・6・7月)
  - ・ホームページわかまつ通信準備と発行(6・8月)
- ・せいれいやさかだい
  - ・地域活動を中心とした年間行事計画作成 (4月)
  - ・北須磨団地自治会地域清掃日に友が丘事業所周辺・友が丘敷地清掃実施(6月),
  - ・北須磨団地自治会「すくすく喫茶」利用者・職員で参加(5・6月)
  - ・北須磨団地地域福祉センター卓球施設利用 (7・8月)
  - ・地区民生委員会に施設長・課長陪席 (7月)
  - ・友が丘事業所周辺の地域清掃・講演内グラウンドの水まき実施 (8月)
  - ・事業所ビル(林タオル)周辺の除草・清掃実施(4・5・6・7月)
  - ・事業所ビル(シミズ)周辺の除草・清掃実施 (4・6月)
  - ・北須磨団地自治会「安心安全コミュニティ像の集い」施設長代表参加(8月)

## 8. 広報他

### (1) 機関誌「洗足」発行

#### ア) 第30号 (2022年11月16日)

①巻頭言、②クラスター下における支援への感謝、③特集 04「全人的存在として生かされる」入所施設の支援の現状と課題～身体拘束解消の取組みを通じて～、④事業報告、⑤決算報告、⑥常務のぼやき、⑦竹田城下町中サイエンスキャンプご報告、⑧こどもの未来プロジェクトご寄付受領の報告、「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」認定報告、⑨牧師メッセージ

#### イ) 第31号 (2023年3月17日)

①巻頭言、②第4期中計計画報告、③特集 05「全人的存在として生かされる」相談支援事業の現状と課題～相談支援を通じて地域生活支援に向き合う～、④常務のぼやき、⑤ワークセンターひょうごの再編、⑥おいでやすカーニバル、⑦牧師メッセージ

### (2) Facebook と Instagram による各施設と各部会の情報発信

「私の成長」や「今の仕事を通して取り組んでいること」を中心に、2023年3月末までに両SNSで合わせて192回の投稿を実施。登録者数686人。

### (3) 職員報「KOBE SEIREI」発行

#### ア) vol.9 (2022年8月1日)

①理事長からのエール、②特集「施設奮闘記」神戸聖隷めぐみ・神戸聖隷オアシス、③職員のページ(神戸聖隷の人々特別編!・牧師先生からのメッセージ)

#### イ) vol.10 (2022年12月1日)

①理事長からのエール、②特集「スタッフの日々」、③ワークライフバランス認定について、④職員のページ(神戸聖隷の人々・牧師先生からのメッセージ・法人紹介 phot、編集後記)

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
成年後見制度活用推進委員会  
運営責任者 伊崎 辰夫

成年後見制度活用推進委員会は、「制度の理解促進及び普及、ご家族への提供」を目的に各施設の支援課長を中心に活動をしています。今年度は、コロナ禍における対応等のため足並みが揃わず委員会としての目的達成には至らなかった点多々ありますが、以下のとおり活動の報告をいたします。

### (1) 成年後見制度活用推進委員会開催

- 第1回（5月9日：リモート開催）聖泉社会福祉士事務所 高橋先生による勉強会
- 第2回（7月11日：リモート開催）聖泉社会福祉士事務所 高橋先生による勉強会（最終）
- 第3回（9月12日：リモート開催）法人後見についての話し合い
- 第4回（11月14日：リモート開催）今後の委員会活動についての話し合い
- 第5回（3月20日：リモート開催）NPO法人成年後見・こうべきずな高野氏による講演

### (2) 活動報告

- ①育成の視点：今年度は、聖泉社会福祉士事務所 高橋先生の法人後見に関する勉強会とNPO法人成年後見・こうべきずなの高野氏による講演を実施しました。但し、その後の方向性についての検討会、各事業所で関った事例を用いての事例勉強会の継続などは実施できませんでした。次年度以降の、委員会の活動として検討していきます。
- ②啓発の視点：今年度、みまもり通信の発行及び、啓発のためのスローガンは3か月おきに配信しました。家族に成年後見制度をわかりやすく伝えるためのシリーズ第3回目（最後）の発行、相談窓口の周知、ホームページなどの活用の検討は実施できませんでした。
- ③推進の視点：法人後見について、NPO法人成年後見・こうべきずなの高野氏による講演から、法人立ち上げの実際や運営の実務面について伺う機会を持ち、利益相反から法人が主体的な運営を担うことは出来ませんが、自立した組織として動けるように立ち上げまでを担うことは可能だと思いました。但し、ボランティアベースでの運営が必須となり、人材確保など多くの課題もあると感じます。講演やこれまでの2年間の勉強会を振り返り、検討した結果、現時点では、利益相反や人的・物的な観点から実現は難しいと判断しています。このようなことを踏まえたうえで、ご利用者やご家族にどれだけの必要性があり、現状でそれに応じていくことができているのかということについては、行政の動向も見据えながら、今後も検証の必要性があると思われれます。

### (3) 研修担当報告

近年、ご利用者、ご家族、職員向けにテーマを決めて研修を行ってきましたが、コロナ禍もあり両地区とも研修実施には至りませんでした。但し、神戸地区では主体的に各事業所で研修が行えるように、説明文を作成するなど担当者間で定期的に打合せを行い、研修シートを作成しました。次年度は各事業所で必要な人に研修が行えるように取り組んでいきます。

(4) 活動実績調査表

2022年度 神戸聖隷福祉事業団 成年後見制度推進活動実績調査																				
【神戸地区】																	調査実施日		2023年3月	
事業所名	担当者	2022年3月31日の状況						2023年3月31日の状況						各事業所の実態（今見えている状況）						
		利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	2022年4月～2023年3月に後見等が終了した	制度活用 の必要性 がある方	特に 緊急性を 要す人	特記事項	成年後見の必要性 (職員見立て)		
																			2022年4月～2023年3月に後見等が終了した	制度活用 の必要性 がある方
1	神戸聖生園 (GH含む)	岩城 州吾	62	5	0	0	0	5	62	5	0	0	0	5	0	1	1			
2	せいいいやさかだい	北場 恒彦	40	8	2	0	0	10	37	7	2	0	0	9	0	5	2	緊急性として、家族の高齢化が最も多い。また、社会生活を送る上で、問題となる報告を受けている方には、早急にかかと考える。		
3	神戸愛生園	山崎 浩司	49	16	2	0	4	22	46	17	2	0	3	22	1	9	1	本人の判断能力が低下した方で、身寄りの判断能力に低下が見られる方に緊急性を感じている。		
4	神戸友生園	津々木謙一	45	1	1	0	0	2	43	1	1	0	0	2	0	1	0			
5	神戸光生園 (GH含む)	大川 博啓	102	10	1	0	0	11	96	10	1	1	0	12	0	14	3			
6	神戸明生園 (GH含む)	岩本 康則	76	25	0	0	0	25	75	25	0	0	0	25	1	7	1	ご本人が高齢、単身のため緊急を要している。		
7	ワークセンターひょうご	畑中 浩成	12	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0			
8	自立センターひょうご	佐原 義人	64	5	1	0	0	6	60	3	1	0	0	4	0	3	0			
	多機能型 デイセンターひょうご	宮本裕佳子	81	5	2	1	0	8	75	5	2	1	0	8	0	10	4	ご夫婦で利用されている方の世話人が高齢になり、今まで通りのことが出来なくなっている。財産管理等を第三者の後見人に委ねていく必要性を感じている。全体的に歳が高齢になり、財産管理、身上監護共に難しくなっている。		
9	インクルージョンひょうご	宮本裕佳子	17	1	0	0	0	1	18	1	0	0	0	1	0	2	0	両親が高齢で、兄弟がいても別世帯。今後を見据え後見制度の必要性を感じている。		
10	ワークセンターわかまつ	服部まゆみ	39	2	0	1	0	3	38	3	0	1	0	4	0	15	7	ご両親のどちらかが認知症であったり、介護が必要な方や、片親の方、親が高齢などについて必要性を感じています。		
			587	78	9	2	4	93	568	77	9	3	3	92	2	67	19			
11	きたすま障害者相談支援センター	三木 卓也	554	8	6	0	1	15	523	11	9	0	1	21	0	14	2	※申立て手続き中1名		
12	神戸聖隷総合相談センター	三木 卓也	302	18	1	1	1	21	309	20	4	1	0	25	1	17	7			
13	ひょうご障害者相談支援センター	板間 悦子	764	3	4	5	0	12	757	3	4	5	0	12	0	3	1	知的で単身生活者、家族も亡くなり今後の生活に不安があるケース、知人男性から金銭採取を受けているケースもあり、制度利用が望まれる。		
※支援センターは相談内容から必要と思われる数を挙げる			1620	29	11	6	2	48	1589	34	17	6	1	58	1	34	10			
【但馬地区】																				
事業所名	担当者	2022年3月31日の状況						2023年3月31日の状況						各事業所の実態（今見えている状況）						
		利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	2022年4月～2023年3月に後見等が終了した	制度活用 の必要性 がある方	特に 緊急性を 要す人	特記事項	成年後見の必要性 (職員見立て)		
																			2022年4月～2023年3月に後見等が終了した	制度活用 の必要性 がある方
14	恵生園	嵯峨山泰弘	67	7	5	0	3	15	67	6	5	0	3	14	1	4		家族、親族が制度利用に関してのご理解が得られにくい		
15	真生園	中島 竜太	60	6	1	0	0	7	60	6	1	0	0	7	0	3		ご家族から制度利用の相談を受け、いずれも司法書士に相談を行った。緊急性を要さない案件にて申立てについては保留となった。		
16	和生園 (GH含む)	山根 由夫	39	1	0	0	1	2	40	1	0	0	1	2	0	10	1	<和生園> ・ 家人による金銭管理が疑わしいと思われるケースが有るが確認はなし。制度利用を含めた対応が必要な方であるが、慎重にならざる得ないケース <GH> ・ 69歳女性利用者 (DV被害) 一実兄との関係性は良好であるが、本人が将来を何処で過ごすのかと言う事によって、補助・補佐等活用を検討する必要性のあるケースあり <その他> ・ 現時点での後見制度等の活用がある方というより、今から後見制度の活用を進めておかないと将来的に困るであろうと推測する方が増えている状況 ・ 客観的に将来を見据えて後見制度利用について、推進委員と本人、家族の温度差は大きい(制度活用を行わなくても生活している現実と、本人・家族共に困っても何とかなっている現実がある為・・・)		
17	平生園	柴垣 奏二	60	1	0	0	0	1	60	1	0	0	0	1	0	0	0	昨年度から特に変わりはありません		
18	さくらの苑	越智 奏之	29	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0				
19	グループホームわらしべ	近藤 咲美	18	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	成年後見制度に関する相談無し		
20	北但広域療育センター	稲津 慎也	11	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0			
			284	15	6	0	4	25	287	14	6	0	4	24	1	17	1			

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸聖隷歴史資料館  
 管理者 久木田 憲彦

### 第4期中期計画のビジョン

**創始の熱い思いを全職員の心に響かせ、福祉に対する市民の理解を拓げるために活動します**

2022年度は、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響に加え、竹田町中の電柱地中化工事の影響を受け、広報活動が苦戦を強いられた1年となりましたが、以下のとおり活動の報告をいたします。

理念の視点では、ギャラリーの利用促進について、ギャラリー展示募集の広告に修正を施し、各施設・地域住民へ配布するとともに朝来市内で制作活動をされている教室へ募集案内を行いました。作品展示の申込みは年間4件いただきましたが、実際に展示していただけたのは1件にとどまり、また例年の真生園・恵生園の利用者作品展も今年は実施されませんでした。しかし、恵生園の放課後等デイサービスめぐみの利用者（児童）作品展を開催し、児童の活動を発信することは出来ました。

人材育成の視点では、さくらの苑職員が見学に来館され、法人の歴史について学びの機会を提供しました。

地域貢献の視点では、9月の中町区一斉避難訓練の際に指定緊急避難場所として協力いたしました。また、竹田城下町中サイエンスキャンプの開催において、会場場所や協力隊の提供を行い、地域の子供たちや親御さんに歴史資料館の存在を認知していただく機会としました。

### 1. 推進状況

#### (1) 理念の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
あったかプラザとの連携	①両施設にパンフレットの設置、広告を掲示	ア)両施設に展示関連の広告を掲示	○
	①両施設の担当者が情報を共有 ②出展者に互いの施設を紹介し、両施設で同様の展示を実施	① ア)互いの施設の展示情報を共有 ② ア)出展者に互いの施設を紹介し、両施設で展示を実施	△
ギャラリーの利用促進	①地域住民・関係者への広報活動 ②施設利用者の作品展を開催し、施設利用者の活動を発信	① ア) ギャラリースペースの広告作成 あったかプラザ、地域住民、朝来市内制作活動教室へ配布 イ)竹田城跡油絵展(7月末～9月初) ② ア)放課後等デイサービスめぐみ利用者作品展を開催(3月)	△

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
インターネットを活用した広報活動	①ホームページにて最新情報を発信 ②Facebook や Instagram を通して情報を発信	① ア) ギャラリースペース作品展示募集案内、作品展示情報を発信 ② ア) 未実施	△
映像コーナーに新しい映像を追加	①施設紹介の映像又は写真のスライドショーを追加 ②理念理解定着部会作成の DVD を追加	① ア) 未実施 ② ア) 「事業のご案内」 DVD 追加	△
工事関係書類・広報誌の管理	①工事関係書類（契約書等）、広報誌を適切に保存管理する	① ア) 書庫整理実施 イ) 各施設広報誌を収集・保管	○

(2) 人材育成の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
法人の歴史勉強会等の開催	①歴史勉強会・職員研修の開催の場を提供	ア) さくらの苑職員資料館見学（4月）	○

(3) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
地域防災への協力	①「指定緊急避難場所」として地域防災に協力	ア) 中町区一斉避難訓練（9月）	○
「但馬よろず福祉相談所」の利用促進	①相談体制（事業所間連携・相談バックアップ等）の構築 ②新たなチラシを作成し、地域住民への広報活動を行う	① ア) 未実施 ② ア) 未実施	×
場所の開放	①地域住民の皆様の集会・イベント等会場として場所を開放	① ア) 竹田町中サイエンスキャンプ実施（5月） 朝来市ケーブルテレビ取材 イ) 秋の竹田町中サイエンスキャンプ実施（11月）	○

2. 出来た事案

(1) 特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 平生園  
施設長 太田 敦子

### 平生園の基本方針

1. ご利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. ご利用者を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. ご利用者にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（生きる）施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

利用者とその方を取り巻く皆のしあわせを追及いたします。

### 2022 年度の事業報告について

上半期に思いがけない立て続けの退職により人材不足に陥り、支援の低下を防ぐために非常に苦慮した一年でした。人材は求人しても叶わず、急遽同じく人材確保に悩む真生園と一緒に特定技能外国人の雇用に向け6月に行動をスタートさせ、何とか2月にネパールより2名が着任。指導者を固定することでリーダーを中心としたユニット間での協力体制の構築と、さくらの苑のOTの協力を得た技術の指導、WEBによる日本語学習など初めてのことに戸惑いながらも「何とかなる」の思いで注力いたしました。

今年度の重点実施項目のQOLの視点、リスクマネジメント（事故防止）については、昨年度導入したICT機器のセンサーベッド、眠りスキャン活用（見守り機器）により介護事故、重大な病院受診等に繋がる事故が減少。また、看取り介護の充実についても、家族への看取り介護アンケート、デスクカンファレンスを実施し、看取りまでが支援の中に位置づけられ、家族と共に過ごすことやその期間が貴重な時である事を意識した丁寧な支援となっています。

また新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、施設内への持ち込みがなくご利用者への感染がゼロであったことは尊い命を守りご利用者、ご家族へ安心の提供ができご家族の面会制限への協力、職員の感染防止への意識などが実った成果だと感じています。

次年度は第5期中期計画となります。看取りの充実、ICT化については継続課題とし引き続きより良いサービス提供に向け努めていきます。

### 1. 事業概要

開設年月日：1991年11月11日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
特別養護老人ホーム（第1種）	介護老人福祉施設	60名	要介護高齢者	1991年11月11日
老人短期入所事業（第2種）	短期入所生活介護	空床型	要介護・要支援 高齢者	2013年4月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2022年度計画	上期実施状況	達成度
理念勉強会の開催	①地の塩伝道所牧師による上半期・下半期各3回(年6回)の勉強会を開催 ②理事長による講演(1回/年)	① ア)小西牧師による理念学習会実施(6月4名 7月4名 10月2名 11月2名 1月2名 2月2名参加)6回/年 実施 イ)職員会議時に小西牧師よりメッセージ(毎月) ②理事長講話実施(12月)	○
理念研修へ職員派遣	①キリスト教福祉基礎講座、法人理念研修等へ職員派遣(3名以上/年)	①キリスト教福祉基礎研修参加(10月、11月)延べ2名/年	△

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2022年度計画	上期実施状況	達成度
計画的な研修の実施と参加	①職員会議にて各学習会を開催(10回以上/年) ②外部研修参加者の年間計画作成と派遣実施 ③伝達研修の実施(職員会議)	① ア)職員会議にて学習会を実施(4~3月:10回) ② ア)年間計画作成。各月で案内があれば、職制会にて派遣者検討(4月) イ)ユニ・チャーム勉強会8名 感染症研修2名 BCP調査研究委員会研修2名 喀痰吸引研修1名 認知症基礎研修3名 日本語勉強会2名 ③感染症研修の伝達実施(1月)	△
エルダー制度の再構築	①エルダーを育成(1名/年) ②毎月の振り返り実施 ③書式(マニュアル)の作成および更新 ④外部研修などへ職員派遣	① ア)エルダーの育成開始(2名/9・12月) イ)外国人労働者の育成開始(2名/2月) ② ア)毎月の振り返り実施(1回/月) ③ ア)書式の更新(7・2月) ④未実施	△

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
ノーリフトケアの実践	①委員会および学習会の開催 (4回/年) ②指導者の育成(1名/年) ③長寿の郷による人材派遣事業の活用(4回/年)	①未実施 ② ア)指導者育成開始(1名/5月) ③ ア)PT指導:(11名/5・7・9・11月) イ)シーティング講義受講(8名)	△
先進福祉機器の導入検討	①先進福祉機器の情報収集 ②機器の選定、デモ機の活用(適宜導入)	① ア)情報収集の実施 ② ア)職員会議にてネオスケア(赤外線カメラによる見守り)のデモンストレーション実施(6月) イ)眠りスキャン3台追加導入決定	○
記録支援システムの有効活用	①記録支援システム活用推進者育成(各フロア1名) ②包括的自立支援プログラムの活用 ③記録時間の検討 ④記録支援システム(食事・入浴・排泄に関する)のiPad活用推進 ⑤眠りスキャンの活用	① ア)各フロア主任、副主任へ記録システム活用の指導実施(4月) ② ア)包括的自立支援プログラム(アセスメント)実施(4~6月) ③ ア)記録作成時間の検討実施(9月) ④ ア)iPadを介護課各フロアへ1台ずつ追加(計2台)活用 ⑤ ア)眠りスキャンを看取り対応者、睡眠状況把握の為に各フロアで選定し使用	○

(3) QOLの視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
看取り介護の充実	①委員会開催(適宜) ②看取り開始時のカンファレンス実施 ③学習会の開催	①未実施 ②看取り開始時カンファレンス実施(10・2月) ③学習会の開催(10月)	○

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
看取り介護の充実	④研修会へ職員派遣もしくは講師依頼 ⑤デスカンファレンスの実施 ⑥看取り介護の方法等の再検討	④未実施 ⑤デスカンファレンスの実施 ア)ユニット会議内で振り返り実施 (5・2月/3名) ⑥ ア)ユニット間移動時の情報共有方法の検討 (4月) イ)情報共有シートの作成と運用開始 (5月) ウ)家族への看取り介護アンケートの作成と実施 (5・6・12・1・3月/5家族)	○
個々のニーズに着目したアセスメントと充実した支援の実施	①再アセスメントの実施 (1回/年) ②オンリーワン支援の実施 ③担当職員によるアセスメントの実施	① ア)再アセスメント実施 (4~6月) イ)新規アセスメント実施 (入居時) ② ア)オンリーワン支援の実施 (15回) ③ ア)アセスメント実施約 60名	○
マニュアル(手順書)の更新及び共有と実践	①マニュアルの更新 (1回/年) および適宜作成 ②各種マニュアルの整理、管理方法の検討 ③各委員会、各種担当業務の手順書作成	① ア)平生園標準化マニュアルの更新 (5~7月) ②未実施 ③ ア)BCP 作成 (1月)	△
接遇の向上	①委員会の開催 (4回/年) ②接遇ハンドブックの活用 (1回/月職員会議にて輪読) ③月間標語作成 ④研修会へ職員派遣および学習会の開催	①未実施 ② ア)接遇キャンペーン期間中、朝礼にてハンドブックの輪読 ③ ア)月間標語作成 (4月)、掲示(1句/月) イ)接遇アンケートの実施と振り返り (1回/月) ④未実施	△

実行計画	2022年度計画	上期実施状況	達成度
リスクマネジメント	①事故対応マニュアルの作成 ②事故・ヒヤリハットの検証と情報共有 ③研修会への職員派遣および学習会の開催（学習会2回以上/年） ④介護技術講習へ職員派遣および学習会の実施 ⑤介護方法の見直し ⑥虐待不適切ケア・身体拘束の検証と共有 ⑦QOL推進部会による施設巡回および勉強会への参加依頼	① ア) 事故対応マニュアル、指針作成（9月） ② ア) 事故・ヒヤリハットの情報共有毎月実施、事故検証実施重大事故発生時（9月） ③ ア) 身体拘束学習会の開催（12月） イ) 虐待不適切ケア判定基準表学習会開催（12月） ④未実施 ⑤ ア) 事故検証後見直し実施（9月、2月） ⑥ ア) 身体拘束解除検討委員会開催（6・9・12月） ⑦未実施	△
サービスの評価	①サービス向上委員会立ち上げ ②サービス評価の共有および改善案の検討、実施	①未実施 ア) 職制内で検討 ② ア) サービス評価改善案の検討実施（6月）	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022年度計画	上期実施状況	達成度
改修計画に基づいた計画の実施	①計画的な修繕の実施	① ア) 修繕箇所の把握、修繕依頼実施) イ) 大規模改修後一年点検の実施（3月）	○
安定した収入の確保	①空床期間の短縮および短期入所利用者の積極的受入れ	① ア) 職員減及びコロナ感染症の影響で空床期間の短縮ができず イ) 順次、委員会開催と入居候補者面談の継続実施	○

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
安定した収入の確保	②新たな加算の取得検討 ③適正介護度の確認および必要に応じ変更申請実施 ④市内各関係機関との連携、情報収集の実施 ⑤口腔ケアの実施による肺炎予防、機器を活用した見守りによる事故の減少、早期受診対応による入院者の減少	② ア)経口維持加算取得開始(7月) イ)看護体制加算(Ⅱ)取得開始(1月) ③ ア)介護度変更申請実施3名(5月・3月) ④ ア)緊急ショートを受け入れ実施(7月～10月) イ)関係機関と連携し入居申し込み者の情報収集実施 ⑤ ア)計画的な口腔衛生指導によるケアの実施 イ)転倒、転落、滑落事故減(55件→32件)入院者減(411→290)	○
加算要件の確認	①加算要件の確認(1回/月)	① ア)毎月請求時にダブルチェック、加算要件の確認実施 イ)日常生活継続支援加算チェックシート活用開始(9月～)	○
経費削減	①職員会議での報告、経費削減の意識づけと実践 ②物品の在庫管理 ③修繕費の取捨選択 環境整備の実施(1回/月)	① ア)職員会議での経費報告(毎月) イ)会議記録等の共有方法変更によるペーパーレス化の実践 ② ア)入出庫時の在庫確認 ③ ア)職員による空調機器等の清掃、修繕の実施	◎

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
地域ニーズへの協力	①せいい介護者の集いへ職員派遣(6回/年)	ア)コロナ感染症拡大により開催未実施の為派遣せず	×
認知症サポーターの養成	①キャラバンメイト1名(講師)の育成と講師派遣	ア)新型コロナウイルス感染症により未実施	×

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
ホームページ・フェイスブックの活用と機関紙発行	①ホームページの更新 ②フェイスブックの更新(4回/年) ③機関紙の発行(2回/年)	① ア)ホームページ上の写真、挨拶等の一部更新 ② ア)更新(7・11・1・3月) ③ ア)機関紙発行(9・3月)	◎
新規ボランティアの開拓と定着	①ボランティアの情報収集 ②新規ボランティア開拓 ③ボランティア受け入れと継続依頼(WEBを活用)	①②③ ア)新型コロナウイルス感染症により未実施 イ)朝来市高齢者施設合同連絡会「ボランティア感謝のつどい」参加交流	△

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
有給休暇 5 日以上 の取得	①有給取得年間計画表作成 ②有給休暇取得状況を職制会にて確認(毎月)・勤務表反映	① ア)有給取得希望聞き取り、把握実施 イ)計画に沿って有給の取得実施 ② ア)有給取得状況の共有実施(毎月) イ)勤務表作成時に有給休暇取得実施	○
ノー残業の推進	①残業時間の確認 ②退勤時間乖離者への啓発と業務改善	① ア)残業時間の確認実施 ② ア)退勤時間乖離者への啓発実施 イ)ノー残業ダイの啓発(毎水曜日)	○
災害及び防犯訓練の実施	①避難訓練実施(2回/年) ②防犯訓練実施(1回/年) ③BCP作成(感染症・災害)	① ア)避難訓練(9月)・土砂災害想定避難訓練(1月)実施 ② ア)南但馬警察署による防犯訓練実施(2月) ③ ア)BCP(災害)作成中(4月～継続中)	○

3. 出来た事案

特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 わらしべ

施設長 太田 敦子

### わらしべの基本方針

1. 常にご利用者に寄り添い、心の安心を提供します。
2. 私たちは、ご利用者が安心して日常生活を送ることができるよう、支援を行います。
3. 私たちは、ご利用者に役割を持っていただき、家庭的な環境の下で生活を送っていただける様に支援を行います。
4. 私たちは、ご利用者の身体拘束及び、行動の制限に繋がる行為(言動)は行いません。
5. 私たちは、個人情報に関する守秘義務を遵守します。ご利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。

### 第4期中期計画のビジョン

#### 安心、笑顔、自由、その人らしい暮らしの実現

#### 2022 年度の事業報告について

新型コロナウイルス感染症等の予防に努め行動制限等を実施している中、8月下旬施設内でまん延しご利用者に加え職員まで拡大しクラスターとなりました。幸いにも命を守ることはできましたが、個室での隔離は高齢者にとってダメージが大きく、回復には個人差があるものの心身共に少なからず影響を与えたと感じています。また、年度当初より充足できていない職員に加え1名の退職と休職があり、施設全体が疲弊するような状況に見舞われました。しかし互いに助け協力し合い、少人数でもベテラン職員による支援のパワーを発揮し、出来ることからコツコツと事業計画に基づく丁寧な支援をいたしました。特に QOL の視点では、個別支援について新たに個別支援調査シートという意向聞き取り用フローチャートを作成し活用。ご利用者の言葉を捉え、浮かび上がるニーズに対し必要に応じ家族を巻き込みながら、やっていたこと、してみたいこと等の実現に取り組みました。このことは法人内職員総合研修でも報告ができ、ご利用者の笑顔や次へのステップ、職員のやりがい等へも繋がっています。

今年度は多難の年ではありましたが、第4期中期計画最終年度の締め括りとして、ビジョン「安心・笑顔・自由・その人らしい暮らしの実現」に向け進捗したと思います。

### 1. 事業概要

開設年月日：2004年4月1日

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
認知症対応型老人共同生活援助事業 (第2種)	認知症共同生活介護	18名	認知症要介護・ 要支援高齢者	2004年4月1日
老人短期入所事業 (第2種)	短期利用認知症対応 型共同生活介護	空床型	認知症要介護・ 要支援高齢者	2012年11月1日

2. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
法人理念の理解と共有	①職員会議時の牧師によるメッセージの実施（1回/月） ②ハンドブックを活用した理念の理解（偶数月） ③理事長による講話	① ア) 小西牧師によるメッセージ（4～3月） ② ア) 神戸聖隷ハンドブック唱和（4、6、8、10、12、2月） ③ ア) 理事長による講話（7月）	◎
キリスト教福祉の理解	①キリスト教福祉基礎研修への参加 ②法人理念研修への参加	① ア) 新型コロナウイルス感染症クラスター発生にて職員の受講断念 ② ア) 未実施	×

(2) 人材確保・育成の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
内部・外部研修の情報収集と計画的な研修参加	①専門の基礎研修等への参加（長寿の郷等:5回以上/年） ②認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修への参加（各1名）	① ア) 長寿の郷専門基礎研修へ職員派遣（5、7月） イ) 大植病院主催の「認知症対応事例検討会」参加（1名/6月） ウ) グループホーム連絡会主催「事例検討会」参加（3名/7月） エ) 介護支援専門員更新研修（2名10～1月） オ) 感染症研修会（1月） カ) 法人総合研究発表会（2名/3月） ② ア) 職員不足により職員派遣断念	○
	①内部研修会の開催	① ア) 新規採用職員に対してオリエンテーション実施＝身体拘束・虐待防止基礎研修含む（4、8、1月） イ) 看取り勉強会実施（4～8月職員会議にて） ウ) 避難訓練（火災/水害/夜間想定想定）実施（5、7、2、3月）	○

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
	①内部研修会の開催	エ) コンプライアンス勉強会＝個人情報 の取り扱いについて (6月) ㉞) 身体拘束防止研修会 (7、11月) カ) 接遇ハンドブック輪読、接遇に 関する意識向上 (5.7.11.1月) キ) 虐待不適切ケア検討会実施 (12 月)	○
伝達研修の 充実	②職員会議での伝達研修の実 施	② ア) 感染症研修会伝達研修実施 (2 月)	○

(3) QOL の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
カンファレ ンス	①カンファレンスの実施 (一人 1回以上/年)	① ア) 毎月ケアカンファレンス実施 (実施延べ人数 10名) ※9月新型コロナウイルスクラス ター発生にて実施出来ず ｲ) 朝礼、ユニット会議を活用し、状 態の変化時にタイムリーな情報 共有を実施 (支援方法の検討、確 認、統一した支援の実施)	○
各ユニット での取組み 両ユニット 協働による 支援の実践	①年間計画の立案と実践 ②活動メニューの選択肢を増 やし、個々のニーズの聞き取 りとプランへの反映、実践 ③個別支援の実施	① ア) 年間計画表に基づき各ユニット の計画を実践 (毎月) ② ア) 個別支援の意向聞き取り用フロ ーチャートの検討、作成、活用 ③ ア) ケアプランに基づいた個別支援 と個別外出の実施 (15名)	○
防災・防犯 への取組み	①毎月避難訓練の実施 ②避難確保計画の更新 (5月) ③防犯訓練の実施 (1回/年)	① ア) 火災/水害避難訓練の実施 (5、7、 2、3月) ｲ) 防災委員会開催 (5月) ㉞) 防災食体験 (7・8・2・3月) ② ア) 避難確保計画更新 (5月) ③ ア) 未実施	○

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
事故防止強化	①委員会の開催 ②事故発生時の早期カンファレンス実施 ③各マニュアルの更新	① ア)事故防止強化委員会開催(4、5、6、7、8、9、11、2月) ② ア)事故・ヒヤリハット後のモニタリングと各ユニットへのフィードバック(職員会議にて) ③ ア)未実施	○
虐待不適切ケアへの取り組み	①年2回の身体拘束廃止研修会の開催(7月・11月) ②年3回の委員会開催(5月・9月・1月)と記録の共有 ③接遇ハンドブックを活用し接遇力向上(奇数月)	① ア)身体拘束廃止研修会(7、11月) ② ア)委員会開催(5、7、9、11、2月)虐待不適切ケア事例検討(9、12月) イ)法人虐待防止セルフチェックリストの実施(9、2月) ③ ア)接遇ハンドブック輪読、接遇に関する意識向上(職員会議/奇数月9、3月除く) イ)接遇アップキャンペーン期間中、標語の掲示及び朝礼にて唱和(5、10、2月)	◎
看取り支援体制の構築	①委員会の開催(6回/年) ②勉強会の実施(毎月/職員会議にて) ③地域医師への講師依頼 ④外部研修受講 ⑤看取り開始時のカンファレンスの実施 ⑥デスカンファレンスの実施	① ア)看取り委員会開催(4、6、11、1月) ② ア)看取りについての勉強会開催(職員会議にて4月～8月) ③ ア)講師依頼するも新型コロナウイルス感染症クラスターにて延期 ④ ア)未実施 ⑤ ア)カンファレンス実施(1名/6月) ⑥ ア)デスカンファレン2名実施(4、6月)	○

## (4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
関係機関との連携による収入確保	① 入所申し込みの再調査 (5 月) ② 関係機関及び家族との連携強化 ③ 空床時ショートステイの積極的な受入れ	① ア) 入所申込再調査実施 (7 月) ② ア) ふくし相談支援課、高年福祉課、市内居宅介護支援事業所及び病院、老健と情報共有随時実施 ③ ア) 空床時の SS 受入れ (延べ 43 日)	○
収支の理解実践	① 経費削減の周知と実践	① ア) 水道光熱費、消耗品使用量集計報告 (毎月/職員会議) イ) 職員会議にて 2022 年度予算の説明 (6 月) ウ) 食費、居住費値上げ実施 エ) 施設の老朽化による修繕費増	○

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
地域交流の充実	① こども園、小学校等との交流 ② 地域ボランティアの受入 ③ ホームページ、フェイスブックの更新と機関紙発行 ④ 地域貢献部会への協力依頼 (情報発信等)	① ア) 市内の小学校に作品寄贈及び交流実施 (2 月) ② ア) 新型コロナウイルスの影響により、受入自粛 ③ ア) ホームページ写真更新 (7、2 月) イ) ホームページ料金表更新 (10 月) ウ) 法人フェイスブック投稿 (9 月) エ) 機関紙 85 号 (9 月)、86 号 (3 月) 発行 ④ ア) 新型コロナウイルスの影響により、未実施	○

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
地域活動への参加	①キャラバンメイト活動への参加 ②地域行事への参加	① ア) 地域住民対象の認知症サポーター養成講座に職員 2 名派遣 (1 月) イ) 地域小学校 5 年生対象のキッズサポーター養成講座に職員 2 名派遣 (3 月) ② ア) 新型コロナウイルスの影響により、地域への外出は自粛中	○

#### (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
働き方改革の理解	①生産性向上のための事業計画進捗のチェック ②残業減への取組み	① ア) 事業計画進捗チェック (毎月/職員会議) ② ア) 職員の不足により残業増	△
有給休暇の取得促進	①計画的な取得の促進	ア) 時季指定の希望聞き取り実施及び計画表作成 (4 月) イ) 職員不足により希望の変更を依頼しながら、順次取得 ウ) 勤務表作成時に取得可能な状況であれば確認後取得	◎
コンプライアンスの浸透	①サービス規程(規則集)を学ぶ機会の提供	ア) コンプライアンス勉強会実施 (個人情報の扱いについて/6 月職員会議)	○

### 3. 出来した事案

#### (1) 新型コロナウイルス感染症 集団感染

8 月 29 日(金)夕方、ご利用者 1 名の発熱にて新型コロナウイルス感染症を疑い、検査キットにて抗原検査を実施し陽性の判定。念のため全利用者、当日勤務者の検査を実施し「雅」6 名、「泰」3 名の利用者 9 名の感染を確認。その後、職員にも感染拡大シクスターの状態となりました。重症化された方はありませんでしたが、9 月 20 日の療養期間終了までに、感染者ご利用者 13 名、職員 9 名の 22 名となり、ご家族様にも大変ご心配をかけたこととなりました。かかりつけ医、真生園診療所医師、保健所の協力と但馬地区各施設からは (真生園・恵生園・さくらの苑)9/3~8 日までの 6 日間延べ 8 人の職員派遣、食事面では真生園調理にお弁当等の提供をいただくなど多くの方々の協力を得て、終息を迎えることができました。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 さくらの苑

施設長 小山 哲也

さくらの苑の基本方針

1. 利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. 利用者様を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. 利用者様にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（生きる）施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

垣根のない施設としてさくらの苑は、地域に寄り添い共に歩める施設を目指します！

2022 年度の事業報告について

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響はなくご利用者の皆様にご利用いただくことができました。しかし、新型コロナウイルス感染症が終息することはなく面会や外出等制限をせざるを得ない状況がありました。

今年度は、第4期中期計画の最終年度であり、さくらの苑の事業計画では重点的に取り組んだ視点として、人材確保育成の視点では、今年度も高卒新人職員を2名採用し人材育成に取り組み、オリエンテーションや勉強会、研修を通して育成を行い基本的な介護技術や知識が身につくように指導することができました。また、職員全員が年に1回は研修に参加できるように計画し実施することができました。

QOLの視点では、個別支援を深めるため、ユニット会議での利用者個々の支援内容の情報共有と支援の統一を図るためのカンファレンスを定期的に行うことができ、ご利用者の支援に反映することができました。

経営強化の視点では、職員よりインカム導入の要望があり、インカム導入施設から情報を得ながら今年度末にインカムの導入を実現することができ、ご利用者支援と職員間の情報共有等に活用してより良いご利用者支援に取り組んでまいります。また、コロナ禍ではありましたが2つの高齢者施設を見学することができ、経営面とご利用者支援等の情報交換ができました。

2023 年度は、第5期中期計画がスタートします。ご利用者やご家族、地域の皆様から「さくらの苑があるから安心ね」と言っていただけるように取り組んでまいります。

### 1. 事業概要

開設年月日：2017年5月1日

種別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
第1種社会福祉事業	地域密着型介護老人福祉施設	29名	要介護高齢者	2017年5月1日
第2種社会福祉事業	短期入所生活	10名	居宅の要介護・要	2017年5月1日

	介護		支援	
第2種社会福祉事業	地域密着型通所介護	18名	居宅の要介護・要支援	2017年5月1日
公益事業	居宅介護支援事業	—	居宅の要介護・要支援	2017年5月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
基本理念ハンドブック使用	① 神戸聖隷ハンドブックを活用した勉強会の実施(3回/年)	ア) ハンドブックの読み合わせを実施(4、7月)	△
理念研修を実施	① 理事長による講話(1回/年) ② 牧師によるキリスト教福祉のメッセージ聴講(1回/月) ③ 理念研修会の実施(1回/年) ④ 新任職員を対象とした神戸聖隷歴史資料館の見学	①③職員会議にて理事長による講話(11月) ② 毎月の職員会議にて小西牧師よりのメッセージ聴講 ④ 新任職員2名歴史資料館見学(4月)	△
キリスト教福祉基礎研修に参加	① キリスト教福祉基礎研修参加(2人以上/年)	ア) 2名キリスト教福祉基礎研修参加(9・10・11月)	◎
理念に沿った学習会の開催	① ターミナルケア事例による学習会の開催 (看取り開始後のカンファレンス、デスカンファレンスの開催)	ア) 職員会議にて「さくらの看取り」についての研修会実施(6月) イ) 各ユニット会議にてカンファレンス・デスカンファレンス実施(7、8、9、11、12月)	◎

### (2) 人材確保育成の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
業務改善に向けた取り組み 教育システムの見直し	① 高卒新人職員に特化したプログラムの整備	ア) 新人職員1名夜勤勤務開始(1月) イ) 今年度高卒職員プログラム流れや担当を実施	◎

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
役割を担う 職員の仕組 み作り	① 年間研修計画の作成(1人1 回以上研修参加) ② 専門研修プログラムの作成 ③ 認知症基礎研修受講の計 画・実施(対象職員)	① 年間計画作成。全職員1人1 回以上研修に参加(4月) ② 年間計画作成。随時研修へ参加 (4月) ③ e-ラーニング等で認知症基礎 研修5名受講(4~3月)	◎
資格取得へ の取り組み	① 資格取得のサポート体制の 強化	ア) 有資格者による勉強会の実施 介護支援専門員(7月) イ) 喀痰吸引実地研修見学会(6月)	◎
職場環境改 善への取り 組み	① ほのぼのとインカムを活用 した情報共有と業務効率化 ② 福祉機器の活用による負 担軽減	① インカム運用開始(3月) ② 床走行リフトの購入(3月)	◎
記録方法を 学ぶ	① ケア記録の書き方を学ぶた めの研修参加、勉強会の開 催	ア) 実務での指導実施	○
他施設見学 職員満足度 調査	① 他施設の勤務時間や業務分 担の情報収集 ② 満足度調査の実施(1回/年)	① 他法人施設見学意見交換会 (2、3月) ② 調査実施(11月)	○

(3) QOLの視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
ユニットケ アの理解と 実践	① ユニットケア研修参加・勉 強会の開催(1回/年) ② さくらの苑「的」ユニット ケアの検討・実施	① ア) ユニットリーダー研修参加座 学(11月) イ) ユニットリーダー実地研修参 加(1~2月) ② ユニット会議にて個別ケアの 確認や対応検討実施評価 (11~3月)	○
24 時間シ ートの活用	① 24 時間シートの勉強会開催 (1回/年)	ア) 新人職員に対し24時間シート の記載内容の評価(11~3月) イ) ユニット会議にて24時間シ ートの内容更新(11~3月)	○
個別支援の 理解	① ケースカンファレンスの実 施(1回/月)	ア) ユニット会議にてケースカン ファレンス開催、多職種による 検討実施(11~3月)	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
ご利用者満足度調査の実施	① 調査実施と集計、報告（1回/年）	ア) 特養、ショート、デイ対象として実施（10月）	○
垣根のない施設への取り組み	① イベントの検討・実施（1回/年） （めぐみと共同行事等検討・実施）	ア) コロナ禍でイベント開催できず	×

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
利用者の確保	①見学ツアーの開催（1回/年） ②体験利用の受け入れ実施	② ア) 体験利用の受け入れ実施ショートステイ（4～3月） イ) 体験利用の受け入れ実施デイサービス（6、7月）	○
先進福祉機器導入の検討	① インカムシステムの導入（12月導入）	ア) 県の補助金を活用しインカムシステム導入（3月）	◎
目標に沿った積立金の確保	① 最終補正予算での積立金計上の模索	ア) 積立額 1,500 千計上	△
経費の削減	① 電子印鑑導入による可能な書類のペーパーレス保存の実施 ② 光熱水費の削減の啓発	① 毎月の実績や提供票の配布をメール配信によりペーパーレス化実施（5月） ② 職員会議にて電気・水道使用量行い削減の呼びかけ実施	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域貢献を学ぶ	① 地域福祉関連の研修参加（2回/年） ② 職員会議での勉強会開催（1回/年） ③ 新人職員に地域貢献への取り組みを伝える（1回/年）	① 地域サポート施設事例発表会参加（1月） ② 地域を知る。清水講師より立雲峡についての話（7月） ③ 新人オリエンテーションにて地域貢献について伝える（4月）	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
必要な資源を知り、地域へ展開する	① マップ作成、マップから地域への理解を深める ② 地域資源の情報収集を実施しマップに反映	① 地域の方に講師として来ていただき、地域の理解を深める（7月） ② 地域資源についての委員会を開催し話し合う（5月・9月）	△
地域サポート施設への参入から展開	① さくらカフェ開催（2回/年） ② 出前講座開催（2回/年） ③ 地域包括と社協との意見交換会実施（2回/年） ④ 家族会や運営推進会議にて説明（2回/年） ⑤ 地域サポート施設事業の広報活動（1回/年）	① さくらカフェ開催（12月） ② 福祉用具ダスキンに便利な福祉用具の紹介を依頼（12月） ③ 意見交換会（4月は意見照会12月は開催） ④ 家族会にて地域サポート施設についての説明（11月）	○
ニーズ把握方法、つながり強化のための取り組みの検討・実施	① ニーズ把握方法についての研修参加（2回/年） ② さくらカフェ・出前講座・ミニデイ・いきいき百歳体操へ参加し地域とのつながり強化に努める ③ さくら新聞の定期発行・配布（3回/年） ④ カフェ・講座開催時にアンケート調査実施（2回/年）	① 地域サポート施設事例は発表会参加、ニーズ把握についての内容もあり（1月） ② ミニデイに参加（4、6月7月9月10月3月） ③ さくら新聞発行（6、12月） ④ さくらカフェ開催時にアンケート調査実施（12月）	◎

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
虐待・不適切ケアへの取り組み	① 虐待・不適切ケア防止の研修参加（1回/年） ② 職員会議での勉強会開催（1回/年） ③ 虐待・不適切ケア防止の啓発活動（1回/月）	① 虐待、不適切ケアの研修実施（12月） ② 勉強会の実施（12月） ③ 虐待・不適切ケア防止の啓発活動の実施（5～3月）	○
事故予防への取り組み	① 苦情・事故予防の考え方を学ぶ研修参加（1回/年） ② 事故・ヒヤリハットの勉強会開催（1回/年） ③ 事故後の検証実施	① 事故予防の学習会実施（8月） ② 治療や病院受診に至った事故に対し検証、再発予防に取り組む（4～3月） ③ 事故後の検証実施	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
有給休暇の取得促進	① 年次有給休暇の効率的な取得方法の検討・実施	ア) 有休取得率 63.6% (昨年度 66.9%)	△
残業時間の短縮	① 退勤時間乖離者への啓発	ア) 乖離が多い職員へは介護課長へ報告し介護課長より聞き取り実施	△

### 3. 出来した事案

#### (1) 3 名のご利用者介護事故

短期入所ご利用者 1 名は、車いすからシャワーチェアに移動する際に手すりが左足の甲に落下し、赤く腫脹があり病院受診するが、打撲との診断でした。

短期入所ご利用者 1 名は、トイレに行こうとされベッド上で寝返りを打った際にベットから転落し右足付け根に痛みがあり病院受診し、右大腿骨転子部骨折と診断、手術をされました。

入所ご利用者 1 名は、リビングで床を触ろうとしたのか車いすから転落し右大腿部に強い痛みがあるため病院受診し、右大腿骨転子部骨折と診断、手術をされました。

各々の事故においては、ご家族に状況説明と謝罪を行い特に問題となることはありませんでした。事故後には検証を実施し、ユニット会議で情報共有を行っています。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 恵生園

施設長 掃部久美代

### 恵生園、グループホームめぐみの基本方針

1. 私たちは ご利用者の人権を尊重し自ら選んで決めていただけるサービスを提供します。
2. 私たちは ご利用者が生き生きと喜びをもって生活できる施設を目指します。
3. 私たちは 自ら率先して話し合える職場づくりに努めます。
4. 私たちは まちの声に応え 地域に貢献できる施設を目指します。

### 放課後等デイサービスめぐみの基本方針

1. こども達一人ひとりの個性を大切にし、豊かな育ちを支えます。
2. こどもと保護者に寄り添い、成長を喜び合うことができる施設を目指します。
3. こども達の未来のために、地域に愛される施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

利用者の思いを聴き、利用者中心の支援のもと障害特性に応じたサービスを提供します。  
わたしたちは、気づき考え行動します。

### 2022 年度の事業報告について

今年度もコロナウイルス感染症対策を中心に安心安全なサービスの提供を行ってまいりました。第4期中期計画の最終年度の各々の計画については、一部、第5期に持ち越す計画もありますが、3年間の計画内容としては、ほぼ実施できたと思います。

人材育成では、資質向上のための研修参加についてオンライン研修に参加することで多くの職員に参加していただくことができました。定着した毎週一回実施している支援課ミーティングを行うことは、事故検証や感染予防含め早期発見や対策にて利用者のための安心・安全につながることができました。そして、職員間で誰もが発言できる場として、風通しの良い環境づくりに努めることができました。QOLでは、歯科往診や口腔ケアを定期的にして頂くこととOT指導によるリハビリを行うことで、健康維持や健康増進に繋がり、身体機能低下へ取り組むことができました。ニーズへの対応として日中活動、利用者支援について利用者の支援のもと障害特性に応じたサービスの見直しを行い、入浴の回数の変更とコロナ化の中でも施設内で行える日中活動を定期的実施することができました。しかし、高齢化と重度化の対応として、基本的な介護の技術や知識の習得、個別化した支援ができる環境づくりや業務の見直しについては、第5期中期計画も引き続き計画実行していかなければならない課題となっています。

経営強化として、各事業を安定した経営を目指してきましたが、入所利用者の欠員のままが続きましたが、何とか補充はできました。しかし、年度末に利用者が長期入院となり、安定した経営とはなりません。2年目の放課後等デイサービスとグループホーム事業は、徐々にですが、利用者も増え、相談支援事業所と連携することなど運営が活発になってまいりました。今後も地域の中で、繋がりを大切に取り組んでいきたいと思っております。

## 1. 事業概要

開設年月日：1976年6月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	60名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	3名	身体・知的障害者	2006年10月1日
相談支援事業（第2種）	特定相談支援	—	障害者	2013年3月1日
	障害児相談支援	—	障害児	2022年4月1日
公益事業	介護予防等拠点事業（あったかプラザ）	—	—	2003年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	共同生活援助	6名	身体・知的障害者	2021年4月1日
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス	10名	障害児	2021年4月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
キリスト教福祉の理解	①牧師によるキリスト教勉強会(月2回) ②理念学習会(全職員 年1回以上の参加) ③神戸聖隷歴史資料館の見学 ④神戸聖隷ハンドブックの輪読と理念学習会への反映	① ア)職員朝礼時(月1回)及び全体集会(月1回)牧師による講話 ② ア)理念学習会(職員会議)(11・1月) ③ ア)未実施 ④ ア)ハンドブックの輪読(各偶数の第3週)	◎

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
<p>資質の向上</p>	<p>①階層、意欲に応じた研修参加と資格取得奨励                  ②伝達研修実施                  ③内部研修(毎月職員講師による)                  ④身体拘束検証会議(年度初め確認、毎月)                  ⑤虐待・不適切ケア施設事例学習会(前期・後期)                  ⑥虐待防止研修                  ⑦記録ソフト活用</p>	<p>①                  ア)サビ管更新研修受講(2月 2名)                  イ)相談従事者初任者研修受講(8・9月)                  相談支援専門員研修への参加(10月)                  ウ)介護技術研修受講(6・9月)                  エ)ビジネスマナー研修受講(6月)                  オ)リハビリテーション研修受講(5・8月)                  カ)事業所別研修(10・2月)                  キ)ユニ・チャームオンライン研修(2月 2名)                  ク)サビ管更新研修(2月)                  ②                  ア)職員会議にて実施                  ③                  ア)月1回実施                  ④                  ア)身体拘束検証会議(毎月)                  ⑤                  ア)虐待・不適切ケア施設事例学習会(5・6・7・9・11月)                  ⑥                  ア)虐待防止研修の実施(5~9月)                  ⑦                  ア)記録ソフトを活用した各記録の実施                  恵生園相談事業所(12月~)                  各委員会、各会議記録(3月~)</p>	<p>◎</p>

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
誰もが発言できる職場づくり	①支援ミーティング(毎週) ②セルフチェック結果への取り組み ③業務改善会議(年2回) ④接遇ハンドブック輪読(隔月)	① ア) 支援ミーティングの実施(毎月) ② ア) セルフチェックと結果への取り組み(2~3月) ③ ア) 職制会での業務改善会議の実施(8・9月) ④ ア) 接遇ハンドブック輪読(5・7・9・11・1月)	◎
危機予測力の向上	①事故・リスク検証会議(毎月) ②BCP計画に基づく研修・訓練の実施(防災・防犯・感染症) ③感染症用居室・備品管理 ④災害・防災マニュアル更新	① ア) 事故・リスク検証会議(毎月) ② ア) 未実施 ③ ア) 感染症予防勉強会開催(5・6・7・9・10・11月) イ) 感染症委員会開催(毎月) ウ) 感染症委員会指針作成(8月) エ) 感染症用備品室整備(4・6・7・8・10・12・2月) ④ ア) 災害・防災マニュアル更新(9・3月)	○

## (3) QOLの視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
身体機能低下への取り組み	①施設の取り組み情報家族配信(年3回) ②歯科往診による口腔ケア・支援の向上 ③介護支援技術の習得(研修参加) ④医療情報提供書家族確認・更新 ⑤日課(入浴・日中活動)の時間帯の見直し ⑥OT指導のリハビリ支援	① ア) 恵生園通信の作成 (7・9・3月) ② ア) 歯科往診による口腔ケア (毎月) ③ ア) 介護技術研修の受講 (6・9月) ④ ア) ご家族へ医療情報提供書、緊急連絡先について確認 イ) 医療情報提供書更新(延べ70人) ⑤ ア) 入浴・日中活動の時間帯の見直し (8・9月) ⑥ ア) 毎日実施	◎
ニーズへの対応	①利用者の障害に応じた日中活動の個別化と見直し ②各種マニュアルの見直し・更新 ③年間行事(イベント・テイクアウト) ④満足度調査結果の開示と改善の取り組み	① ア) 入浴支援の見直し計画 (8・9月) ② ア) 見直し・更新 (3月) ③ ア) 開園行事の実施 (6月) イ) 和菓子イベントの実施 (6・1月) ウ) テイクアウトの実施 (7月) エ) 夏祭りの実施 (8月) オ) バーベキューの実施 (10月) カ) 茶話会の実施 (11月) キ) クリスマス祝会 (12月) ④ ア) 満足度調査実施とHPへの公表 (1~2月)	◎
居住環境の向上	①環境整備(食堂テーブル、椅子) ②身体状況に応じた居室の環境整備	① ア) 食堂テーブル・椅子更新 (6月) ② ア) 居室(かし) 枕灯設置 (6月)	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
日常生活の向上	①創作活動などの余暇支援活動 ②身辺自立を促すための支援 ③コミュニケーション力の向上のための支援 ④ソーシャルスキルの獲得のための支援 ⑤イベント等を通じた外部への広報活動	①②③④ ア)対象児童（2名） 対象児童を個別で各支援の実施（4・5・6・7・8・9月） ⑤ ア)あったかプラザでの展示物の作成と展示（5～7・10月）	◎
施設外活動の充実	①高齢障害施設との交流 ②地域行事への参加 ③利用外児童へのサービス提供 ④イベント等を通じた外部への広報活動	① ア)コロナ感染拡大防止の為、延期 ② ア)インクルーシブサイエンスへの参加と手伝い（8・11月） ③ ア)卒業後の児童のモニタリング実施、ご家族からの相談受付（6・8月） ④ ア)あったかプラザでの展示物の作成と展示（5～7・10月）	○
満足度アップ	①満足度調査実施とHPへの公表 ②保護者へのお便り発行(SNS含む) ③安全な支援・送迎の実施(研修参加) ④リスク対応マニュアル作成 ⑤日誌・申し送り業務の見直し	① ア)第三者評価のアンケート実施（8・9月） イ)満足度調査実施とHPへの公表（1～2月） ② ア)「めぐみだより」の発行（毎月） ③ ア)対応の検討とマニュアルの作成（5・7・9月） ④ ア)リスク対応マニュアルの作成(9月) ⑤ ア)日誌内容の見直し（5月） イ)申し送り業務の見直し（5月）	◎

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの整備	①世話人・生活支援業務のマニュアル作成 ②日誌・申し送り業務の見直し ③リスク対応マニュアル作成	① ア)生活支援業務のマニュアル作成(9～11月) ② ア)日誌・申し送り業務の検討と見直し(5～7月) ③ ア)リスク対応マニュアルの作成(9～11月)	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
安定した経営	①物品庫管理・消耗品の見直し ②加算基準を満たした運営(相談支援事業各種加算) ③採用職員の外部・内部研修参加 ④障害児相談支援事業開始による新規利用者確保 ⑤めぐみ利用率の向上	① ア)紙おむつの見直しと新商品の導入(4月) イ)紙おむつの使用方法についての勉強会実施(7月) ② ア)加算要件の確認(8月) ③ ア)実施中 ④ ア)利用児童との契約(6名) ⑤ ア)目標利用率の維持 放デイ 52% (目標) →52.8% (実績) GH61.2% (目標) →58.5% (実績)	○

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの抽出	①アンケートの実施と対策 ②地域交流・介護予防拠点としての運用 ③地域の一員として行事や自治会活動に参加 ④パンフレットの見直し ⑤障害児相談支援事業の開始・広報活動	① ア) あったかプラザ来館者へアンケート実施(毎月) ② ア) 市民作品展示と放課後等デイサービスめぐみ利用児童作品展示(4～8・10・1～2月) ③ ア) サイエンスキャンプへの参加と手伝い(5・8・11月) ④ ア) 未実施 ⑤ ア) 障害児相談支援事業開始(4月)	○

## (6) 人事労務危機管理の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
資質向上	①コンプライアンス学習会 ②キャリアパス学習会 ③リスクマネジメント研修	① ア) 個人情報の学習会実施(8月) ② ア) キャリアパス学習会の実施(5月) ③ ア) リスクマネジメント研修(12月)	◎
労務管理の徹底	①有給休暇の取得を上げる ②残業を減らす	① ア) 有給休暇取得状況の把握(毎月) ② ア) 残業時間の把握(毎月)	◎

## 3. 出来た事案

(1) 特にありません

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 真生園

施設長 大橋 幸司

### 真生園の基本方針

1. 安全で安心できる快適な生活の場や活動の場となる為の充実したサービスを提供します。
2. 互いに交わす挨拶に笑顔を含め、同じ目線に立ち温かいまなざしと優しさで支援します。
3. 利用者一人ひとりの個性や人権を尊重し、誠意をもって支援します。
4. 地域に愛され、地域と共に歩む施設を目指します。
5. 愛と希望に満ちた温もりのある施設づくりを目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「どんな時も最善を尽くし、その人に寄り添い支えます」

第4期中期計画の最終年度は、With コロナを目指し積極的に事業計画を推進しました。また、人材不足を補うために業務の生産性向上や、ご利用者に対する時間を増やすための創意工夫を積極的に実施しました。

新型コロナワクチンの5回目接種が12月から始まり、3月末までに全てのご利用者・職員の接種が完了しましたが、1月中旬に1名のご利用者が新型コロナ陽性となり施設内の感染防止対応としてゾーニングを実施いたしました。感染拡大はありませんでした。

ご利用者の楽しみである年間行事（納涼祭・真生祭・クリスマス会・花見会等）を、コロナ禍前に戻す取り組みと、外部業者と共にご利用者の笑顔あふれる活動を実施いたしました。また、レクリエーション機器を活用した日中活動や、折り紙を使った創作活動なども積極的に実施し、ご利用者の皆さんが作成された作品をホールへ展示し、喜びを共有しました。

職員育成では、但馬長寿の郷へ実践的な研修に参加し、介護技術のスキルアップに取り組んでいます。また、2月下旬には、ネパールより特定技能外国人2名を迎え、積極的な育成を実施しました。特に基本的な介護技術研修の受講や、日本語ウェブ講座の参加など、日本で介護業務をする上での基本を学ぶことが出来ました。

その他、理念やキリスト教福祉などを、地の塩伝道所牧師を講師として学ぶことが出来ました。また、BCP・感染症防止・虐待防止（身体拘束防止等）等の必要な研修を、確実に取り組む事が出来ました。

### 【真生園】

#### 1. 事業概要

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	身体障害者
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	60名	身体障害者
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	4名	身体障害者
公益事業	日中一時支援	5名	身体障害者
公益事業	真生園診療所	—	—

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
基本理念の理解	牧師による朝礼メッセージ・理念解説	①牧師による朝礼メッセージ実施 ②理事長の講演を通して、歴史を学ぶ	① ア) 朝礼、職員会議の場で牧師によるメッセージを聴講(毎月) ② ア) 実施無し	○
キリスト教福祉の理解	キリスト教研修等参加	①キリスト教勉強会を職員会議等にて実施 ②理念研修に参加	① ア) キリスト教勉強会実施(5, 6, 8, 10, 11, 2, 3月) ② ア) 参加無し	○
神戸聖隷ハンドブックの活用	神戸聖隷ハンドブックの解説・唱和	①キリスト教福祉講座への参加 ②職員会議にて神戸聖隷ハンドブックの唱和	① ア) キリスト教基礎研修への参加(9月～11月・2名) ② ア) 神戸聖隷ハンドブックの唱和(4, 7, 12月)	○

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
さらなる介護機器の導入と更新	介護機器の導入と更新	①使用中の介護機器の検証と利便性の向上 ②最新の福祉用具・最新介護機器の情報収集 ③最新介護機器の導入の検討	① ア) ナースコールと眠りスキヤンの連動設定(6月) イ) NDによる支援記録の学習会(帳票変更の指導)(8月) ②③ ア) センサーマット導入に向けての情報収集(9月) イ) センサーマット等追加導入(11月)	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
ICT による働き方改革と生産性の向上の取り組み	ICT による働き方改革と生産性の向上	①法人・施設情報を職員全体に発信できる情報共有システムの活用を検討 ②現場から課題、意見を聴取し、効率化が図れるシステム作り	① ア) 情報共有方法の一環として「らくらく連絡網」の活用開始(6月) ② ア) 生産性向上委員会の実施(毎月) イ) 生産性向上のための内部研修会の実施(8月 食事支援について) ※11月予定の排泄支援についての研修会はコロナの影響により延期	○
職員個々のスキル向上を目指す	職員個々のスキル向上	①職員個々の経験に応じた研修への参加と伝達研修の実施 ②Web研修の定着化(マニュアル化) ③OJT マニュアルの見直しと整備	① ア) 法人内部研修への参加と伝達研修の実施(8,10,2月) イ) 委員会主催の感染症研修の実施(10月) ② ア) ビデオ研修用モニター導入(4月) イ) ビデオ研修実施(5月～)	○
継続した専門研修への参加	専門研修への参加	①喀痰研修・サービス管理責任者研修等の専門研修への参加 ②長寿の郷の介護専門研修等への参加	① ア) 排泄ケア研修(7月～2名) イ) リフトリーダー研修(9月2名) ウ) ポジショニング研修(10月) エ) サビ管研修(10月2月) オ) 発達障害研修(11月3名) カ) 外国人受入セミナー(1月) ② ア) 長寿の郷介護専門研修参加(7月～12月4名)	◎

## (3) QOLの視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
利用者ひとり一人へ寄り添える支援の確立	寄り添える支援の確立	①利用者の基礎情報の更新を通じて、利用者理解を深める ②利用者（家族）へアセスメントを実施し、思いを汲み取った具体的で実施可能な個別支援計画の作成とサービス提供 ③身体拘束廃止委員会を定期的に実施し、身体拘束解除に向け取り組む（3か月/毎） ④真生園の長所の模索と追求	① ア) 基礎情報の更新(継続中) ② ア) 個別支援計画作成に向けたカンファレンス実施(9月～継続中) ③ ア) 毎月生活員会にて身体拘束についてのモニタリングを実施 イ) 身体拘束廃止研修会実施(6月) ウ) 身体拘束モニタリング書の更新と確認(7・2月) エ) 虐待防止研修(9月) ④ ア) 各行事を全員で分担し実施した(7.9.12.3月)	○
全ての利用者の思いに沿った施設作り	利用者の思いに沿った施設作り	①運営会議にて、より良い施設運営や施設業務を改善する為に、利用者代表と協議を実施 ②懇談会や“何でも相談”を通じて、各利用者から要望等の意見を聴取	① ア) 毎月利用者代表を交えた運営会議の実施 ② ア) 毎月利用者懇談会の実施 イ) 毎月何でも相談の実施と生活委員会での相談内容の対応 ウ) 利用者自治会の運営方法について利用者と協議(11月～)	○
魅力あるプログラムの提供	魅力あるプログラムの提供	①コロナ禍であっても利用者の笑顔あふれる活動の提供	ア) テーマ食と手作りおやつ、誕生日食の提供 今年度テーマ「コロケ」 イ) 行事の実施 5月 オセロ大会 7月 納涼祭 9月 新館花火大会 10月 真生祭(施設内喫茶) 12月 クリスマス祝会 3月 花見会(お花見ドライブ) ウ) オオツキ移動販売実施(11月)	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
レクリエーション機器の活用	レクリエーション機器の活用	①障害特性に合わせてレク機器を活用し、情緒の安定を図る	ア) 障害特性に合わせたレクリエーション機器の活用 イ) 運動や音楽プログラム・画像によるリラクゼーション・リハビリなどの実施	○
他施設を見学し、最新の支援技術や業務内容を学ぶ	最新の支援技術や業務内容を学ぶ	①他施設と情報交換を行い、導入可能な取り組みがあれば導入し、利用者支援や業務の改善に活かす	ア) 朝来市自立支援協議会にて市内事業所の入浴設備についての情報共有(8~月) イ) 入浴設備貸出の検討(11月~) ウ) 近障協兵庫ブロック QOL 委員会出席(9月1名) エ) 近障協情報交換会出席(9,12月各1名) オ) 支援充実と品質向上を目的とした紙オムツ新規導入(12月~) カ) ユニ・チャーム講習会の実施(2月)	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
利用者の確保	利用者の確保	①行政・相談支援事業所等へ利用状況を提供し、待機者の情報を収集 ②行政・相談支援事業所、特別支援学校等へ情報収集し、地域のニーズの把握と分析	① ア) 市町、相談支援事業所、病院からの情報提供と電話相談対応(随時) イ) 入所希望者との面談(随時) ウ) 新規入所受入れ(3名) エ) 転所コーディネート(2名) ② ア) 地域の児童の入浴サービスの利用の問い合わせと見学、面談(7月~対応中)	△

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
職員の確保	職員の確保	<p>①人材状況を随時把握し、ハローワークにて求人を実施</p> <p>②緊急な人材不足の対策として、人材紹介業者を活用</p> <p>③健康診断結果、メンタルヘルス診断結果に基づき、職員へのフォローを実施</p> <p>④ユニフォーム更新に向けての情報収集</p>	<p>①</p> <p>ア) ハローワーク和田山にて面接会の実施(6月,1月)</p> <p>イ) 朝来市主催のお仕事大相談会に参加(10月)と見学者対応(11月)</p> <p>ウ) 新聞の求人広告掲載</p> <p>②</p> <p>ア) 人材紹介業者の活用(随時)</p> <p>③</p> <p>ア) 職員の体調の把握と必要な受診の促し</p> <p>イ) 衛生委員会開催にて医師との連携と情報共有(毎月)</p> <p>④</p> <p>ア) 次年度のユニフォーム更新に向けた情報収集、看護師ユニフォーム更新(6月)</p>	○
経費削減と出来る限りの積立金の確保	経費削減と出来る限りの積立金の確保	①介護給付費収入を確実に確保し、出来る限りの積立金を積み立てる	ア) 職員会議時に水道光熱費等の情報共有と経費削減の取り組みを実施(毎月)	○
利用者の状態を適切に把握	利用者の状態を適切に把握	<p>①利用者個々の体調を把握し、重症化に至るまでに病院受診、家族への説明を確実にし、利用者や家族の負担を最小限に留める</p> <p>②状態に応じて適切な社会資源を活用できるよう連絡調整を実施</p>	<p>①</p> <p>ア) 利用者のレベル低下に伴う迅速な対応(支援方法の見直し、受診、家族への説明)</p> <p>②</p> <p>ア) 地域診療所の協力を得て、体調の不安定な方の継続したサポートを受ける(4月～)</p> <p>イ) 体調の変化に伴う転所に向けた支援の実施(2名 療養病院、医療支援型グループホームへ転所)</p>	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
施設に感染症を持ち込まない	施設に感染症を持ち込まない	<p>① 感染症予防研修にて、感染症予防の基本を学び、職員個々による感染症予防対策を実施</p> <p>② 感染予防対策の強化と利用者・家族・職員等への周知として、感染症予防月間の実施</p> <p>③ 感染症発生時の訓練の実施</p>	<p>①</p> <p>ア) 朝来健康福祉事務所から外部講師を招き食中毒予防についての勉強会実施 (5 月)</p> <p>イ) ガウン・防護服研修(10 月)</p> <p>②</p> <p>ア) 食中毒予防のための本館・新館の冷蔵庫チェック (6 月)</p> <p>イ) 食中毒・熱中症予防月間の実施ポスター掲示と放送での呼びかけ (7, 8, 月)</p> <p>ウ) インフルエンザ、ノロウイルス予防ポスターの掲示 (12, 1 月) と感染予防の呼びかけ放送の実施 (12 月)</p> <p>③</p> <p>ア) コロナウイルス感染拡大期にゾーニング対応開始(11 月～)</p>	○
老朽化した設備の改修	老朽化した設備の改修 (天井走行リフト等)	<p>① 天井走行リフトの更新 (南寮、浴室、トイレ)</p> <p>② 食堂・ホールの一部 LED 化</p> <p>③ 施設内外の老朽箇所等の修繕</p> <p>④ 厨房屋外のゴミステーションの更新</p>	<p>①</p> <p>ア) 天井走行リフトの南寮等更新工事完了 (6 月)</p> <p>②</p> <p>ア) 食堂・ホールの一部 LED 化完了 (6 月)</p> <p>③</p> <p>ア) (前期分) 本館浴室ナースコール修理、厨房 PP 型換気扇修理、新館エアコンガス漏れ配管修理、浄化槽スクリーン交換、新館エアコンガス注入工事</p> <p>イ) (後期分) 防犯カメラ修理、厨房冷蔵庫修理、新館エアコン修理、本館廊下エアコン修理、新館水漏れ修理、下水汚泥の引き抜き、単身寮階段屋根修繕</p> <p>④</p> <p>ア) ゴミストッカー更新 (6 月)</p>	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
(旧) さくらの苑の継続管理と解体時期を検討	(旧) さくらの苑の継続管理と解体時期を検討	① (旧) さくらの苑の室内清掃、及び防災設備の維持管理 ② 新型コロナ対応隔離場所としての活用	① ア) 旧さくらの苑室内清掃・防火設備維持管理 (毎月) ② ア) 感染症対策として家族会開催 (4. 5. 6. 8. 10. 3月)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
竹田地域を散策し店舗等の利用	竹田地域を散策し店舗等の利用	①地域の感染症状況を把握し、竹田地域へ外出を実施	ア) 感染症対策を行った上でのドライブ外出の実施 (適宜) イ) 真生祭にて経管栄養の利用者対象のドライブ実施 (10月)	△
竹田地域へ貢献したい	地域へ貢献する	①移動販売の利用を行い、地域の活性化に貢献する ②竹田地域の店舗や公共施設へ施設での作成物の提供	① ア) オオツキ衣料品移動販売実施 (6月11月) イ) 納涼祭にて喫茶の移動販売実施 (7月) ウ) 真生祭にてミスタードーナツの移動販売実施 (10月) エ) 山口小学校福祉体験学習参加 (11月) オ) 自立支援協議会参加 カ) 中川小学校福祉体験学習参加 (12月) ② ア) 総合事務所へひまわりのプランター設置 (8月)	◎
機関紙やホームページの積極的な活用	機関紙やホームページの積極的な活用	①誰もが分かりやすく読みやすいスマートな機関紙作成を随時検討及び実施	ア) フェイスブック更新 (法人スケジュールによる) ウ) 機関紙 138 号の発行準備 (10月発行) エ) 機関紙 139 号の発行準備 (4月発行予定) オ)	○

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
利用者懇談会・運営会議を実施し、利用者と情報の共有を実施	利用者懇談会・運営会議を実施	①利用者懇談会・運営会議で得た各利用者の要望やニーズなどの情報を分析し、課題改善を早期に実施 ②利用者代表や家族会と、適時話し合える機会を持ち、施設の課題改善を実施	① ア) 毎月運営会議の実施 イ) 毎月の懇談会にて利用者の要望の収集と対応 ② ア) 家族会の実施 (4, 5, 6, 10, 3月)	○
苦情解決委員会・虐待防止委員会を実施し、早期解決	苦情解決委員会・虐待防止委員会を実施	①苦情解決・虐待防止に関する受付者及び第三者委員等の関わりを周知し、苦情解決や虐待防止に向けてより開かれた環境で取り組みを進める ②定期的に研修を実施し、虐待防止意識の向上及び適切な身体拘束に関する知識の習得 ・虐待防止、身体拘束廃止委員会の開催 (3か月/毎) ・身体拘束廃止、改善の為の研修の実施 (2回/年) ・虐待防止研修の実施 (2回/年)	① ア) 苦情解決委員会の実施 (6月) イ) 虐待防止委員会の実施 (4, 6月) ウ) 身体拘束廃止委員会の実施 (6月) ② ア) 接遇セルフチェックの実施と集計結果報告及び周知 (5, 6月) イ) 接遇研修実施 (8月) ウ) 虐待防止研修実施 (9, 1月) エ) 法人虐待防止チェックリストの実施 (9月) オ) 接遇セルフチェック結果のフィードバック (11月) カ) 身体拘束モニタリング実施 (7, 2月)	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
介護事故対策の実施・事故発生時の対応マニュアルの作成	介護事故対策の実施・事故発生時の対応マニュアルの作成	①火災・災害合同避難訓練の実施(2回/年) ②事故防止（リスクマネジメント）研修の実施(1回/年) ③防犯訓練の実施(1回/年) ④BCP 研修へ参加(1回/年) ⑤特に多い事故・ヒヤリハットを分析し、重大な事故に至るまでに防止策が確実に出来ているか委員会で毎時確認 ⑥安全運転管理記録表の作成	① ア) 水害想定避難訓練の実施(6月) ② ア) リスクマネジメント研修の実施(4月) ③ ア) 防犯訓練(12月実施) ⑤ ア) 事故発生防止委員会の実施(4, 5, 6, 7, 9月) イ) 服薬事故ゼロ週間及び強化月間の実施(5, 8月, 11, 1月) ウ) 物損事故ゼロ強化月間の実施(6, 9, 10月) エ) 受傷事故ゼロ週間の実施(7月)	△
成年後見制度の積極的な活用	成年後見制度の活用	①利用者の重度高齢化及び家族の高齢化に伴い、成年後見制度活用の必要な利用者を把握し、積極的に制度の活用を推進	ア) 成年後見制度に関する家族からの相談受付(7, 11月) イ) 法人の成年後見制度活用推進委員会への参加	△

### 3. 出来した事案

(1) 特になし

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 和生園

施設長 松本雄二

### 和生園の基本方針

1. ご利用者一人一人の可能性と無限性を求めます。
2. 個々のニーズに応えるべく高い専門性を持ったチーム支援を実施します。
3. 地域に支えられ、地域の信頼に応え地域と共に歩みます。

### グループホームもみの木・かしの木の基本方針

1. ご利用者一人ひとりの人権を尊重し、自立へ向けての個別支援を行います。
2. ご利用者が、安全・安心・快適な生活を送られるように支援します。
3. 地域との連携を重視し、地域に根ざしたホーム作りに努めます。

### 第4期中期計画のビジョン

一人ひとりがストレングスを活かした自己実現と  
仕事を通じた社会とつながる施設を目指します。

### 2022 年度の事業報告について

2021 年度末をもって就労移行支援事業を廃止いたしました。2022 年 6 月より就労継続支援 B 型事業の利用定員を 34 人から 40 人に増員して、新たにご利用者や地域のニーズにお応えするべく努力して参りました。ところが事業計画通りに新たにご利用者を見つけることができず、結果として当初予算を大きく見直さなければならない状況となってしまいました。しかしながら、2023 年 3 月に 1 人の就労継続支援 B 型の女性利用者が一般就労されました。就労移行支援事業で培ったスキルと日頃の訓練が生んだ実績として高く評価できると考えており、このまま和生園の就職定着支援事業に繋がればと考えています。

さくらの苑前の農地（だいふくファーム）の活用につきましては、(株)姫路生花卸売市場の全面的なバックアップを受け、小菊の栽培に専念しました。8 月のお盆用と 9 月のお彼岸用にとそれぞれ 3 色の小菊を定植しましたが、色によっては計画通りに開花しないものもあり、販売には非常に苦労しました。作付け可能な面積は 6~7a の狭い農地ではありますが、稲作に比較して約 3 倍の利益を確保することができ、次年度からの花栽培において大きな自信を持つことができました。また可能な限りの暑さ対策を講じているとはいうものの、真夏の酷暑の中でご利用者が進んで農作業に取り組んでいただけたことには、心から感謝いたします。また、神戸新聞に 2 度、朝来市の広報誌にも和生園（第 2 和生園）の農業への取り組みを掲載いただきました。その関係もあり地域の方々や竹田を観光に来られた方にも認知いただき、直接小菊を購入に来て下さることも度々ありました。

共同生活援助事業では、昨年度に引き続き夜間支援従事者として宿直者を配置し、ご利用者の安全で安心な生活の場の提供に努めましたが、以前 DV を受けていた内縁の夫の下に女性ご利用者が逃避する事案も発生しました。結局、グループホームをそのまま退去されたため、空室を埋めるべく県内の市町村や近隣の相談支援事業所に広く情報を提供しましたが、ご利用者を確保することができませんでした。

1. 事業概要

開設年月日：1982年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	40名	身体・知的障害者
障害福祉サービス事業（第2種）	就労定着支援	—	身体・知的障害者
障害福祉サービス事業（第2種）	共同生活援助	17名	身体・知的障害者

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
施設内理念研修の実施	①施設内理念研修会開催	ア) 小西牧師による礼拝 和生園（毎月/年12回） グループホーム（偶数月/年6回） イ) 理事長による理念講話（9月）	◎
理念研修への参加	①職員の参加	ア) 但馬地区キリスト教福祉基礎研修を職員1名が受講（9・10・11月）	◎
神戸聖隷ハンドブックの活用	①3ヶ月毎の職員会議で活用の活用	ア) 神戸聖隷ハンドブック活用の代替として、小西牧師による礼拝を実施（毎月/年12回）	△
ご利用者への困り事への柔軟な対応	①困り事調査（9・3月）と対応	ア) 困り事調査は未実施 イ) 利用者満足度調査の実施（1月）	×
和生園・GHの広報紙の継続と発行	①広報紙発行（12月）	ア) 広報紙4号を発行（12月） イ) Facebookへ投稿（6・7・9・10・11・2月）	◎
施設内へキリスト教を象徴した掲示物等の工夫	①掲示物の検討と掲示	ア) 計画をペンディング（11月）	×

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
職員確保の工夫	①職員確保	ア) 和生園：年度末退職者2名 イ) グループホーム：年度末退職者1名 ウ) 和生園、グループホーム共にハローワークを介し、職員確保完了（2・3月）	◎

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
様々なメディアにて求人を実施 (GH 世話人・夜勤者 or 宿直者を含む)	①宿直を行う夜間支援従事者の配置の継続	ア) グループホームかしの木を拠点として宿直を配置し、宿直体制を継続、維持	◎
勤務時間の見直しと業務の改善について検討	① 可能と判断した文書帳票のペーパーレス化 ② ペーパーレス帳票の整理	① ア) 工賃配分に係る帳票のペーパーレス化を開始し、次年度 4 月完全ペーパーレス化実施予定 (6 月) イ) 拠点間 Web 会議と資料共有によるペーパーレス会議を定着(11～3 月) ② ア) ケア記録、各種日誌、出張に係る届出書をペーパーレスで管理	○
新人・新任職員マニュアルの整備	① マニュアル (エルダー制度等) の運用と見直し	ア) 新任職員へマニュアルを配布し、OJT を実施 (4 月～) イ) 業務マニュアル整備のための調査と一部変更、整備状況把握の実施 (10・11 月)	△
専門的知識の習得 (Web 研修を活用して外部研修会への積極的な参加)	① Web での研修会参加	ア) 法人内 Web 研修を受講 ・ SMBC 経営 Web セミナー ・ ハラスメント研修 ・ Teams と OneNote 活用学習会 ・ 男性の育児休業取得促進に向けた管理職向け研修 ・ 困難事例勉強会 イ) 法人外実施の Web 研修を受講 ・ サービス管理責任者研修 ・ インボイス制度セミナー	○

## (3) QOLの視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
現状に合わせた作業の開拓	①働き甲斐に繋がる新規作業の開拓 ②さくらの苑横農地（だいふくファーム）を利用した作業の開始	① ア)作業開拓（作戦）会議の月次開催 イ)作業収入前年度対比表を活用し月次で作業分析 ウ)有限会社オグラより、新作業の提供（8月） エ)ブドウ生産者の紹介を受け、渉外の実施（1月） ② ア)令和3年度障害福祉事業所農業参入モデル支援事業に係る補助金申請完了（4月） イ)小菊栽培、収穫、出荷（5～8月） ウ)農福連携事業に係る取材、紹介 ・神戸新聞掲載（6・8月） ・近畿農政局ホームページ（7月） ・朝来市市報掲載（11月） エ)小菊定植に向けた圃場準備開始（3月）	○
安定した製袋作業の定着	①年間受注数の拡大と純利益増 ②製袋機が操作できる職員2名の育成	① ア)指定ごみ袋 大：736,000枚生産 小：213,000枚生産 イ)売上利益：3,328,164円 前年度より196,387円増 ウ)指定袋生産に係る単価交渉により、次年度単価の決定（3月） 指定袋 大：24.5円（+5.4円） 指定袋 小：17.1円（+3.4円） ② ア)製袋担当職員2名体制での作業を通じ、1名が製袋機操作を取得 イ)目標工賃達成指導員へ製袋切替作業の指導開始（8月）	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
新工賃システムの定着	①新工賃システムの振返りによる課題整理と修正	ア)利用者が納得でき、公平性を保った作業評価・評価基準及び工賃配分方針の確定（10月） イ)実際の作業に係る難易度、特殊性と作業評価を反映した工賃配分額の試算及び改定完了（11月） ウ)改定した作業評価基準及び工賃配分方法の利用者説明を実施し、4月より運用開始を表明、運用準備完了（2・3月）	◎
計画的な外部研修会参加と伝達研修の徹底	①職員毎の研修計画の立案と派遣、伝達研修実施	ア)法人外研修受講及び伝達研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサポート普及研修会</li> <li>・農福連携推進会議</li> <li>・消費税インボイス制度説明会</li> </ul> イ)法人外研修のみ受講 <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス管理責任者養成研修</li> <li>・社会人キャリアアップ講座</li> <li>・キリスト教社会事業同盟リーダーシップ研修ゼミ</li> <li>・福祉施設対象の防火研修会</li> </ul> ウ)法人内研修受講及び伝達研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束研修会</li> <li>・感染症認定看護師による研修会</li> </ul> エ)法人内研修のみ受講 <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神、発達障害者しごとサポート養成講座</li> <li>・法人上級一般職研修</li> <li>・法人中級一般職研修</li> <li>・法人総合職員研修</li> </ul>	◎
虐待防止勉強会の開催	①勉強会の開催	ア)虐待防止基準・事例検討会に係る虐待防止勉強会を実施（10月） イ)虐待防止セルフチェックに全職員 Web 回答実施（9・2月）	◎
(GH) 夜間支援体制の向上と実施	①夜勤（宿直）業務の継続	ア)宿直者による夜間支援体制を継続	◎
(GH) 世話人の確保	①職員体制（世話人）、5:1の維持	ア)月次で人員配置基準状況を確認し、5:1の人員配置を維持	◎

## (4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
ニーズに応じた送迎サービスの実施	①送迎継続	ア) ニーズに応じた送迎範囲の拡大による送迎サービスの提供 ・山東町方面 (6 月～) ・和田山町大蔵地区方面(7 月～) ・グループホームめぐみ(9 月～) ・(旧) 朝来町方面 (12 月～) ・自力通所の難しいグループホーム利用者の送迎 (積雪・凍結時)	◎
送迎体制の整備	①送迎サービスの継続	ア) 送迎加算Ⅱの取得を継続 イ) 送迎サービス利用希望者の状況に合わせてながら、送迎ルート及び時間を調整	◎
交通安全教育実施による安全運転意識の充実	①安全運転講習会開催 (7 月) と危険個所の共有	ア) 発生した車両に係わる事故の職員共有と注意喚起 (5・9 月) イ) 送迎ルート上の危険個所の共有 (7 月) ウ) 送迎ルート上の危険個所マップを作製、公用車内に配布 (8 月) エ) 車両事故発生時対応マニュアル更新と職員共有 (9 月)	○
月額平均工賃 17,000 円の確保	①定期的な企業訪問による新規作業の獲得 ②製袋作業の効率化による、生産性の向上	① ア) 企業開拓 (作戦) 会議の月次開催による対策の検討、実施 イ) 作業開拓のための情報収集と企業紹介に関する相談 (6 月) ウ) 有限会社オグラより、新規作業の提供による作業開始 (8 月) エ) ブドウ生産者の紹介と、生産者訪問による作業説明、検討 (9 月) ウ) 月額平均工賃 17,970 円 平均工賃時給額 210 円 ② ア) 生産性向上に向けた職員 2 名体制での製袋作業実施 (4 月～) イ) 業務分担表による納品業務の連携	△

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
<p>目標利用人数の達成</p>	<p>①就労継続支援 B 型事業の定員変更 (34→40 名)            ②利用者、家族の高齢化による利用日数減への対応            ③施設外就労から施設外支援への切替え</p>	<p>①            ア) 34 名→40 名への定員変更のための指定変更申請を実施 (4 月)            定員 40 名で稼働 (6 月)            イ) 新規利用者確保に向けて関係各所への紹介依頼と情報収集 (5～3 月)            ウ) グループホーム入居者に係るチラシ作成及び配布 (11・12 月)            エ) 在宅障害者に係る情報の収集            ②            ア) コロナ感染による利用控えをされている利用者の自宅訪問            イ) 利用日数の少ない利用者のサービス担当会の開催依頼と出席            ウ) 自力通所が困難となった利用者の送迎サービスの提供            エ) 長期入院を要した利用者への、退院後の利用再開に向けた支援の提供 (入院期間中)            オ) 熱発等のコロナ感染症状を申出られた利用者へ抗原検査キットを無料配布            カ) コロナ感染を原因とした営業休止期間中の全利用者へ、電話等による健康把握及び支援の実施 (12・1 月)            キ) 欠席の多い利用者の欠席理由の把握と利用を促す為の電話等支援実施 (2 月～)            ③            ア) 利用者のあったかプラザ作業を週 3 日とし、施設外支援へ変更 (4 月)            イ) 施設外支援延べ日数 : 143 日</p>	<p>○</p>

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域清掃活動の継続 (第2 和生園)	①毎週火曜日に実施	ア) 毎週火曜日を基本に清掃作業を継続実施	◎
資源回収へ人的、物的労力での協力を継続 (和生園)	①資源回収への人的、物的協力の提供 (5・10・3月)	ア) 地区の資源回収に車両を提供し、担当職員1名が回収に協力 (5・10月) イ) 2月に予定されていた資源回収は、新型コロナウイルス感染症により中止	○
地区行事への積極的な協力	①地区行事への協力	ア) 地区行事への参加及びボランティアの実施 ・朝来市民一斉クリーン作戦に合わせた、和生園周辺の除草作業 ・竹田町中サイエンスキャンプ ・立雲峡桜植樹ボランティア ・秋葉台周辺道路の除雪ボランティア ・竹田諏訪橋西詰め周辺歩道の除雪ボランティア	○
秋葉台3区ボランティアサークルへ活動お手伝いの申出と活動への協力	①秋葉台3区ボランティアサークルへお手伝い	ア) 秋葉台3区ボランティアサークルの除草作業に協力 (11月)	△
自立支援協議会への積極的参加	①朝来市自立支援協議会への参加	ア) 朝来市自立支援協議会から出席要請を受け、出席 (12・3月)	◎

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
無賃残業ゼロの徹底	①勤怠管理システムとセキュリティ施錠時刻の突合	ア) 残業を必要とする場合は、事前申出を職員が遵守	○

### 3. 出来した事案

#### (1) 閉めようとする公用車のドアに手を挟まれた労働事故の件（4月）

第2和生園車庫内で、納品から戻り、公用車から降りた職員が運転席のドアを閉めた際、他女性職員の右第2～4指を挟みこんでしまう事故が発生しました。事故発生時、出血や手指欠損はありませんでしたが骨折の可能性があります。施設長の対応にて朝来医療センター整形外科を受診しました。結果、骨折は認められないものの、腫脹及び激しい痛みが有るため患部シーネ固定の処置を受けました。労働者災害補償保険で対応し、7月13日の朝来医療センター受診をもって完治としております。

#### (2) 和歌山県で暮らすと置手紙を残し出でいかれたグループホーム女性利用者の件（4・5月）

「和歌山市在住の男性と生活を送ります」との内容の置手紙をグループホームの自室に残し、逃避する事案が発生しました。置手紙には逃避先住所と電話番号が記されていましたが、無断外出による行方不明として捜索願を南但馬警察署へ届出し、安否確認を行っていただきました。逃避先はDV被害の加害者（内縁の夫）であることを、本人からの事情確認にて判明しています。

グループホームかしの木Ⅱに戻り生活する意思がないことを確認したため、措置機関へも報告し、和生園、グループホームの支援を終了としています。

#### (3) グループホームの契約解除の意思をもって無断外出された女性利用者2名の件（5月）

グループホームで生活されている2名の女性利用者が福知山までの外出と偽り、和歌山市方面へ無断外出する事案が発生しました。和歌山市への無断外出に至った理由は、先に和歌山市へ行った女性利用者を頼れば、何とかしてもらえとの安易な思いつきによるものでした。無断外出が判明した翌朝、南但馬警察署へ捜索願を届出し、両名共に和歌山駅前で和歌山北警察署員により保護されました。保護の連絡に併せて、和歌山北警察署へ女性利用者2名の引き取りに行きました。

無断外出先での行動を確認する中で、第三者より借金をしている事や多くの荷物を預かってもらっている事など、第三者への迷惑行為と自分本位な行動が判明しています。

迷惑をかけた方々には、それぞれの謝罪と対応を行い、この事案を解決しています。

#### (4) グループホーム男性利用者の行動に対する南但馬警察署への通報に関する件（7月）

グループホーム男性利用者が和田山町弥生ヶ丘集会所で遊んでいた女子児童への執拗な声掛けを行う事案がありました。怖がった女子児童が近くの大人に助けを求め、南但馬警察署へ不審人物として通報がありました。南但馬警察署より校区内の小学校長への報告を通じた朝来市内教育委員会への連絡により、朝来市内の全学校へ不審者に係る注意喚起の指示と学校から保護者への連絡をされています。

南但馬警察署の刑事から女子児童へ状況の聞き取りが行われ人物特定に至ったとの事で、同日夜、グループホームかしの木で刑事2名による事情聴取が行われ、不審人物の断定となりました。男性利用者は刑事より厳重注意を受け、本人の言葉と文字で「声をかけない」旨の誓約書と、管理者による「本人が誓約した事項を本人へ守らせる」旨の一筆の加筆を求められ、その様に対応を行いました。この件は書面にて家族へ報告致しました。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 北但広域療育センター  
施設長 稲津 慎也

### 北但広域療育センターの基本方針

1. 利用者の人権を尊重して、利用者が全人的に生かされることを目指して支援します。
2. ICF の障害観点に立って、生活、環境をも考慮した質の高いサービスの提供を目指します。
3. 北但馬の療育の中核として、職員の専門性の向上を図り、地域（教育、医療、福祉、家庭）との連携体制の構築を図ります。
4. キリスト教精神を持って、日々、利用者と接します。

### 第4期中期計画のビジョン

**専門家集団として、地域から求められる役割の明確化とサービス提供体制の確立。**

#### 2022 年度の事業報告について

今年度も引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を徹底することでクラスターが発生することなく事業を継続できましたが、職員、ご利用者の感染者は多く、その対応に追われた一年となりました。当初の予算目標については、センター全体でみると達成することができました。大きな要因として、「すまいる」の利用率が過去最大となったことがあります。反面、「らみい」については利用率大きくが落ち込みました。「トゥモロー」はわずかに届かず、「ぴあほくたん」についても目標達成には至りませんでした。

児童発達支援センター「すまいる」では、新規登録者の低年齢化が顕著になるとともに、利用ニーズも増加し、年度末にはセンター化以来最多の 120 名の登録者となりました。それに伴い利用率が昨年比に大きく上がり、新型コロナウイルスや体調不良等による欠席の影響は大きかったものの、当初予算目標を大きく超えて達成することができました。

放課後等デイサービス「らみい」については、年度途中での利用終了等も影響しましたが、職員の補充ができなかったことで児童指導員等加配加算の取得ができなかったことが予算未達の最も大きな要因となりました。次年度の大きな課題となっています。

障害児者通所支援事業「トゥモロー」では、生活介護についてはご利用者 1 名が長期入院となり、また、その後の利用が難しくなったことが利用率に影響しました。放課後等デイサービスについては生活介護へ移行される方等、特別支援学校との連携を密にしながら調整を図り、スムーズな移行に努めました。

相談支援事業「ぴあほくたん」は、今年度相談支援専門員 2 名相談員 2 名の体制で業務を行うことができましたが、3 月末には 1 名退職となり、体制づくりが困難な状況が続いています。

クローバー豊岡ブランチでは、昨年引き続き南但との関係機関とも多く連携しながら、地域支援者に向けた連続講座、保護者向け講座等を実施し、地域の発達障害者支援の中核的役割を果たすことができました。

発達クリニックでは、発達検査数も継続して多数あり、心理士 3 名にて対応していますが、次年度 1 名が長期休みとなるため、検査への対応が今後の課題となっています。

## 1. 事業概要

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
障害児通所支援事業（第2種）	児童発達支援 保育所等訪問支援	20名 —	障害児
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	8名	重症心身障害者
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス		重症心身障害児
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス	10名	障害児
相談支援事業（第2種）	一般相談支援	—	身体障害児者 知的障害児者 発達障害児者
	特定相談支援	—	
	障害児相談支援	—	
公益事業	ひょうご発達障害者支援センター -クローバー豊岡プラザ	—	発達障害者
公益事業	風（ふう）発達クリニック	—	小児科・精神科 神経内科

## 2. 推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
理事長・牧師との相互交流による理念の浸透	① 職員会議にて理事長による講話を実施 ② 職員会議にて牧師による講話を実施 ③ コロナ禍での実施方法の検討	①②③ ア) 新型コロナ感染状況把握に終始し、収束後まで保留	△
法人内外への理念研修への参加	① 法人理念研修への参加 ② 職員会議での伝達研修による情報共有	①② ア) 今年度の理念研修は中止	×
基本理念に基づく部門ごとの基本方針の策定	① 基本方針の部署会議での唱和による職員間の共有 ② 基本方針の保護者・家族への周知	① ア) 毎月の部署会議冒頭に唱和 ② ア) 保護者会にて説明し配布	◎

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
外部研修への積極的参加と内部研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 年間研修計画に沿った外部研修への参加</li> <li>② 年間を通して高度人材育成プログラムの受講</li> <li>③ オンラインを活用した研修受講</li> <li>④ 計画的な内部研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 虐待防止研修 2 名受講 (7 月)</li> <li>イ) 権利擁護研修 2 名受講 (9 月)</li> <li>ウ) ASD 支援者講座 1 名受講 (9 月)</li> </ul> </li> <li>② <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) オンラインにて全 16 回受講完了</li> </ul> </li> <li>③ <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) LITALICO 研修 8 名受講</li> <li>イ) HUG 研修 1 名受講 (8 月)</li> <li>ウ) 国立病院機構研修 1 名受講 (9 月)</li> </ul> </li> <li>④ <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) すまいる研修 (5 回実施)</li> <li>イ) らみい研修 (2 回実施)</li> </ul> </li> </ul>	○
近隣施設の見学による体制強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 近隣施設の見学</li> <li>② 近隣施設との連携強化と情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) コロナ感染拡大によりエスポワールこじか見学を延期 (7.8.9 月)</li> </ul> </li> <li>② <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) エスポワールこじか職員見学による連携実施 (7 月)</li> <li>イ) 自立支援協議会こども部会での情報提供・共有実施 (6 回)</li> </ul> </li> </ul>	△
職員の定着による後継者育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>① エルダー制度の継続実施</li> <li>② 事業ごとのチェックリストの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 新規採用保育士で実施 (4 月～)</li> <li>イ) 新規採用 PT で実施 (9 月～)</li> </ul> </li> <li>② <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 日々の振り返りと月ごとのフィードバックを実施 (年間通して 2 名)</li> </ul> </li> </ul>	◎
指定管理下の職員配置基準見直し交渉	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 後継者育成を踏まえた職員の適正配置の検討</li> <li>② 必要に応じて指定管理の配置基準について協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) らみい保育士定着に終始</li> </ul> </li> <li>② <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 指定管理更新のための振り返りと加算算定に応じた人員配置を協議 (8 月)</li> </ul> </li> </ul>	△

(3) QOL の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
コミュニケーション機器についての情報収集及びそれら先進機器の導入と活用	① 現行機器の有効活用の検討 ② 機器導入に関する助成事業の リサーチ ③ 先進機器のデモンストレー ションを実施 ④ 先進機器使用者の検討 ⑤ 先進機器導入効果の検討 ⑥ 先進機器導入機種決定 ⑦ 先進機器購入準備	① ア) インターネットでの情報収集実施 イ) 特別支援学校にて活用方法の情 報収集を実施 ②③④⑤⑥ ア) 未着手	△
保護者への情報提供とニーズへの適切な対応	① 機関紙での Q&A の掲載 ② SNS を活用した情報提供を随 時実施 ③ オンラインと並行した保護 者会、勉強会の開催	① ア) 風便りで Q&A 掲載 (5, 6, 7, 8 月) ② ア) 新型コロナ感染状況を一斉メー ルで配信 ③ ア) 保護者会をハイブリッド形式で 実施 (7 月)	○
保護者同士のつながりを持つ場 の提供	① 保護者同士のつながりを持つ 場の提供 ② テーマ、目的別の勉強会の開 催 ③ メンターの育成	① ア) すまいるカフェ実施 (5, 7, 10 月) イ) らみいカフェ実施 (6, 11. 1 月) ② ア) 就学へ向けた学習会実施 (4 月) イ) テーマ別保護者学習会実施 (5~8 月) ③ ア) 保護者会にて趣旨説明実施	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
老朽化対策 と療育・相 談スペース 拡大の検討	① 駐車スペースの確保 ② トゥモロー設備老朽化対策 ③ トゥモロー利用ニーズ調査 ④ 相談スペース拡大について 検討 ⑤ 必要に応じて市へ提案し協 議	① ア) 駐車スペースライン見積り実施 (4月) ② ア) トゥモロー特浴補修 (4月) イ) 壁紙の見積り実施 (8月) ③ ア) 未実施 ④⑤ ア) 継続して市と協議を実施 イ) 指定管理振り返りを提出 (7月)	△
円滑な事業 実施のため の新規スペ ースの検討	① 改善個所の整理 ② 改善後のイメージ化 ③ 行政との協議	① ア) 改善個所の見積り取得 (8月) ② ア) 指定管理更新事業計画書へ記載 し提出 (9月) ③ ア) 指定管理振り返りに対しての協 議実施 (8月)	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
組織再編に よる加算取 得	① 専門職の適正配置による加 算継続取得 ② 後継者育成のための職員配 置 ③ 相談支援体制の充実	① ア) らみい保育士充足するも退職に より未算定 ② ア) OT、ST へヒアリング実施 (8月) イ) OT、ST の後継者募集開始 (8月) ③ ア) 継続して市と協議を実施	△

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
療育体制と療育の質の向上	① 研修ソフト活用による療育体制の充実 ② 魅力あるプログラム提供による利用目的の明確化 ③ スムーズな利用につながる療育導入のルール作り ④ 適切な職員配置とグループ編成の実施	① ア) 新規採用職員 2 名受講(4 月) イ) 新規採用職員 1 名受講(9 月) ② ア) 利用間もない保護者学習会(おひさまテラス)を開催し利用目的を説明(5, 6, 7, 8, 11, 12, 1, 3 月) ③ ア) 契約時のアセスメントにより療育を開始 イ) 例年以上の利用ニーズに対応 ④ ア) コロナ感染状況により新規グループ編成は下半期へ延期	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
一般市民や一般企業を対象にした啓発のための講演会・研修会の実施	① 関係機関、地域へ講演会・研修会テーマの情報収集 ② 地域へ向けた講演会・研修会の開催 ③ 放課後等デイサービス事業所へのコンサルテーションの実施	① ア) 情報収集し、案を作成 ② ア) 12 月 26 日開催 (会場 9 名、web15 名参加) ③ ア) らみいへのコンサルを実施(5. 6. 8, 1 月) イ) 朝来市内事業所のコンサルを実施(9 月)	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
よりわかりやすく活動目的、内容を PR するための最新の情報発信方法の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ホームページのレイアウト検討</li> <li>② QR コードを活用した活動の PR を実施</li> <li>③ 市内事業所への情報発信方法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ア) ホームページ変更箇所の更新</li> <li>② ア) パンフレットへの掲載を検討</li> <li>③ ア) 自立支援協議会こども部会での情報発信と共有を実施</li> </ul>	△
地域ニーズの充足と安定した経営の両立	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 関係機関からの情報収集</li> <li>② 関係機関とのニーズの整理・協議</li> <li>③ 事業展開に向けた組織体制の検討</li> <li>④ 新規スペースでの事業展開を行政と協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ア) 自立支援協議会、ほっとかへんネットからの情報収集実施</li> <li>② ア) 市社会福祉課、基幹相談支援センターとの利用ニーズの協議実施</li> <li>③ ア) 指定管理更新、第 5 期中期計画策定作業を開始</li> <li>④ ア) 指定管理振り返りを提出し、市担当者と協議 イ) 指定管理更新事業計画を提出</li> </ul>	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
正規職員、非正規職員を適正に配置した組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 円滑に業務遂行できる職員体制の確立</li> <li>② 法人新体制に応じた組織体制のイメージ作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ア) PT の採用(9 月)、らみいについては募集継続</li> <li>② ア) らみいの組織体制について継続して検討</li> </ul>	△

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
雇用形態に応じた明確な職務分掌の作成	① 雇用形態に応じた職務分掌の分析・整理 ② 業務が偏らない適正な職務分掌の実施	①② ア) 新規受け入れ態勢構築のための役割分担の検討を実施	△
業務内容の把握と整理	① 各事業の業務内容の把握 ② 各事業の業務内容の整理 ③ ペーパーレス化の推進	①② ア) 課題発生時に都度対応を実施 ③ ア) 請求書控えの PDF 保存 イ) 一部日誌・会議録のデータ管理	△
療育に特化したソフトの活用による業務効率化	① 教材ソフトの活用による業務の効率化 ② 支援スキルの円滑な療育へのフィードバック	① ア) 療育準備にて活用継続 ② ア) 支援ツールを療育にて活用	○
各部署内、部署間でのスムーズな情報伝達・共有を進めるためのソフト導入	① 旧式パソコンの更新と SSD への換装 ② 記録作成手順書の作成 ③ 記録ソフトの導入 ④ 記録ソフトの試行 ⑤ 記録ソフトの本稼働 ⑥ 記録ソフトの活用と振り返り	① ア) 旧式パソコン 2 台更新 (7 月) イ) ノートパソコン HDD から SSD への換装完了 (8 月) ② ア) リタリコ版を作成したが再検討 ③④ ア) LITALICO 記録ソフトの試行 イ) 職員会議にて説明 ウ) 記入様式の課題発覚、検討 ⑤⑥ ア) 別ソフトを含め検討	△

### 3. 出来した事案

(1) 特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 エスポワールこじか  
施設長 種谷 啓太

エスポワールこじか基本方針

1. 利用者一人ひとりを大切に、専門性を生かした支援を目指します。
2. 利用者の個性及び人権を尊重し、健やかな成長に向けて総合的に支援を行います。
3. 地域の保健・医療・福祉等との綿密な連携を図り、地域と共に歩む施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

地域に必要とされる資源(物も人も)になる。

2022年度の事業報告について

今年度は「次期世代育成の基礎を固める」ことを目標に進めてきた第4期中期計画の最終年として、特にQOLの視点から「療育プログラムの多様化」に力を入れて取り組みました。

療育活動は室内が中心でしたが、今年は「高原畑での大根掘り」や「バスに乗って消防署見学、足湯体験」、「図書館利用」など施設外での体験活動に取り組みました。また施設内でも夏季にビニールプールを使った「水遊び」や季節に応じて「こいのぼり」「七夕」「クリスマス会」などの内容を取り入れるなど、スタッフ自身が企画してプログラムに変化を持たせることが出来るようになってきています。

但し、人材育成の視点から「施設内OJTの実施」としての「施設見学の案内」や「園校訪問」などの取り組みは、新型コロナウイルスの影響で思うように実施できませんでした。また今年特に思うように行かなかった計画は、経営強化の視点「目標利用人数の達成」です。目標2,058人に対し、実績1,971人と△87人未達となりました。1か月約7人のマイナスです。新型コロナウイルスの影響もありますが、今年度は過去に例を見ないほど保護者の都合による欠席が多く、振替の提案も思うように進みませんでした。下期は利用の増加も見られましたが、上期のマイナスをカバーするには至りませんでした。

その他、今年度掲げた計画「研修の受講」や「保護者学習会」「地域関係機関との良好な連携作り」などは概ね達成出来たと感じます。

新型コロナウイルスの影響で進まなかった課題や第4期計画の実践から見えた課題などは、第5期中期計画に盛り込みより地域の資源となれるよう進めてまいります。

### 1. 事業概要

開設年月日：2011年4月1日（委託開始）

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害児通所支援事業（第2種）	児童発達支援	10名	身体・知的障害児	2013年4月1日
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス	10名	身体・知的障害児	2013年4月1日
相談支援事業（第2種）	特定相談支援	—	障害児	2014年10月1日
	障害児相談支援	—	障害児	

2. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
理念の研修、ハンドブックの活用	①理事長・牧師等による理念勉強会の実施 ②ハンドブックの職員会議での活用	① ア) 吉田常務による理念勉強会 7名出席 (9月) イ) 小西牧師によるキリスト教福祉勉強会：8名出席 (6月) ② ア) 毎月職員会議にて唱和	◎
聖書の唱和基本理念の唱和	①朝礼時の聖書唱和实施 ②基本理念、運営方針、平和を求める祈りの朝礼時唱和等継続	① ア) 聖書朗読「ルカによる福音書4章31節」～「ヨハネによる福音書17章26節」 ② ア) 毎日朝礼にて唱和、また「基本理念、施設方針、平和を求める祈り」の唱和継続	◎

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
資質向上を図る研修の実施	①ビデオ研修継続 ②スーパーバイズによる研修 ③伝達研修の実施 ④ケースカンファレンス ⑤感染症予防対策研修 ⑥発達障害実務者養成研修等の受講 ⑦強度行動障害支援者養成研修 ⑧療育活動の見学・研修	① ア) ビデオ研修8回実施 ② ア) 稲垣心理士による現場研修、中江心理士による現場研修 (2回) ③ ア) 感染症予防、施設見学報告会 ④ ア) 施設内4回実施 ⑤ ア) 感染症予防研修 (5月)、嘔吐物処理施設内研修 (2月) ⑥ ア) 3回 (7月、8月、10月) ⑦ ア) 受講申請も受講不可 ⑧ ア) 北但療育センター7名見学	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
権利擁護（・虐待、身体拘束、苦情、成年後見など）等研修	①虐待防止研修の実施 ②虐待対応力向上研修 ③身体拘束適正化研修 ④リスクマネジメント研修	① ア)虐待防止判定基準事例検討会実施（11月） イ)虐待防止チェックリスト2回実施（9月、2月） ② ア)基礎Web研修受講（9月） イ)障害者虐待対応力向上研修C研修（11月） ③ ア)Web研修にて全員受講（7月） ④ ア)「個人情報保護」について実施	◎
地域に出向いてスキルアップを図る	①園校に依頼による派遣と評価の実施 ②地域の育児支援への協力	① ア)こども園6か所訪問 イ)訪問報告会3回 ② ア)朝来市公立こども園介助員研修講師への協力	◎
施設内での役割の明確化	①OJT（施設内育成）の実施 （1）見学（2）園校訪問 （3）サビ管業務等（4）請求 （5）保護者支援 ②準職員への評価の継続と評価方法の見直し	① ア)園内見学説明…5件実施 イ)園訪問…5件実施 ウ)個別支援計画、モニタリング等内容の共通理解の実施 エ)「ほのぼの」を使用した請求国保連送信まで実施 請求のダブルチェック実施 ウ)学習会進行…学習会開催の計画と実施 ② ア)評価表修正（評価項目のポイント欄追加、フィードバック面接での強みと弱みの伝達） 準職4名自己評価実施(11月) ポイント記入後フィードバック面接実施（1月）	○

## (3) QOLの視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
保護者勉強会の実施	①6回以上の全体学習会等を実施 ②小グループ別勉強会の実施	① ア)8回実施 保護者延べ33名参加 「療育の役割」(6月)、「子育ての工夫」(7月)、「メンター相談会3回」(6月、9月、12月)、「発達検査の見方」(8月)、「就学前に準備する事」(11月)、「言葉の発達について」(1月) ② ア)8回実施 保護者延べ28名参加 「ほめ上手になろう」2回、「リフレーミング言葉変換活用」2回、「出来ることを増やす工夫」2回 「サポートファイル作成について」2回	◎
満足度アップ	①満足度調査実施とHPへの公表 ②個別支援計画等の面談実施(年2回以上)	① ア)9月5日～9月30日間で実施 49家族へ配布、48家族回収 イ)アンケート結果検討会議実施(11月)、アンケート結果ホームページにて公表(12月) ② ア)9月26日より前期まとめ、後期の計画について面談実施 イ)3月17日より後期まとめ保護者面談実施	◎
なんでも相談の実施	①利用の有無関係ない色々な保護者の相談へ随時対応	ア)電話15件、来園2件対応	◎
医師による相談支援	①毎月のDr療育相談継続	ア)11回実施 1回キャンセル	◎

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
個々に必要な支援計画の実施	①柔軟性豊かな療育への意識改革（多様な形の療育） ②多様な療育プログラムの計画と実施 A=施設内イベント計画等 B=施設外イベント計画等 C=将来的（IT化など）療育の検討	① ア)真生園投影機器見学（4月） イ)意識改革の説明（7月） ② ア)A「こいのぼり」「七夕」「水遊び」「クリスマス会」「冬の壁画作り」実施 B「轟畑での大根掘り」（7月） 「バスに乗って消防署見学、足湯体験」（11月）実施 C「施設内 PC と iPad の Zoom 設定と使い方指導」（9月） クリスマス会に使用（12月）	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
目標の設定と達成	①目標利用人数の達成 2,058人（86.0%） ②サービス利用計画 75 件、 継続サービス利用計画 167 件 年 242 件	① ア)1,971人（87人未達） 8.2%（0.4%未達） ② ア)サービス利用計画 75 件に対し 77 件（2件増） イ)継続サービス利用計画 167 件に対し 176 件（9件増）	△  ◎
保護者希望時間の配慮	①欠席による振替実施率 30%の達成	ア)総欠席数 651 件 振替 142 回 21.8%と未達	△
専門療育の実施	①2市1町へ事業報告と評価の継続	ア)毎月事業報告を提出 イ)2市1町福祉課長との運営委員会実施（6月、12月） ウ)2市1町実務者合同連絡会（子ども育成課、福祉課、健康課）3月	◎
経営状況を意識する	①毎月利用状況の共有	① ア)毎月利用人数、利用率、目標値対比、昨年度対比を周知 イ)予算説明（4月）	◎

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域関係機関との良好な関係作り	①依頼に応じて園校訪問、参観の実施 ②養父市、朝来市、香美町自立支援協議会参加 ③2市1町関係機関の各種委員会・協議会等への協力	① ア)延べ 21 ヲ所へ訪問、延べ 8 ヲ所から参観 ② ア)香美町（全体会員と実務者） イ)朝来市（副会長と実務者） ウ)養父市（全体会員と実務者 2） ③ ア)朝来市適正就学相談会 5 回、養父市相談支援実務者会議、朝来市相談支援専門員連絡会、香美町相談支援グループ会議、各市要対協保護個別会議、養父市社福法人連絡協議会「ほっとかへんネットやぶ」、養父市社会福祉協議会評議員など	◎
オープン療育実施	①オープン療育計画と実施	ア)12月6日実施 10 家族参加 9 名利用希望	◎
情報発信ツールの見直し	①パンフレット都度見直し ②ホームページの活用内容検討 ③こじか便り毎月発行	① ア)未実施 ② ア)毎月こじか便りを掲載 ③ ア)毎月保護者・関係機関へ配布	△

## (6) 人事労務危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
労務管理の徹底	①有休消化率 55%達成 ②ノー残業デーの徹底	① ア)有休消化率 58.85% 達成 ② ア)毎週木曜日実施を徹底	◎
業務の効率化	無駄の検証と改善 ①＝記録用紙の点検 ②＝療育グッズの点検 ③＝準備等の点検	①③ ア)未実施 ② ア)療育グッズ点検	×

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
リスクの意識付け	①ヒヤリハット対策検討会議の実施	ア)職員会議にてヒヤリハット対策検討会議実施 ヒヤリハット 20 件	○
マニュアルの意識付け	①マニュアルの確認、見直し、訓練等の実施	ア)マニュアル見直し実施 イ)風水害想定避難訓練 (6 月) 不審者侵入対応訓練 (6 月) 地震想定避難訓練 (児童 4 名、保護者 4 名、スタッフ 8 名) (11 月)	◎

## 2. 出来た事案

特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸聖生園

施設長 加藤 成久

### 神戸聖生園の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 本人、家族の思い、また将来の夢や希望の実現に向けたサービスを実施します。
3. 全スタッフが力を集結し、総合力を持ってチームとして支援を実施します。
4. 「利用者主体」を支援のキーワードに、利用者参画が見える支援を実施します。
5. 地域行事・活動への計画的に参加し、利用者が地域の役割を果たす支援を実施します。
6. 利用者の安心・安全を守るため、建物・設備の改修を計画・実施します。

### 第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える魅力ある施設づくりを達成しよう」

新型コロナ感染症は1年を通して活動に影響し、利用者数減と職員配置の厳しい状況が続きました。職員体制が整わない中でしたが、感染予防対策と支援の工夫で、利用してくださる方の受け入れは継続出来ました。特にこの3年間、中止または縮小せざるを得なかった活動を少しずつですが再開し、元の形にもどすことが出来ました。「作業場での礼拝」「おいでやすカーニバル」「クリスマス会」「日帰り旅行」「個別活動(マイプログラム)」等です。

生活介護支援の専門性向上については、「クローバー豊岡ランチ」にお願いして利用者支援についての座学研修を含むコンサルテーションを受けました。特に強度行動障害や自閉症スペクトラム障害支援の先進施設の見学学習派遣、強度行動障害支援者養成研修の受講を進めて多目的室(旧作業場)の構造化支援・スケジュールボードの活用等、視覚化支援を開始できました。また、生活介護支援の定着に合わせて長年継続してきた作業活動の見直しを進め、取り組み方法の変更や受注終了を決定しました。12月にははりま総合福祉評価センターによる第三者評価を受審しました。新年度5月には評価とセミナーを受講予定です。年度後半になりましたが、1名の利用者の受け入れと新年度4月には新規利用者の受け入れが決まっています。

次年度への継続課題として、ご家族からの強い要望で「事業所内の様子が分かりにくい」点が挙がりました。個別報告の強化や地域を含めたオープン化対応を計画に入れて取り組みます。

また利用者ご本人の高齢・重度化やご家族の高齢化に伴う課題への取り組みに注力していきます。

### 1. 事業概要

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	60名	知的障害者

## 2. 推進状況

### (1) 基本理念の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
法人の原点を知る 黎明期の法人を知る方から話しを聞く機会を持つ	①歴史資料館訪問と顧問、理事による黎明期の話を受講 (4名)	ア) コロナ蔓延のため未実施	×
キリスト教基礎研修の参加	①キリスト教基礎講座に参加 (2名)	ア) 3名の職員が参加	○
基本理念の唱和/ ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読 (各々1回/週)	ア) 毎週月曜日の朝礼で唱和实施 イ) 毎週火曜日～金曜日、ハンドブックに代わり、「いのちと尊厳」「榎本保郎氏の本」を輪読	◎
牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習 ②聖書の奨励を紙面を通して実施。	① ア) 実施せず。 ② ア) 8月まで朝礼にて輪読	○

### (2) 人材育成・人材確保の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
研修の実施 新人向け、虐待防止 接遇面等	①内部研修の実施 新人向け（虐待防止、接遇面） ②外部研修の実施 専門性等（自閉症スペクトラム、高齢化の対応）	① ア) 新採用職員・年度中途採用職員に実施。 ② ア) 北但広域療育センター「クローバー豊岡ランチ」の自閉症スペクトラム学習会実施 イ) 加古川つつじ園、三木光司園の見学学習会実施、 ウ) 強度行動障害者養成研修受講	○
生活介護施設の見学	①3名以上の職員が生活介護施設の見学実施	ア) 三木光司園、加古川つつじ園を、各職員2名が見学研修実施	○

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
外部研修報告 / 施設見学報告	①研修報告の実施と報告	ア) 施設見学後に支援課会議で報告を実施また、作業場の構造化を実施	○
実習生の受け入れ	①実習生の受け入れ調整 ②実習先との連携強化	① ア) 宝塚医療大学実習生豊岡短期大実習生（社会福祉士）受け入れ 頌栄短期大、神戸常盤大実習生（保育士）受け入れ ② ア) 上記実習生大学と連絡し連携強化実施。	◎

(3) QOL の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
40 年の感謝会	①40 年を迎え、感謝の会を実施の検討	ア) 12月17日 西神オリエンタルホテルにてクリスマス会、40年記念式典を実施（家族会に会場費等を寄付頂いた）	◎
活動班の枠を超えた連携	①各活動班の連携会議の実施（1回／月） ②計画的な日中活動の実施 月間予定、年間予定の枠を設ける	① ア) 活動班会議を実施し連携した活動を実施（毎月） ② ア) 月間予定表を利用し、日中活動について確認。	◎
日帰り旅行の実施	①日帰り旅行の実施方法について協議し、実施	ア) 3回実施（神戸動物王国）（11月予定分はクラスター発生により3月に延期となった）	◎
紙すきの安定した活動	①紙すき対応職員のシフト固定実施 ②質の向上 ③新商品の開発と販売経路の模索 ④幅広い利用者の参加	① ア) 人材不足によるに配置に苦慮した ② ア) マニュアルを作成、作業手順を標準化。 ③ ア) すまるしえなど新たな販売先を開発。 ④ ア) コロナ禍による自粛	○

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
休憩できる場所の確保	①温室跡、プチハウス跡を有効利用し、利用者や職員の休憩場所などに利用するための協議を実施。 ②昨年新設した倉庫へのアプローチの整備を実施 ③新設建物の設置について検討実施	① ア) 未実施  ② ア) 補助金により整備完了。  ③ ア) 職制会で検討のみ実施	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
外部向けアピール	①職員名札の使用の継続 ②ユニフォームの継続使用 ③花壇整理	① ア) 名札の使用継続 ② ア) ユニフォームの使用継続 ③ ア) 季節ごとの花をプランターで整備実施	○
職制会での収支分析・加算等の周知	①職制会にて収支状況の確認と分析、報告、対策の協議	ア) 毎月収支状況について確認後、分析、対策などを協議	○
祝日開所の継続	①祝日開所の実施 ②魅力ある行事の実施	① ア) 計画に基づき実施 ② ア) コロナ罹患に配慮し、計画実施	○
利用者数の増加	①日々の利用数がより定員に近づけるよう新規契約者の獲得	① ア) 来年度4月入所利用者を確保 イ) 現在利用中の利用者の利用増に向けて家族への連絡強化 ウ) 適切な区分確保に向けて区分調査に職員が同席し説明	○
コロナに関しての在宅支援の強化	①家族への連絡の強化 在宅支援の理解のためのアプローチ、利用者、家族に理解してもらえるように支援を実施	① ア) 家族会、各担当による個別説明により在宅支援の意味の説明を実施 イ) 在宅支援該当者へ各担当より電話による支援を実施	◎

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
プランターで花を育てて地域に設置や配布	①花をそだてる。(プランター設置) ②地域にてプランターの設置の依頼、実施	① ア) プランターの整備を実施 ② ア) 地域へのアプローチは未実施。	○
地域ニーズに沿った、交流	①地域ニーズの把握と掘り起こし 自治会と連絡・調整 ②実施できる内容の検討 ③地域主催の行事等への参加	① ア) 未実施 ② ア) 未実施 ③ ア) 未実施	×
ゴミステーション清掃の実施	①毎週月曜日の清掃実施	① ア) 予定通り実施 (通年)	◎
バス停の清掃	①定期的な清掃の実施	① ア) 予定通り実施 (通年)	◎

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練の実施	① ア) 実施 (2回/年)	○
感染症対策の実施	①感染症対策の実施 ②備品の備蓄管理	① ア) 神戸市による PCR 検査、抗原検査を実施。(PCR は、2 週ごと、抗原検査は毎週。) イ) 施設内消毒の実施 (毎日) ウ) マスク、フェースマスク、手袋などの衛生商品の使用 (マスクは常時、その他は必要に応じて)	◎

## 3. 出来た事案

- (1) 11月にクラスター発生 5日間の休園を行う

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホームせいれいやまで  
施設長 加藤 成久

グループホームせいれいやまでの基本方針

1. 基本的人権を尊重し、利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供し、日常生活の充実と豊かさを提供します。
3. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
4. 世話人・支援員・関係者が協力し、お互いに認め合う温もりのある事業所を目指します。
5. 将来グループホームを希望される利用者の体験利用を応援します。
6. 地域の福祉相談窓口として、社会福祉で地域に貢献できる事業所を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

6月に新型コロナウイルスの陽性者が確認されて、7月にかけて利用者6名、職員1名が濃厚接触者、感染者となって利用数減となりました。利用者が複数の日中活動の場に通っておられるGHの特徴から「濃厚接触者」の対応の難しさと影響の大きさが課題として残りました。その他の期間については、各自の週末帰省パターンも安定して4名についてはフル利用くださり、365日開所できました。関係施設事業所の応援も頂いて感染症対策をしっかりと維持できました。

内部監査等で指摘を受けていた書類管理や情報共有については、サービス管理責任者、施設長がきちんと現場に出向いて確認を行い、毎月の職員会議を開催、必要な情報の発信を行いました。

また職員については年度途中で1名の職員が退職、補充が追いつかず神戸聖生園からのバックアップで夜勤、土日の日勤フォローに入ることが常態化してしまいました。早期の職員補充と職員チームへ個別支援計画の共有やマニュアルの浸透を深めて、チーム全体のモチベーションをより高めていくことを次年度へ継続する課題として取り組んでまいります。

### 1. 事業概要

開設年月日：2005年8月1日

種別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	10名	知的障害者	2006年10月1日

## 2. 推進状況

### (1) 基本理念の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
基本理念の唱和/ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読（1回/月）	①毎月の会議で基本理念の唱和を実施しました。	○
牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習会を実施する	①未実施	×

### (2) 人材育成・人材確保の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③定期的なミーティングの実施（毎月第2木 14:00～ ④バックアップ職員と情報共有継続	①未実施 ②未実施 ③毎月、職員ミーティングにて情報の共有を実施 ④サビ管と GH 職員で情報共有を必要に応じて行いました。	△

### (3) QOL の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修と振り返りの実施 ③満足度調査の実施	①支援のマニュアル化(フェイスシートの作成)を一部実施 ②施設長より虐待防止研修を実施 ③満足度調査を行い、ホームページにアップを行う	○
利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の調整	①一部の利用者の受診付き添いを実施 ②緊急時の受診体制を実施(実際にはなかった) ③未実施	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①家族会の実施 ②サビ管の常駐とスーパーバイズ ③問題や相談に対して速やかな対応実施	①未実施 ②サビ管は兼務であったが可能な限り対応を実施 ③職員からの相談対応はサビ管を中心に実施	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
利用率の確保	①目標利用率 88% ②週末帰省の短縮に向けての支援 ③週末帰省のない利用者対応を含め 365 日開所を継続	①目標利用者率は達成 ②週末帰省の短縮支援は未実施 ③週末帰省のない利用者をホームで日中支援・365日開所を実施した	◎
支援者の安定的雇用	①支援者間の連絡・調整の実施 ②職員の給与・残業等の検証とコストカット	①連絡帳を通じて支援の継続を実施また、サビ管を中心に支援の連絡・調整を行った ②未実施	○
バックアップ体制の継続	①バックアップ施設（神戸聖生園）の体制継続 ②バックアップ職員へ支援内容提示と共有化（ホームの支援マニュアルの整理）継続	①職員体調不良が出た場合はバックアップ施設の職員がフォローを実施。また、コロナ陽性者が確認された時もフォローを実施 ②連絡帳を通じて実施	◎

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域の住人としての活動	①地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供 (自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等)	①未実施	×
環境美化	①除草の実施（年 2 回）	①夏場は定期的な除草を実施	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練、防犯訓練の実施(2回/年)	①避難訓練 2 回実施	◎
感染症対策の実施	①新型コロナへの対応 ②その他の感染症対策の実施	①感染症対策を徹底した ②ノロウイルスの対策プリントを掲示している	◎

3. 出来した事案

- (1) 6月17日～7月2日までクラスター発生

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホームたいのはた東  
施設長 加藤 成久

グループホームたいのはた東の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供し、日常生活の充実と豊かさを提供します。
3. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
4. 世話人・支援員・関係者が協力し、お互いに認め合う温もりのある事業所を目指します。
5. 将来グループホームを希望される利用者の体験利用を応援します。
6. 地域の福祉相談窓口として、社会福祉で地域に貢献できる事業所を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

可能な限りの感染症予防対策を継続実施してきましたが、8月にクラスターが発生、利用者1名、職員3名が陽性となって一時帰省をお願いしたり、利用を控えて頂く等の対応が必要となりました。このため週末は全利用者が帰省することとなり、目標の一つであった365日開所はできませんでした。また、当ホームの特徴である体験利用枠の活用も休止せざるを得ませんでした。

普段のホーム支援については、職員間のチームワークにより、利用者家族との連絡や支援に関する情報交換はスムーズにでき、支援力の維持に繋がりました。

7月には行政による監査を受けましたが、監査結果連絡が年度末3月にずれ込んでしまいましたので実施指導報告は新年度に対応予定です。

上記で報告した体験利用枠については、活動休止中でしたが、利用希望と相談が相次ぎ、事業所見学と利用希望予約ができました。新年度には日本の社会全体が事業や活動の再開へ向けて動き始めます。当ホームでも感染症対策を十分に継続しながら、体験利用を軸にして本来のグループホーム支援を可能な所から再開してまいります。

### 1. 事業概要

開設年月日：2016年2月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助 (体験利用型含む)	6名	知的障害者	2016年2月1日

## 2. 推進状況

### (1) 基本理念の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
基本理念の唱和/ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読（1回/月）	①毎月の会議で基本理念の唱和を実施	○
牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習	未実施	×

### (2) 人材育成・人材確保の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③定期的なミーティングの実施（毎月第2木 14:00～） ④バックアップ職員と情報共有継続	①未実施 ②未実施（送迎時に家族と密にコンタクトを実施） ③毎月、会議を開催 ④サビ管と情報交換を実施	○

### (3) QOLの視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修(年2回)・スタッフ会議(毎月第2木)の実施 ③満足度調査の実施	①未実施 ②年1回実施 ③実施 ホームページに掲載済み	○
利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の調整	①毎月、皮膚科、歯科等の受診付き添いを実施 ②夜間に嘔吐のあった利用者の緊急受診を実施 ③状況に合わせて実施	◎

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①定期訪問 ②地域の方たちとの関係構築、交わりの機会提供 (自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等) ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難訓練の実施(2回/年)避難経路の掲示	①サビ管の定期的な訪問、もしくは電話での情報交換を実施 ②年2回の地域の大掃除に参加 ③サビ管中心に対応を実施 ④年2回実施	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
利用率の確保	①利用率94%維持を目指す ②体験型利用者受入れを延べ利用数10日/月を目指す ③家族の協力要請と週末帰省の短縮を実施 ④365日開所に向けて検討。	①90%に届かず未達成 ②コロナ禍により体験型を未実施 ③未実施 ④次年度へ向けて計画	△
コスト削減	①消耗品や調味料などの無駄を省く努力 ②水光熱費等の節約 ③残業等の見直し	①コスト削減の啓発を実施 ②節約の啓発を実施 ③未実施	△
支援者の安定雇用	①職員の給与検証とコストカット ②人材(知人等)情報の収集と確保	①未実施 ②未実施	
バックアップ体制の継続	①バックアップ施設(神戸聖生園)の体制継続 ②バックアップ職員への支援内容提示と共有化(ホーム支援マニュアルの整理) ③共有化・連絡・相談の拡充のためパソコンでの連絡 ④環境美化・除草の実施(毎月)	①継続実施 ②③パソコンでの連絡は未実施 電話、会議、訪問で実施 ④庭にシート、バラスを敷き雑草対策を実施	○
体験型利用の見直し	①開所以来の体験型利用の継続について検討	①次年度からの再開を計画	△

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域の住人としての活動	①地域の方たちとの関わり、 交わりの機会提供 (自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等)	①積極的に挨拶、清掃等を実施	◎
環境美化	①除草の実施 (毎月)	①可能な範囲で実施	△

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練、防犯訓練の実施 (2回/年)	①年 2 回の実施	◎
感染症対策の実施	①新型コロナへの対応 ②その他の感染症対策の実施	①感染症対策を継続実施 ②ノロウイルス対策の必要品準備	◎

3. 出来した事案

- (1) 8月に利用者1名、職員3名のクラスター発生 (利用者1名が濃厚接触者)

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸愛生園  
施設長 加藤 航

### 神戸愛生園の基本方針

1. 唯一無二の存在である利用者の命を守り、その人らしい生活を送ることができるように支援します。
2. 態度、言動がどのような影響を与えるかよく考え、人権に配慮したケアに努めます。
3. 利用者のニーズに基づき、従来からのサービスに固執せず、神戸愛生園の総合力を持って柔軟にサービスを提供します。
4. 施設機能の情報提供、相談を積極的に行い地域に必要とされるよう努力します。

### 第4期中期計画のビジョン

「ここにいて良かった！」と言える施設作りを目指します

#### 2022 年度の事業報告について

2022 年 2 月に施設を襲った大クラスターやオミクロン株の大流行の影響に翻弄された 1 年でした。ご利用者の発熱や職員のコロナ陽性が発生した際、新しく作成した「初期対応フロー」により、ご利用者の全館隔離、職員の防護服対応を繰り返し強いられた一年でした。その甲斐あって今年度ご利用者のコロナ感染者は発生しませんでした。しかし予定していた 40 周年記念行事など取り組めなかったものも多く、今後に持ち越しとなりました。

EPA 候補者は 2019 年 12 月に就労開始した 1 期生 2 名が介護福祉士国家試験に挑戦し、内 1 名が合格となりました。2022 年 2 月に就労開始した 1 人は、JLPT（日本語能力検定）N3 を取得するなど勉強面の他、深夜勤を含むローテーション勤務を独り立ちするなど仕事面でも進展が見られました。

過年度より持ち越し事項となっていたアピールボード（通称理念の樹）がようやく完成しました。ご利用者の他、ご家族などの来園者に好意的に受け取って頂いています。今後職員の理念実践の糧になるよう継続して取り組んでいきます。

コロナに大きく翻弄された 1 年でしたが、その厳しい状況の中や、第 5 期中期計画策定の過程で、課題や取り組むべき事柄も見えてきました。次年度以降に生かして参ります。

### 1. 事業概要

開設年月日：1982 年 5 月 10 日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第 1 種）	施設入所支援	60 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	生活介護	60 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 1 種)	短期入所	5 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
公益事業	神戸愛生園診療所	—	—	1984 年 4 月 10 日

## 2. 推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
業務内で理念を意識化する工夫	①アピールボードの作製。 ②理念に基づいた業務遂行と振り返り	①アピールボード完成 ②実施なし	◎ ×
更なる EPA 職員の獲得	①1 年目 EPA 介護福祉士候補者の就業サポート	ア) ローテーション勤務開始。年度内に全て独り立ち イ) 日本語に少し不安があり、講師による勉強の時間を 2 日→3 日/月へ変更	◎

### (2) 人材確保の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
コンサルティング、研修等、外部資源活用の検討	①グループスーパービジョンの継続 外部講師との連携、協働を通して「働きやすい職場」の在り方を模索。離職原因の分析と対策。定着率の向上を目指す。	①主任のグループスーパービジョンを 12 月から全 4 回にわたって実施	◎
近隣学校へのアプローチ（大学・専門学校にアルバイト募集）	①新型コロナウイルスの感染状況や学校の状況を踏まえ対応していく ②広報と連携をし、人材確保促進につながる SNS 上での記事のアップ、広告媒体に掲載している内容の見直し	①学校への直接アプローチはできなかった ②人材確保促進記事を投稿	× ◎

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
スキルアップ・キャリアパスの明確化	①キャリアパス・研修システムの完成 ・キャリアパスモデル、園内研修システムを合致させる ・各職員階層の役割、どのような職務にどのような立場で就くのか、そこに到達するためにどのような経験を積みどのようなスキルを身に付ける必要があるのかを職員それぞれが理解できるようにする。又、それを踏まえた上で自分がどのように行動すれば良いかを理解できるようにする	ア) 定期面談実施 イ) 面談で各職員にキャリアパスモデルの求められる能力の中で自分の苦手な項目を挙げてもらった	○
EPA 職員が安心して就労・就学・生活ができる環境の整備	①EPA 職員の業務履修サポート（就学含む）と不安・困りごとの解消。介護福祉士試験支援	ア) 2名の介護技術研修の支援を行った イ) 2名 EPA 職員が介護福祉士国家試験を受験。1名合格。	◎

(3) QOLの視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
生育歴を通して、QOL、終末期を考える	①全利用者の生育歴調査 ②医療的ケアが重度化した際の利用継続について説明開始（エンディングノート）	①生育歴作成、更新マニュアル作成 ②重度の医療ケアが必要になった方2名について、ご家族に説明の上、他施設へ移行して頂いた。エンディングノートも作成	◎
援助技術の向上	①介護技術向上研修継続実施 ②相談援助技術研修の実施	① ア) 介護技術向上研修実施（スキンケア・陰洗）（5月） イ) 新任職員への相談援助技術研修実施（6月） ウ) KOYOによる介護技術向上研修実施（スキンケア・陰洗）（9月） エ) 介護技術向上研修実施（11月）	◎

## (4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
感染予防の 取り組み強 化	①新型コロナウイルス発生時 マニュアル作成 ②発生時対応訓練実施	①初期対応フロー作成（4月）その 都度改訂実施 ②有症状者発生時の初期対応フロ ー随時更新と周知。37.5℃以上の発 熱者が発生し、初期対応フローに沿 って実践した	◎
SS 受け入 れ体制の改 善	①昨年度以前に立てたコロナ 禍での受け入れ基準を再考し、 現在の状況に応じた環境を整 える ②待機利用者の積極的確保	①入所者の不明熱発生による隔離 を繰り返し、具体的検討に至らず ②ロングショートステイを積極的 に受け入れる体制に変更	× ◎
ICT, IoT の 活用	①電子印鑑決済の活用定着 ②眠りスキャン活用による体 調管理、業務効率化の更なる向 上	①5月分記録よりほぼの電子印 鑑決済開始 ②取り組みに至らず	◎ ×

## (5) 地域の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域行事へ の参加	①コロナ感染状況を踏まえ、地 域行事への参加 ②地域への還元	①地域行事への参加に至らず ② ア) Tunagari で栄養イベント実施（8 月） イ) 第42回おいでやすカーニバル開 催	× ◎
福祉避難所 としての環 境整備	①必要備品の整備（ローリング ストック） ②地域生活障害者の受入れマ ニュアルの策定 ③災害時受入れ対応訓練の実 施	①適宜実施 ②未実施 ③未実施	◎ × ×
広報活動の 充実	①フェイスブック・インスタグ ラム更新 ②機関紙発行（40周年記念号）	①毎月更新 ②7月発行。40年記念誌については 次年度に変更	○

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
指導、育成 時間捻出の	①勤務シフトの再構築（パート シフトを含む）	①早出勤務についてのみ変更	△

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
ための業務 分析、改善	①BCP の作成	①地域貢献部会より雛形が示され た	△
建て替え委 員会の継続 開催	①資金計画の策定	①ご利用者不明熱による隔離対応 を繰り返したこと、欠員による収 益減で委員会が開催できていない	×

3. 出来した事案  
特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 きたすま障害者相談支援センター  
施設長 三木 卓也

### きたすま障害者相談支援センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者（児）とその家族等からの相談に対し、必要な情報の提供や助言を行うとともに、関係諸機関との連携を図り、障害福祉サービスの利用援助（サービス等利用計画の作成を含む）等適切な支援を行います。
2. 相談者の意思及び人権を尊重して障害特性や本人・家族のニーズ等を的確に把握し、公正・中立性を保ちつつ常に相談者の立場に立った地域生活支援の提供に努めます。
3. 相談者やその家族等のニーズ、想いを受け止め、適切な助言や情報提供等の支援ができるよう、職員の専門性の向上に努めます。
4. 障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域を目指し、須磨区自立支援協議会の事務局として活発な運営を専門性とチームワークで行います。

### 第4期中期計画のビジョン

**不安や困りごとがありながら地域で暮らす方々が気軽に相談でき、豊かなつながりを大切に親身で思いやりのある対応ができるセンターを目指します。**

### 2022 年度の事業報告について

第4期中期計画の最終年は、神戸市からの事業委託（5年）の2年目でもありました。コロナ禍の影響も4年目となり、地域で生活する障害のある方やそのご家族の疲弊感や不安は続き、日々の生活や行動に影響を受けた一年でありました。

多くのご相談者やご家族が先の見通しが立たないことへの不安な気持ちや心配ごとを抱える日々の中、必要なサービスを安心して受けることができるよう、社会とつながることで孤立感を深めることがないよう、地域の身近な相談窓口としての役割を担いました。

特に、徐々にコロナの影響が落ち着きを見せ始めると同時に、感染が拡大していた時には表に出てこなかった困りごとや相談が増え、関係機関と連携して支援を行ないました。

具体的には、社会から孤立した引きこもりの相談、経済的な生活困窮に関する相談、高齢のご家族が障害のある方を介護する8050問題にまつわる相談など、社会全体の仕組みに起因するご相談が多く、センターだけの対応では限界があることを真摯に自覚したうえで、須磨区自立支援協議会やほっとかへんネット須磨など関係機関とのネットワークを活かした、地域を基盤とした相談支援を展開しました。

加えて、今年度は、障害児相談支援サービスの受任を新たに行い、次年度、重点実施に掲げる障害児相談支援の推進に向け、先行的に着手することが出来ました。

また、従事する相談員の自己覚知や資質向上のため、ケース検討会議、テーマ別内部研修、スーパービジョン、ヒアリングを継続的に行い、チーム支援を意識した風通しの良い職場環境の維持に努めました。

## 1. 事業概要

開設年月日：2014年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 （第2種）	一般相談支援	－	身体障害者	2014年4月1日
	特定相談支援	－	知的障害者	
	障害児相談支援	－	精神障害者	
公益事業	相談支援事業	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2014年4月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
価値観と出会う場面の提供	法人基本理念の理解推進	①年間聖句の掲示 ②基本理念の唱和 ③理念ハンドブックの読み合わせ	① ア) 年間聖句『苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む』の掲示 ② ア) 「基本理念」の唱和（月2回） ③ ア) 「神戸聖隷ハンドブック」学習会（毎月）	◎
理念に触れ学ぶ機会の提供	キリスト教福祉の理解	①権利擁護研修（内部）の実施 ②各種理念研修（外部）への参加	① ア) 未実施 ② ア) 新型コロナの影響により未参加	△

(2) QOLの視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
相談支援スキルの共有と向上	ケース会議	①ケース会議の開催	ア) ケース会議の開催 (毎月第3水曜日)	◎
研修機会の提供	研修(内部、外部)	①研修(内部)の実施 ②研修(外部)参加	① ア) 「介護保険」内部研修会 (10月) イ) 「児童分野」内部研修会 (3月) ② ア) 障害支援区分認定調査員研修 (5月) イ) 新任障害福祉事務担当者研修 (5月) ウ) 法人一般職員研修 (6月) エ) DWAT研修 (7月) オ) 法人副主任研修 (8月) カ) 相談支援従事者現任研修 (8月) キ) 神戸市総合療育センター見学研修 (9月) ク) ファーストレベル研修 (10月) ケ) 法人事業種別研修 (10月、12月、2月) コ) SV研修 (11月) サ) 障害者虐待防止研修 (11月) シ) 管理職研修 (11月) ス) 虐待対応力向上研修 (12月) セ) 神戸市自立支援協議会研修 (1月) ソ) 相談面接技術研修 (1月) タ) 障害児相談支援研修 (1月) チ) 地域共生フォーラム (2月) ツ) BCP策定支援研修 (3月) テ) 法人総合職員研修 (3月)	◎
権利擁護と相談支援の質の向上	虐待防止、顧客満足	①虐待防止チェックリストの実施 ②顧客満足度調査の実施	① ア) 虐待防止チェックリストの実施 (9月、2月) ② ア) 顧客満足度調査の実施 (10月～11月) イ) 顧客満足度調査結果の公表 (1月)	◎

(3) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
事業の継続受託	事業継続受託	①事業の安定運営 (2021年度～ 2025年度)	ア) 神戸市障害者支援課実地指導(8月) ※改善を要する指摘事項なし	◎
各委託調査の確実な実施	委託調査	①障害支援区分認定調査 ②福祉サービス勘案調査 ③移動支援サービス調査 ④訪問入浴サービス調査	① ア) 障害支援区分認定調査(36件) ② ア) 障害福祉サービス勘案調査(364件) ③ ア) 移動支援サービス聴き取り(13件) ④ ア) 訪問入浴サービス聴き取り(2件)	◎
加算要件を満たす体制の維持	加算体制	①主任相談支援専門員研修の受講 ②相談支援従事者現任研修の受講 ③加算研修(行動、要医療ケア、精神)の受講	① ア) 受講に向けて検討中 ② ア) 1名受講修了(8月) ③ ア) 未受講	○
個別加算の取得を推進	個別加算	①個別加算(初回、集中支援、モニタリング、サービス担当者会議、入院時情報連携、退院・退所)の取得	ア) 初回(新規)加算(5件) イ) 集中支援加算(4件) ウ) 入院時情報連携加算(2件) エ) サービス提供時モニタリング加算(7件)	△

(4) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
スーパービジョンの実施と強化	スーパービジョン	①スーパービジョンの実施	ア) 個別スーパービジョンの実施(毎月)	◎
定期ヒアリングの実施	定期ヒアリング	①定期ヒアリングの実施	ア) 定期ヒアリングの実施(6月、10月、2月)	◎

(5) 地域の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
制度の狭間にある生きづらさを抱えた方への対応	ニーズ整理	①ニーズ把握と整理 ※地域貢献部会と連動	ア) 地域福祉ニーズ(孤立、ゴミ屋敷、8050問題、生活困窮、成年後見、ヤングケアラー)の把握と共有(毎月)	△
須磨区自立支援協議会の積極的な取り組み	須磨区自立支援協議会事務局運営	①全体会/運営委員会の開催(年1回/年4回) ②作業部会(就労、共生、販路拡大、学習、親子、相談)の実施(適宜) ③発達の気になる保護者向けピアカウンセリングの実施(年9回)	① ア) 全体会(6月) イ) 運営委員会(5月、8月、11月、2月) ② ア) 就労支援部会(7月、9月、10月、11月、1月、2月) イ) ともいき部会(4月、6月、8月、10月、12月、2月) ウ) すまいんど部会(毎月) エ) まなぼー!!部会(7月、9月、12月、2月) オ) 親子部会(4月、5月、6月、7月、9月、12月、2月、3月) カ) 相談支援部会(4月、5月、7月、8月、9月、11月、2月) ③ ア) ピアカウンセリング(5月、6月、7月、9月、10月、12月、2月、3月)	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域福祉ニーズに応じた支援の実施（公益的取り組み）	ほっとかへんネット須磨	①ほっとかへんネット須磨への積極的参画 ②具体的な取り組み内容の協議	① ア) コア実務者会（5月、8月、11月、2月）、実務者会（7月、9月、12月）全体会（6月、3月）に出席 ② ア) 分野（高齢・障害・児童）を超えた切れ目のない「総合相談窓口」体制の開始（10月～）※相談実績2件 ア) 車椅子貸出事業（須磨区社協）を受託、実施	○

（6）人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
業務改善の取り組み	業務改善	①実態把握と整理（担当ケース数、調査担当件数、計画担当件数、休日出勤日数、夜間電話当番回数）	ア) 職員異動に伴い、担当件数の見直しと平準化を実施 イ) ケースファイル供覧後のファイリングをルール化 ウ) 計画相談支援ケース（約70件）の個別化と一般相談ケースとの差別化を実施 エ) BCP計画（相談編）の初版が完成 オ) 関係機関への書類発送業務を事務員とする業務分掌化を実施 カ) 自主製品販売管理ファイルを刷新 キ) 郵便物受信簿のPC内での共有化を実施 ク) 一般相談ケースファイルのスクリーニングを実施	○
働き方改革への対応	働き方改革	①各職員が有給休暇付与日数の50%以上取得（最低5日以上） ②各職員の超過勤務時間10時間以内（月） ③WLB推進に向けた研修の実施	① ア) 有給休暇取得率 95.48%（3月末時点） ② ア) 超過勤務総時間 205時間（年間）（3月末時点） ③ ア) メンタルヘルスチェックの実施（9月）	○

3. 出来た事案

(1) 特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸聖隷総合相談センター  
施設長 三木 卓也

### 神戸聖隷総合相談センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者とその家族等からの相談に対し、相談者の意思及び人権を尊重した適切な情報提供や助言、意向に沿った計画相談支援サービス（サービス等利用計画の作成）の提供等、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう相談支援を行います。
2. 必要性が高まっている「成年後見制度」に関する相談、情報提供、申立支援を通じて地域のニーズに応えます。
3. 地域が抱える課題のセーフティネットとしての役割を果たすべく、障害、年齢に関係なく、生きづらさ、困りごとを持つ方々の相談の対応、ニーズの把握に努め新たなサービスを創造します。

### 第4期中期計画のビジョン

**障害分野に限らず地域の方々の不安なことや困りごとが気軽に相談できるセンターを目指します。**

### 2022 年度の事業報告について

第4期中期計画の最終年は、神戸聖隷オアシス内 1F に事務所を移転して2年目となり、また、センターの本来的な使命である地域の福祉ニーズに応えるべく、コロナ禍の2021年7月にオープンした地域交流拠点「Tunagari～あつまり処～」も2年目を迎えました。

事業の中心となる計画相談支援サービス（サービス等利用計画作成）では、法人内の各施設のご利用者を中心に、今年も新たに13名のご利用者の計画相談を受任、300名を超えるご利用者お一人おひとりが、必要な障害福祉サービスを安心してご利用できるよう、また、親なき後の生活に備えたセーフティネットの役割に努め、丁寧な相談支援を行いました。

社会全体の高齢化の進展に伴い、予期せぬ家族状況等の変化により、これまでの生活を見直さざるを得ない事態に直面されたご利用者の短期入所、施設入所等の迅速なサービス調整を求められる相談が年々増えており、今後も、同様のニーズが想定されるため、不測の事態に即応することができる支援体制づくりに努めました。

また、「Tunagari～あつまり処～」は、気軽に集いご利用いただける憩いの場所として、地域の多くの方々にご利用いただき、顔と顔の見える関係が育まれる中で、とれたての新鮮な野菜や不用になった衣類等のご寄贈を受けたり、引きこもりがちの方のボランティア活動の場所としての相談や、障害のある方の職場体験先の場所としての活用について相談を受けるなど、着実に人と人がつながる場所として地域に浸透していることを感じるようになってきました。引き続き、地域の福祉ニーズに応える地域交流拠点として、コミュニティカフェの営業を通じて、地域の方々や関係機関とのつながりを大切にしながら、具体的な活動に結びつくことが出来るよう努めていきたいと思っております。

## 1. 事業概要

開設年月日：2016年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 （第2種）	特定相談支援	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2016年4月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	上期実施状況	達成度
価値観と出会う場面の提供	法人基本理念の理解推進	①年間聖句の掲示 ②基本理念の唱和 ③理念ハンドブックの読み合わせ	① ア) 年間聖句『苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む』の掲示 ② ア) 「平和を求める祈り」の唱和（月2回） ③ ア) 「理念ハンドブック」学習会（毎月）	○
理念に触れ学ぶ機会の提供	キリスト教福祉の理解	①権利擁護研修（内部）の実施 ②各種理念研修（外部）への参加	① ア) 神戸愛生伝道所牧師によるキリスト教福祉講話（毎月） ② ア) 日本キリスト教社会福祉学会（6月） イ) 日本キリスト教社会事業同盟研修会（7月） ウ) 「日本の孤独・孤立の現状と対策」研修（7月）	○

## (2) QOLの視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	上期実施状況	達成度
相談支援スキルの共有と向上	ケース会議	①ケース会議の開催	ア) ケース会議の開催 (毎月)	○
研修機会の提供	研修(内部、外部)	①研修(内部)の実施 ②研修(外部)参加	① ア) 未実施 ② ア) 兵庫県相談支援ネットワーク研修会 (6月) イ) キャリアビジョンと職業倫理研修 (7月) ウ) 特定相談支援事業者連絡会 (12月) エ) 相談支援従事者現任研修 (1月、2月)	○
権利擁護と相談支援の質の向上	虐待防止、CS	①虐待防止チェックリストの実施 ②顧客満足度調査の実施	① ア) 虐待防止チェックリストの実施 (9月、2月) ② ア) 顧客満足度調査の実施 (10月～11月) イ) 顧客満足度調査結果の公表 (1月)	◎

## (3) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
計画相談支援、モニタリングの確実な実施	計画相談	①サービス利用支援 ②継続サービス利用支援	① ア) サービス利用支援 (303 件) ② ア) 継続サービス利用支援 (367 件)	○
加算要件を満たす体制の維持	加算体制	①相談支援従事者 現任研修の受講 ②加算研修(行動、 要医療ケア、精神)の受講	① ア) 1名受講修了(1月、2月) ② ア) 未受講	○
個別加算の取得を推進	個別加算	①個別加算(モニタリング、サービス担当者会議実施、入院時情報連携、退院・退所)の取得	ア) 初回加算(8件) イ) 特地加算(1件)	△

## (4) 人材確保育成の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
スーパービジョンの実施と強化	スーパービジョン	①スーパービジョンの実施	ア) グループスーパービジョンの実施(毎月)	◎
定期ヒアリングの実施	定期ヒアリング	①定期ヒアリングの実施	ア) 定期ヒアリングの実施(6月、10月、2月)	○

## (5) 地域の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
地域の関係機関とのつながり強化	地域交流	①北須磨団地自治会ふる里まつり、運動会への参加 ②地域支え愛学習会への参加 ③地域包括ケア会議（介護保険）への参加	① ア) 新型コロナの影響により未実施 ② ア) 新型コロナの影響により未実施 ③ ア) 須磨区地域ケア会議に参加（2月）	△
神戸聖隷オアシス（友が丘総合事業）に係る地域貢献活動への取り組み	よろず相談	①「Tunagari～あつまり処～」の運営 ②地域住民、関係機関への広報 ③地域福祉ニーズの把握と整理（地域貢献部会との連携による） ④フードパントリー拠点としての取り組みの検討と実施（地域貢献部会との連携による） ⑤認知症支援に係るキャラバンメイトによる研修受講、地域向け認知症サポーター養成講座の開催の検討（地域貢献部会との連携による）	① ア) 地域コミュニティカフェ「Tunagari」（月・水・金）営業（営業日数：144日／年） ② ア) 北須磨地区・多井畑東地区民生児童委員連絡会にて広報（7月） イ) おいでやすカーニバルにて地域向けに広報・発信（9月） ③ ア) 地域住民からの一般相談1件受付（10月） イ) ひょうごフードサポートネット（連携体制推進会議）を視聴 ④ ア) 離宮ハイツ（母子生活支援施設）より食品寄贈を受け活用（7月、8月） イ) 地域住民から物品寄贈を受ける（3月） ⑤ ア) 未実施	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
成年後見制度の理解・啓発と利用の促進	成年後見	①成年後見制度勉強会の開催 ②申立て支援の必要性の高いケースの把握と優先順位付け	① ア) 未実施 ② ア) 未実施	×

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
業務改善の取り組み	業務改善	①実態把握と整理（計画担当件数、夜間電話当番回数、等）	ア) 担当件数の見直しと平準化を実施 イ) BCP 計画（相談編）の初版が完成 ウ) 災害備蓄品の品目を検討	△
働き方改革への対応	働き方改革	①各職員が有給休暇付与日数の50%以上取得（最低5日以上） ②各職員の超過勤務時間5時間以内（月） ③WLB 推進に向けた研修の実施	① ア) 有給休暇取得率 114.83%（3月末時点） ② ア) 超過勤務総時間 134.25 時間（年間）（3月末時点） ③ ア) メンタルヘルスチェック実施（9月）	○

3. 出来した事案

(1) 特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸友生園

施設長 井上 待子

神戸友生園の基本方針

1. 利用者の障害状況に応じたプログラムの提供に努めます。
2. 利用者のニーズに応えられるよう高い専門性を持って支援を行います。
3. 安心・安全に地域生活が営めるよう支援を行います。

### 第4期中期計画のビジョン

地域のネットワーク体制を構築出来るスキルを身に付けた職員集団を目指します。

2022 年度の事業報告について

第5期中期計画策定しながら、改めて施設の弱みや強みを職員間で共有できた1年でした。

その中で特に課題としてあがったのが職員間の連携が取れない状況が、利用者支援に影響していることでした。職員と面談を実施し改善策を検討し、次年度の取り組みとして計画に取り入れました。風通しの良い、職員一人一人が充実感を持って働ける職場環境とし、人員補充も含め取り組んでいきます。

財務の視点では経営状況を改善するため、稼働日を昨年から2年連続して280日を超える稼働日としました。また、年度途中で職員が退職した後も配置基準を満たしていることから人員補充をせず、現場職員に負担をかけた1年でした。職員の理解と努力が、今年度の決算に現れています。利用者の出勤率も、数日の天候不良の影響はありましたがコロナ禍で、クラスターを発生させることなく感染予防の意識を、利用者・ご家族が保ってくださり、一年を過ごせたことは感謝でした。

QOLの視点では、コロナ禍で外出などのイベントが実施出来ない状況でしたが、今年度は利用者お一人に対して年2回、「Tunagari ランチ会」を実施しました。お一人で楽しめる方、親しい仲間と楽しめる方等、少しでも外食気分を味わっていただきました。次年度も外食などは難しい状況ですので、継続するよう準備をしています。

人材育成の視点では、計画していた内部研修を実施する事が出来ませんでした。計画策定時に日程のみを設定し、内容についての打ち合わせを十分に行えなかったことが原因です。法人研修については、受講することができましたが、外部研修については稼働日数を増やしたことにより振替休日取得を優先したため、積極的に勧めることが出来ませんでした。

### 1. 事業概要

開設年月日：1984年4月1日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援 B型事業	40名	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2008年4月1日

## 2. 推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
理念の本質の理解と共有	①内部研修にて理念の理解（理事長による研修会の実施） ②法人創設時の思いに触れる勉強会の実施（WEB 研修を企画）	① ア）2/8 理事長による理念研修会実施 ② ア）1/25 大雪の為、臨時休業となり次年度に延期	△
理念の実践	①理念に沿った支援の在り方を内部研修で学ぶ（2回/年）	ア）未実施 研修内容の組み立てがまとまらず未実施	×
虐待・不適切ケアの防止	①虐待防止チェックリストの実施（2回/年） ②虐待防止判定基準表の事例検討会実施（1回/年） ③虐待防止の内部研修を実施（2回/年）	① ア）9月に実施 イ）2月に実施 ② ア）事例抽出を課長・主任で行う ③ ア）外部講師による虐待防止研修実施（7月）	○
日常の支援における『気づき』の共有	①職員会議で『気づきツール』の情報共有と事例検討（1回/月）	ア）職員会議での情報共有は毎月実施。件数が少なく、職員へ意識付けを行う。 イ）事例検討会の実施（4月、7月） ウ）年間5件の情報共有	○

### (2) 人材育成の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
研修会への参加	①職員一人ひとりが研修会に参加（法人内研修含む） ②研修報告会を実施し学びを共有	① ア）防火管理者講習受講（5月） イ）法人内研修受講8名（4月、6月、10月、11月、12月、1月、2月） ウ）相談支援現任研修（1月、2月） エ）サビ管更新研修（2月） オ）家族支援の考え方と展開（3月） ② ア）6月受講の法人研修報告を実施 イ）下半期は報告会の実施無し	△

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
実習生への指導にて資質の向上	① 正規職員が実習指導担当の役割を担う（1 回以上/年）	① ア) 利用希望学生に対して評価を 2 名の職員が行う。(6 月) イ) 社会福祉士実習指導 (8 月、9 月) ウ) トライやるウィーク (11 月)	○
各種マニュアルの整備とブラッシュアップ	① 業務マニュアルのブラッシュアップ (継続) ② 支援標準化マニュアルの更新 (継続) ③ 作業マニュアルの整備とブラッシュアップ (継続)	① ア) 更新作業実施 (7 月) イ) フォーム見直し (8 月) ウ) 修正 (12 月、1 月) ② ア) 他事業所を参考にするため情報収集 (6 月) イ) 更新作業実施 (7 月、8 月、12 月、1 月)) ③ ア) 新作業のマニュアル作成 (7 月、8 月、1 月、3 月) イ) 各種マニュアルをファイルにまとめる (11 月)	△

(3) QOL の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
利用者個々の達成感・充実感の把握と共有	① 利用者個々が望む『働き方』のアセスメントと作業提供 ② 工賃配分新体系を導入し、年 2 回の評定会議の実施 ③ 必要に応じて評価項目の見直し	① ア) 個別支援計画作成時に面談実施 (4 月) イ) モニタリング面談実施 (11 月、3 月) ② ア) 評定会議の実施 (10 月) イ) 各職員による評価と集計 (3 月) ③ ア) 評価項目について職員間で意見交換 (10 月)	○
利用者ニーズに沿った多種多様な作業の確保	① 年間 2 種目の新規作業の確保	ア) 新規作業の確保 6 月、2 社より数種類 イ) 新規作業種目獲得 (6 月、7 月、8 月、10 月、11 月、12 月、1 月、2 月)	◎

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
自主生産品の充実と事業拡大	①ギフト商品の販売（4回/年） ②アドアド市の定期開催（12回/年） ③すまいんど部会の活動参加	① ア）夏ギフト販売（5月～7月） イ）冬ギフト準備（8月～9月） ウ）冬ギフト販売（10月～12月） エ）春ギフト準備（1月～2月） オ）春ギフト販売（3月） ② 4月、1回 5月、2回 7月以降は熱中症アラート発令により開催を自粛 10月、1回 11月、1回 3月、1回 ③ ア）コープすまるしえ参加（4月、6月、7月、8月、11月、2月） イ）すまるしえ参加（5月、10月、11月） ウ）すましあ実行委員会（9月） エ）すましあ参加（11月） オ）すまいんど部会、冬ギフトイベント参加（12月）	◎
ケース会議の実施	①誕生日を基準にケース検討会を開催（12回/年）	ア）会議実施（5月、6月、11月（2名）、2月）	×
サービスの質の向上	①利用者基本情報のフォーム改善 ②利用者満足度調査の実施（1回/年）	① フェースシート、利用者台帳について検討（3月） ② ア）昨年度の結果を年度初めに利用者へ説明 イ）下半期実施に向けて、項目の見直しを行う。 ウ）10月調査実施し、1月報告書作成	△

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
サービスの質の向上	③第5期中期計画に向けて新規グループホームの検討	③ ア)行政より公営住宅グループホーム転用情報がある毎に、立地等の確認を実施(随時)	
防災・防犯対策	①防災訓練実施(2回以上/年) ②防犯訓練実施(2回以上/年) ③食料品などの備蓄品購入のため、消費期限や数量の確認(1回/月)	①地震を想定した避難訓練実施(3月) ②未実施 ③ ア)備蓄品リスト編集(5月) イ)消費期限間近品を利用者へ配布 ・ビスケット(7月) ・梅雑魚ご飯(1月) ・飲料水(3月) ウ)災害備蓄品購入(10月)	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
定員を守った中での利用者数の向上	①感染状況を注視しながら見学・実習の受け入れ ②営業日数を280日設ける ③職員会議で利用者の出勤状況等を確認 ④利用率の向上(目標79%) ⑤平日に余暇活動を実施し出勤率を上げる	① ア)見学者対応 5月1名、7月3名、8月8名 10月2名、11月2名、2月1名 イ)体験実習 5月1名 ② ア)計画通りに開所(7月、9月、1月以外) イ)7月、9月、1月は警報発令(大雪)により計画より1日ずつ少ない ③ ア)書面にて確認 ④ ア)月毎に管理 ⑤ ア)当初平日の余暇活動の予定であったが、職員体制や作業体制が整わず、土曜、祝日開所に行事を実施。	◎

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
ジョブコーチ事業の継続	①感染状況を見ながら、施設外対象者へ支援の実施	未実施	×
仕事の効率化への取り組み	① 定時退勤と早期退勤を推進し、月毎に残業時間を検証	① ア) 毎月の職員会議にて超過勤務一覧表を確認	◎
経費削減の取り組み	① 経費削減やコスト意識を高める為、職員会議にて経費、コストの把握（1回/月）	① ア) 消耗品費予算対比表を作成し職員会議にて全職員で把握	◎

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域の支援学校に対する連携強化	① 進路担当者と相談体制の構築に向けた協議の場を持つ（2回/年）	① ア) 青陽須磨支援学校評議委員会出席（7月） イ) 青陽須磨支援学校、いぶき明生支援学校進路担当教諭との意見交換会（7月） ウ) 進路担当教諭と面談（12月） エ) 神戸視聴覚特別支援学校とコンタクトをとり、実習受入れの情報提供を行う オ) 困難ケースのカンファレンスを実施し、進路指導担当教諭出席。	○
自治会および各種団体主催イベントへの参加	① 感染状況に応じたイベントへの参加	① ア) 神戸総合医療専門学校の実習受入れ イ) こうべ福祉・健康フェア説明会参加 ウ) こうべ福祉・健康フェア参加（10月）	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
自治会および各種団体主催イベントへの参加	②Tunagari でのお茶販売を通して住民と交流 ③須磨区自立支援協議会への参加	② 未実施 ③ ア) コープすまるしえ参加 (4月、6月、7月、8月、11月、2月) イ) すまるしえ参加 (5月、10月、11月) オ) すましあ実行委員会出席 (5月、8月、9月) カ) すまいんど部会定例会出席 (5月、8月、12月)	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
有給休暇取得の推進	①有給休暇取得率の向上 (目標 100%)	ア) 4月 10.68% 5月 8.28% 6月 17.53% 7月 9.1% 8月 8.06% 9月 5.33% 上半期累計 59.1% イ) 10月 7.4% 11月 9.47% 12月 7.84% 1月 8.28% 2月 7.03% 3月 8.06% 年間累計 107.17%	◎
超過勤務労働削減の取り組み	①職員ひとり一人の業務量を把握し、必要に応じて改善に向けた実行策を推進	未実施	×
各種マニュアルの作成・整備	①法人基本マニュアルのブラッシュアップと職員への共有	ア) 友生園基本 18 項目を精査、確認の作業実施 (11月) イ) 第 5 期中計のマニュアル整備について検討 (12月)	×

### 3. 出来した事案

#### (1) 送迎車両当て逃げ事故

2022年6月25日、10:24頃エリーネス須磨入り口付近で対向車線からはみ出した車との接触事故が発生しました。

当方の車両には利用者3名と添乗職員、運転手が乗っていましたが怪我などはありませんでした。接触してきた車両はその場から立ち去ってしまいましたが、送迎車両の後方にいたドライバーが立ち去った車両のナンバーを記憶しており、警察に伝えることが出来たため迅速な事故解決になりました。

後日保険会社からの連絡で、相手車両のドライブレコーダーから、車線はみ出しが確認されたため当方の過失は0であることの連絡がありました。

事故後警察から責任者の名前等の聞き取りはありましたが、当て逃げ事故の被害届を提出についての問い合わせはありませんでした。おそらく車両ナンバーがすぐにわかった事、家族がすぐに対応したことで適応しないという判断だったと思われます。ただ、警察と当て逃げしたご家族との話し合いを今後もち、免許返納を進めると聞いています。

#### (2) 送迎車両職員運転による物損事故

送迎車が帰園後、駐車する際に駐車場フェンスに接触し、車両に傷がついた事故が発生しました。事故当日、送迎を委託している近畿タクシードライバーがコロナ感染となり、急遽職員が送迎運転を代わることになりました。送迎を終え、園の駐車場に駐車する際、後方のフェンスに接触し車両に傷が付きまして。後方確認も行いながら低速でバックしたため、大きな傷ではありませんが、凹みもあるために修理が必要となっています。職員には十分注意するよう話をしています。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 グループホーム南落合  
 施設長 井上 待子

### グループホーム南落合の基本方針

1. 利用者一人一人の基本的な人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者の働きたい思いを大切に「その人らしい暮らし」を支援します。
3. 継続的に就労が出来るように適切な声掛けを行います。
4. 安心・安全な生活が送れるよう環境づくりを行います。
5. 地域と連携し、地域に根ざしたホームとなるように努めます。

### 2022 年度の事業報告について

利用者の余暇活動はガイドヘルパーの利用により外出が多くなってきています。コロナ禍で我慢していたカラオケにもヘルパーと二人で出かけることが出来た方もおられ、充実したお休みを過ごしていただきました。また、利用者の誕生日会も5名の利用者に対して実施し、夕食メニューを選んでいただきました。皆さん、パスタやピザ、お寿司など日頃の夕食メニューにはないものを召し上がっていただきました。

世話人の不足についても年度末に解消の見込みが立ち、次年度からは1名の世話人が増えることとなります。この間週2日をバックアップ施設で世話人業務を担ってきましたが、次年度は週1日となり、バックアップ施設の負担軽減にも繋がります。

今年度は避難訓練と緊急通報装置訓練が1回のみの実施となったため、次年度は計画的に2回実施します。

### 1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第2種社会福祉事業）	共同生活援助	5名	身体・知的障害者

### 2. 推進状況

区分	課題	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
QOL	安心・安全な環境の提供	①利用者の状況に合わせた環境整備の実施 ②利用者の支援を統一した支援の実施	① ア) 2名の利用者について、飲み忘れを無くすため、服薬管理方法を本人管理からホーム管理へ変更。 ② ア) 世話人ノートを利用し、情報共有を行う。	◎

区分	課題	2022年度計画	上期実施状況	達成度
QOL	安心・安全な環境の提供	③コロナ禍での余暇活動を利用者に併せて提案 ④移動支援事業所との連携し、情報の共有を図る	③ ア) ガイドヘルパーを利用し、余暇活動を計画、実行 ④ 随時情報共有を行う。	◎
	権利擁護のための支援	①世話人・生活支援員への研修実施 ②虐待防止チェックリストの実施(2回/年)	① ア) 虐待防止研修実施(7月) ② ア) チェックリスト実施(9月、2月)	◎
	健康管理	①健康観察を行い、受診時の状況を訪問看護事業所・移動支援事業所と情報共有	① ア) 相談支援事業所や訪看、移動支援等の関係機関と密に情報共有を行う。	○
	マニュアルの整備	①世話人業務マニュアルのブラッシュアップ	① ア) 朝、夕勤務の業務マニュアルを更新	○
	地域との連携	①地域の一員として自治会活動への積極的な参加	① ア) 役員の引継ぎを行う(4月) イ) 総会に参加(3月)	○
	防災対策	①避難訓練の実施(2回/年) ②緊急通報装置操作訓練の実施	① ア) 10/3 避難訓練実施 ② ア) 10/3 緊急通報装置について利用者に説明	△
	財務	利用率の安定	①365日のサービス提供と、利用率88%維持	① 達成。利用率92.7%
バックアップ機能の体制整備		①緊急時の神戸友生園による迅速かつ臨機応変な対応	① バックアップ対応職員と職制により体制を整える。	○
人材育成	基本理念の浸透	①世話人の内部研修の実施 ②法人研修への積極的な参加	① 理事長による理念研修実施(2月) ② 未実施	×

区分	課題	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
人材育成	専門性の向上	①世話人・生活支援員の外部研修への参加	①未実施	×

3. 出来した事案  
特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸光生園

施設長 木南 仁

### 神戸光生園の基本方針

1. 「隣人を自分のように愛すること」の具現化を目標に、法人の基本理念に掲げられた行動規範「個別支援の推進」「利用者の人権擁護」「職員の専門性の醸成」「地域社会との連携」を中心テーマとして支援に努めます。
2. 「利用者の笑顔」をひとつの評価の基準にし、より良いサービスの提供を目指します。
3. 利用者ひとり一人の可能性、能力、個性が発揮できる支援を行い、そのための職員の専門性の向上を図ります。

### 第4期中期計画のビジョン

#### 目指そう！利用者支援の質の向上とワークライフバランスの両立

#### 2022 年度の事業報告について

コロナ禍における3年間の内最も大きく影響を受けた1年でした。下半期も12月から1月に職員・ご利用者の罹患が続き事業を休止した日が数日ありました。また10年に一度の大雪に見舞われ休園を余儀なくされ、事業運営に大きなマイナスとなりました。その中で職員研修については、前年度に参加した外部研修から内部研修を予定通り実施しました。本来は対面型が望ましいですが、オンライン配信やDVDを活用した研修は一度にたくさんの職員が参加し、意見交換や情報共有ができるのでその利点を活かせたと感じます。また人材育成の面でも今年度はほぼ従来通りの実習生を受け入れることができ、担当者だけでなく「施設全体で受け入れる」という意識を持ちました。実習日誌に目を通しコメントを記入するなど職員にとっても自身の支援の振り返りとなりました。地域貢献として、これまで続けてきた「ひかりマルシェ」で『サマーフェスタ』として家族向けのイベントを実施したり、取り扱う商品を増やしたりなど少しずつパワーアップさせてきました。来場者も少しずつ増えており今後も地域の方達との「つながり」の場となるよう努めます。福祉避難所としての取り組みも定着しており備品を用意するだけでなくその管理方法やマニュアル、避難所開設訓練などを今後も継続して取り組んでいきます。ワークライフバランスについての取り組み達成度が思わしくありませんが、週2日のノー残業デーはほぼ守られており全体の超過勤務も減少傾向にあります。今後は更なる業務効率化によりゆとりを生み良い支援につながる事を目指します。

#### 1. 事業概要

開設年月日：1985年4月1日

種別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	54名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	30名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労移行	6名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労定着支援	—	知的障害者	2018年10月1日

2. 第4期中期計画の進捗状況

(1) 理念の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
理事による講演	①種谷理事による講演 (1回/年)	ア)10/20 に講演と事後アンケート実施	◎
キリスト教精神の理解	①竹内牧師による講演 (3回/年) ②神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用	① ア)コロナウイルスの感染状況を鑑みて2回に変更して理念研修実施 (8/2・8/9) ② ア)職員会議中に神戸聖隷ハンドブック輪読と事後アンケート一部実施 (7月～)	◎ △
合同施設見学の実施	①上半期に参加ができる但馬のイベントを検討して神戸地区の参加事業所を決定 ②下半期に但馬のイベント参加と事業所見学	①② ア)コロナウイルスの感染状況を鑑みて中止	×

(2) 人材確保の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
職場全体で実習生を受け入れる	①実習指導ツール(実習予定表)の運用を通じた改善の実施	ア)社会福祉士実習を受け入れる毎に実習予定表の改善を実施(4月・6月・8月・9月・10月・11月・12月)	◎
内部研修の充実	① 外部研修を基に内部研修実施 (3回/年) ②内部研修書式の活用と改善	① ア)内部研修実施(6月発達障害の理解と支援(DVD)・9月記録の書き方(昨年度の外部研修より)11月北摂杉の子会セミナー2022 発達障がいのある人への標準的支援を考える(アカイブ配信)) ② ア)内部研修書式を活用して内部研修実施(6月) イ)新たな手順書(研修講師をしてみよう)を作成し、9月の内部研修で活用	◎

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
職員の個性を生かせる研修への参加	①研修リスト作成 ②職員アンケートによる希望する研修への参加 (全職員対象・1回/年)	① ア) 昨年度の研修リストを作成し、職員アンケートに活用 ② ア) 職員アンケートより希望研修とのマッチング実施 (19名/年)	○

(3) QOL の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
快適な生活スタイルの維持	①空調維持管理・消毒備品の維持管理マニュアルの更新と維持管理の継続 ②玄関・入り口周辺の環境整備と維持管理の定着	① ア) 空調維持管理・消毒備品の維持管理マニュアルの更新と維持管理の継続実施 ② ア) 玄関・入り口周辺の定期的な環境整備実施 イ) 維持管理マニュアルの作成と運用実施	◎
オリジナルブランドの確立	①オリジナルブランドの構築 オリジナル商品の製作と開発	① ア) オリジナル商品の新デザインの製作実施・完成 (布製品・年賀状) イ) その他のオリジナル商品については制作途上	△
在庫管理システムの構築	①在庫管理システムの運用継続	ア) 在庫管理システムの運用継続実施	○
商品の販路拡大	①ネット販売の実施 ②味噌の販路拡大	① ア) 新商品のネット販売一部実施 (カレンダー・年賀状) ② ア) 味噌の販路拡大未実施	△ ×

## (4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
職員の休憩スペースの設置	①休憩室の満足度調査と改善 (2回/年)	ア) アンケートは1回(6月)のみ実施 イ) コーヒーのバリスタ設置 (家族からの寄贈)(8月)	△
職員の休憩時間の確保	①休憩時間(50分+10分)の実施 (6月実施)	ア) 45分+15分の休憩体制から 進展できず	×
支援記録ソフトの活用と 業務効率化	①支援記録ソフトを活用した事故 報告書のペーパーレス化	ア) 加筆・修正が支援記録ソフト 上では非効率であり業務 省力化につながらないため 中止	×
パソコンの スキルアップ	①機関紙の書式(ひな形)の作成  ②業務効率化を図るためにパソコン のスキルアップ講習会を実施 (応用編、エクセル・ワード・ パワポ 2回/年)	① ア) 機関紙は発行できたがひな 形作成は未実施  ② ア) パワーポイント講習は中止 (使用頻度が低い為) イ) ワード講習実施(9/8) ウ) エクセル講習実施(11/17)	×  ◎
コスト意識の 向上	①光熱水費を削減するためにキャ ンペーンを実施 前期(エアコンフィルターの定期 清掃)、後期(節電)	ア) 職員会議で光熱費等の支出 状況の共有を実施 イ) エアコンフィルターの掃除 は3か月ごとに実施 ウ) 節電は意識向上について啓 発のみ実施	○
経費削減の 取り組み	①ペーパーレス化による経費削減 の取組を継続	ア) 事故報告や支援に関する資 料作成等での活用が不十分	△

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
ミニバザーを通して地域交流を目指す	<p>①ひかりマルシェの魅力向上（地域の事業所や協力店の開拓）</p> <p>②地域交流を目指すためにイベント実施（地域認知度アップ）</p> <p>③年に3回のアンケートを実施</p>	<p>①</p> <p>ア) 地域にある弁当販売店（すずふく）と契約して弁当の販売実施をしていたが2月で契約解除</p> <p>イ) 垂水区地域自立支援協議会を通して一般社団法人桜英会あすなろ（就B）の販売参加・みかり会森のおうち（就B）への弁当販売を依頼するが不参加</p> <p>②</p> <p>ア) サマーフェスタ実施（地域住民58人参加）（7/26）</p> <p>③</p> <p>ア) 3回/年の定期アンケート実施（4月・7月・10月）</p> <p>イ) 新規の顧客へのアンケートを実施（毎月）</p> <p>ウ) 年間約431人の来場確認</p>	<p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p>
防災イベントの継続	①防災イベントの実施（11月）	ア) 防災イベント実施（11/26） （地域住民16人子供12人来場）	◎
福祉避難所の機能充実	<p>①防災物品置き場の管理</p> <p>②福祉避難所開設訓練の実施（10月）</p> <p>③不足物品の購入</p>	<p>①</p> <p>ア) 防災物品の保管場所の表示シートを作成・表示</p> <p>②</p> <p>ア) 福祉避難所開設訓練実施を（10/8）</p> <p>イ) 感染症対策を盛り込んだマニュアルの完成</p> <p>③</p> <p>ア) 防災イベント等で消費した備蓄品の補充実施</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
防犯対策の 充実を図る	①警察の協力による防犯訓練の実施（1回/年）	① ア) 垂水警察に協力依頼して防犯訓練実施（3/23）	◎
	②BCP計画の策定	② ア) 策定未着手	×
残業時間の 減少への 取り組み	①半日土曜開所を活用した効率的な業務の推進を継続	① ア) 会議や活動の準備などを計画的に実施	○
	②支援記録ソフトを活用した業務効率化の推進	② ア) 新しい活用方法はないが継続して実施	△
自己評価への 取り組み	①自己評価の実施	ア) 未実施	×

3. 出来た事案

特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名グループホームみなみたもん  
施設長 木南 仁

グループホームみなみたもんの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者一人ひとりの「その人らしい暮らし」が実現できるように支援します。
3. 安心して安全な生活が送れる環境づくりを行います。
4. 地域の一員としての役割を担えることを目指し、「障害理解への啓発」に努めます。

2022 年度の事業報告について

新型コロナウイルス感染症対策は継続しましたが、ガイドヘルパーによる買い物・映画鑑賞などは楽しめるようになりました。またご利用者の罹患が1名ありましたが、帰省時に感染が判明し他のご利用者への生活制限などは不要でした。また職員の感染も1名ありましたがこちらも勤務日の関係からご利用者が濃厚接触者となることはありませんでした。他の利用者への拘り行動がある方の支援は変わらず困難を伴いましたが、職員会議の際に様々なシチュエーションでの相談があり、研修とまではいきませんが事例検討を重ねて都度対応しできる限り支援者の対応が異なることのないように配慮しました。職員間の支援の在り方についての考え方も少しずつ違いが出ており、共通認識を持つことの難しさと個々の職員への対応には悩むことの多い1年でした。できる限り情報を共有し、またその方法に気を配ることで同じ理解・目線が持てるようになり、利用者の皆さんへの支援が適切なものになるのではと考えさせられました。障害特性への理解と説明はいつも難しいと感じていますが、どうしても「正しいこと」を利用者に求めてしまうことがあります。利用者の方一人ひとりが持つ「権利」とは何か、を少しずつ理解してもらえよう丁寧な会議でのやりとり、それ以外での対応方法についての細やかな伝達が積み重ねになるのだと痛感しました。

### 1. 事業概要

開設年月日：2014年5月1日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	5名	知的障害者	2014年5月1日

2. 2022年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	2022年度計画	実施状況	達成度
QOL	生活環境の充実	①入居者の家族・後見人・保佐人との良好な関係を維持して、情報共有と連携の基に安定した支援の実施 ②利用者の相談の機会を確保（世話人・管理者）し、住みやすくプライバシーに配慮した環境の提供 ③個々のマニュアルを基に、統一した支援の実施	①入居者家族や後見人（後見人3名・保佐人1名）と必要に応じて電話等での共有・相談を実施 ② ア) 日中事業所とも連携を取り、利用者からの相談に対応 イ) 居室でのそれぞれの過ごし方に配慮しながら、集団生活を送れるように支援実施 ③ホーム会議で利用者個々の状況を共有してサビ管を中心とした支援の統一を実施	○
	健康管理	①基礎疾患など持病の状態の把握と主治医との連携、及び通院支援（ガイド調整）による健康維持 ②体調不良時の日中支援など入居者が安心して生活できる環境の維持	① ア) ガイドの調整を行い定期的な通院支援を継続 イ) 必要に応じて受診付き添いと医師との情報共有を実施 ②バックアップ施設と連携して体調不良時の対応実施	◎
	地域との連携	①地域の一員として自治会行事へ積極的な参加 ②自治会へ役員として参加	①コロナ禍で自治会行事なし ②自治会役員を引き受けて自治会活動に参加	◎

区分	課 題	2022 年度計画	実施状況	達成度
	防災対策	①消防設備を使用しての避難訓練・通報訓練の実施（年2回） ②災害時を想定した防災訓練の実施（年1回） ③感染症対策としての指針の整備、備品の補充と管理 ④BCP 計画の策定	①避難訓練、及び通報訓練実施（8月・3月） ② ア)自治会の防災訓練に参加（10月） イ)下半期に防災訓練未実施 ③ ア)職員の抗原検査を定期的実施 イ)備蓄品の補充と管理実施 ウ)個別の食事や手指消毒の励行など標準予防策の実施 ④BCP 計画未着手	○
財務	経営の安定	①週7日のサービス提供と利用率90%維持 ②ガイド事業所や通園事業所との連携を密にすることによる生活の安定を支援 ③定期的な帰省を維持し、経営の安定と生活のリズムを確立 ④修繕に備えた積立金の確実な計上	①利用率93.4%達成 ②サビ管を中心として日中事業所・計画相談・後見人・ガイド事業所と連携実施 ③5名中4名が帰省なく利用安定 ④可能な限りの積立実施	◎
	堅実なバックアップ施設	①緊急時等の神戸光生園による速やか且つ臨機応変な対応 ②安定的な支援体制の確立（支援員の育成）	①コロナウイルスの濃厚接触時の対応など状況に合わせた対応実施 ②GH ふくだとの兼務体制による体制維持	◎
人材育成	基本理念の理解	① 理事長による理念理解研修の実施（1回/年） ②神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用	①未実施 ②未実施	×
	専門性の向上	①職員会議での専門研修の実施（3回/年） ②月刊誌「さぼーと」の定期購読	①未実施 ②未実施	×

区分	課 題	2022 年度計画	実施状況	達成度
	虐待防止・ 人権擁護の 取組み	①全員参加の内部研修を 実施（1回/年） ②月1回定例の世話人会 議を実施、支援方法や 利用者対応についての 相談を実施 ③年2回の虐待防止セル フチェックの実施	①3月ホーム会議にて虐待防 止研修を実施 ②毎月の世話人会議で管理 者・支援課長による支援方 法や障害特性に関するサポ ート実施 ③年2回実施	○

3. 出来した事案  
特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 グループホームふくだ

施設長 木南 仁

### グループホームふくだの基本方針

1. 利用者が自分の意思で暮らすことができ、基本的人権が守られる支援を行います
2. 利用者がお互いを尊重し、助け合って生活できるような毎日を目指します
3. 1人ひとりの個性を認め、プライバシーを重視した生活を提供します
4. 地域の中で、社会の一員として「ふつうの暮らしを楽しむ」事を支える支援をします

### 2022 年度の事業報告について

今年度も新型コロナウイルス感染防止対策により、ご利用者の皆さんが団欒を楽しむ生活をする事は出来ませんでした。しかし、幸いなことにお一人も罹患されることなく過ごして頂いたことは何よりも良かったと思います。通所先の感染防止対策によりホームで数日間過ごして頂いたこともありましたが、どなたも混乱されることなく落ち着いて過ごして頂き職員一人ひとりが対応に慣れてきたことも感謝すべきだと感じます。また今年度も1日も運営を休むことなくご利用者の「ホーム」としての役割を果たせたことも感謝に堪えません。まずはご利用者の日常を守ることを第一優先とし、実施できなかった計画が多いことは反省すべき点です。

課題であった職員の勤怠システム（タイムプロ）導入については何とか実施でき、給与処理上の業務省力としては達成できましたが、記録のデータ化については積み残しとなりました。

また開設当初から入所されていたご利用者が ADL の低下が顕著になり、入浴や送迎バスの乗降に不安が出ていたところ、法人内入所施設への利用移行を検討することとなりました。短期入所から少しずつ慣れて頂き 12 月には入所移行されました。バリアフリーのホームとはいえ、職員の身体介護の知識経験不足が今後の課題となりました。また当初から入居を希望されていた方の中から新たな入居者をお迎えるすこととなり、3 月に決定、4 月から入居されることとなりました。2023 年 4 月末で 6 年間の指定認可の期限を迎える事となり、指定更新の手続きを行いました。

### 1. 事業概要

開設年月日：2017 年 5 月 1 日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第 2 種）	共同生活援助	10 名	知的障害者	2017 年 5 月 1 日

2. 2022年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	2022年度計画	実施状況	達成度
Q01	生活環境の充実	①成年後見制度の活用を奨励 ②家族・後見人・ガイド・事業所との関係性維持・向上 ③利用者の思いの尊重とプライバシーに配慮した生活の提供	①新規の制度利用なし ②サビ管を中心として連絡・情報共有を密に行うことで関係性構築 ③居室でのそれぞれの過ごし方に配慮しながら集団生活を送れるように支援実施	○
	マニュアルの整備	①業務マニュアルと利用者の個別支援マニュアルの定期的な更新 ②統一した支援の実施とホーム会議での共有と検討の実施	①マニュアルの見直しと更新実施 ②ホーム会議で個々の利用者の情報共有と検討を行い統一した支援を実施	◎
	地域との連携	①地域自治会に加入、ゴミ収集箇所の清掃実施や地域行事（夏祭り）等への活動に参加 ②日々のあいさつなどを通じた地域住民との関係性維持	①コロナ禍で地域自治会活動は中止 ②良好な関係性維持継続	◎
	防災対策	①年2回の避難訓練の実施 ②年1回の防災訓練の実施 ③感染症対策における指針の整備、備品の補充と管理 ④BCP計画の策定	①年2回実施（11/20・1/14） ②未実施 ③ ア) 職員の抗原検査を定期的実施 イ) 備蓄品の補充と管理実施 ウ) 密を避けた食事提供など標準感染予防策の実施 ④BCP計画未着手	△
財務	経営の安定	①週7日のサービス提供と、利用率90%維持 ②修繕等に備えた積立金の計上	①利用率94.4%達成 ②積立金を計上できず	◎ ×

区分	課題	2022年度計画	実施状況	達成度
	バックアップ機能の体制整備	①コーディネーター（サービス管理責任者）配置によるバックアップセンター機能の検討	①未実施	×
	業務省力化の推進	①業務日誌とケア記録でのPC活用の検討	①未実施	×
人材育成	基本理念の理解	①理事長による理念理解研修の実施（1回/年） ②神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用	①未実施 ②未実施	×
	専門性の向上	①職員会議での専門研修の実施（3回/年） ②月刊誌「さぽーと」の定期購読	①職員会議開催時に研修実施（7月・利用者支援と障害理解） （10月・接遇、虐待防止） ②未実施	○ ×
	虐待防止・人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を実施（1回/年） ②サービス管理責任者、管理者による月1回の支援会議の実施、支援方法や利用者対応についてのサポート ③年2回の虐待防止セルフチェックの実施	①権利擁護・虐待防止研修実施（11月） ②ホーム会議でのサビ管・支援課長による支援方法や障害特性へのサポート実施 ③年2回実施	◎

### 3. 出来た事案

特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸明生園  
施設長 山本 隆志

### 神戸明生園の基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い、愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。

### 第4期中期計画のビジョン

ご利用者、ご家族、職員が安心して過ごせる環境（人・物・経営）の実現を目指します。

2022年度は、神戸明生園及び法人内神戸地区知的障害者関係施設家族にとって永年の課題として残っていた、入所待機者を募ることが出来ました。

施設建設時より、法人内通所施設のご利用者にとって、親亡き後の生活の場としての役割を担う事が期待されていました。全ての入所ご希望者に対して、聞き取り調査を実施させていただき、入所時期の希望や緊急度を把握しました。

施設内では、男性2階東ホームのご利用者及び短期入所ご利用者が17名と職員が4名感染するという新型コロナウイルス感染症クラスターが発生しました。居室静養が出来ないご利用者のため、対応に苦慮しました。その後も、2回感染症の侵入がありましたが、職員の献身的な働きで乗り越えることが出来ました。

収入面では、持病による入院、状態変化による施設移行による影響が出ました。安定した施設経営、ご利用者支援の充実のために、入所定員空を速やかに埋めるべく、調整を進め1名の新規入所者を迎えることが出来ました。

感染症蔓延状況下においても、男女ともに緊急短期入所の受け入れは実施しており、入所施設としての役割を一定果たせています。養護者の入院に伴う緊急的な短期入所の受入を行い、地域生活を続けておられるご利用者、ご家族への安心を提供出来ました。

今年度から導入したコンサルテーション施設の支援力アップ、職員の支援への自信に繋げることが出来ました、今後はご利用者支援に更に活かしていきます。

#### 1. 事業概要

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	知的障害者
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	80名	知的障害者
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	10名	知的障害者
公益事業	日中一時	—	知的障害者

## (1) 理念の視点

実行計画	2022年度計画	上期実施状況	達成度
基本理念研修を開催し、日常支援を理念の視点で振り返りを行う	①基本理念研修の開催（年1回） オンラインで行い、録画し当日参加者以外も視聴する ②平和を求める祈りの唱和（コロナ禍のため、黙読）（週1回）	① 未実施  ② 取り組み実施週1回）	△
神戸明生園の歴史を学ぶ	①歴史資料館の見学に相当する内容の研修を実施（年1回） 神戸明生園の建設の経緯を学ぶ	① 下期に実施予定（12月） 内部で一部職員へ施設の建設経緯を研修実施した。	△

## (2) 人材確保育成の視点

実行計画	2022年度計画	上期実施状況	達成度
施設内の各種マニュアルの更新	①各種マニュアルの作成・更新（年1回）	① 更新実施（12月） （ヒヤリハット連絡見直し実施）	○
施設内研修の実施	①施設内研修の実施（年6回） 小グループ研修の実施 感染症研修の実施	① 3回実施（5、8、12月） 感染症研修の伝達実施（1月）	○
職員寮の提供	①借上げ実施（年4室）	① 1名実施（12月） （3月に新採職員向け1名追加実施）	○
契約職員の補強	①契約職員の補充を行い、不足人員の確保を行う（年3名）	① 未達成	×

## (3) QOLの視点

実行計画	2022年度計画	上期実施状況	達成度
生活スペースの再整理	①委員会開催（年6回） 寮再編成案の作成完了を目指す	① 4回開催	△
PTとの連携	①PTとの連携により、安全な支援環境の提供を進めていく （9月）	① 個々のご利用者に合わせた、環境調整実施できた（9名）	◎
マニュアル内容の更新	①各種マニュアル作成・更新 （人材確保育成と同一）	① 定期改定を実施できた	○
チェックリストの継続的実施	①継続実施（3か月毎）	① 予定通り実施済	◎
コンサルテーションの導入	①困難事例へのコンサルテーションの活用を行う （年4回） ②コンサルテーションを通して、支援技法の向上を目指す ③外部機関との連携を深めご利用者・支援員の笑顔を増やす	① 3回実施済 感染症の影響で1月は中止 ② 個別支援が充実 特定の事例では支援に対して家族理解が未達 ③ 相談事業所と連携し、職員の視野が拡大した	○
接遇研修の実施	①研修開催（年2回） オンラインを活用し実施する	① 2回実施済み（4月）（1月）	◎
スローガンポスターの掲示と更新	①スローガン掲示と更新（3か月毎）	① 選定含めて委員が積極的に実施済	◎

## (4) 経営強化の視点

実行計画	2022年度計画	上期実施状況	達成度
積立金の継続実施	①積立金の計上 予算達成を目指す	① 未達（光熱費支出増、退所での収入減、短期入所利用率減が大きく影響）	×
計画的修繕の実施	①新館ボイラー・内線電話の更新（10月） ②経年劣化している公用車1台の入れ替え（7月） （中古車の予定）	① 新館ボイラーは8月実施完了 内線電話は次年度へ延期 ② 公用車入れ替え完了（受診、送迎に活用）	○

(5) 人事労務危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
災害時 BCP の作成	①感染症蔓延時の BCP 完成 (9 月)	① 法人書式に合わせて作成	○
備蓄品の強化	①不足備蓄品の購入 (10 月) 備蓄品の見直しと更新	① 食品は発注済み ベッドの追加購入は未実施	○
福祉避難所 運営マニュアル策定	①感染症蔓延下でのマニュアル案の改定 (9 月)	① 限定的な人数での受け入れで申請しており、一部改定を実施 (12 月)	×
業務省力化の実施	① I O T 機器の追加導入 (9 月) 眠りスキャンの追加	① 今年度の補助事業の選定から外れたため、眠りスキャンは取りやめ、ロボット掃除機は実施	△
パートタイムワーカーの充足	①食事支援時のパートタイムワーカーの充実	① 1 名追加採用したが、年度末で退職	△

(4) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
医療福祉部会への参加	①参加情報共有 (年 4 回) 医療福祉部会内の研修参加	① 3 回開催中、1 回のみ参加	<u>△</u>

3. 出来した事案

(1) 男性 2 階東ホーム新型コロナウイルス感染クラスター発生

8 月 13 日～9 月 7 日の期間、男性入所者 15 名、男性短期入所者 2 名、職員 4 名の計 21 名が感染する事態となりました。入所者 1 名が脱水症状による血圧低下がみられたため、夜間の往診治療を受け無事回復しました。ご家族の受け止めは冷静で、不安の内容に定時の状況報告に努めました。クラスターの影響により通所事業を 2 週間半休止し、通所ご利用者にご家族にはご負担をおかけしました。通所事業を安全に再開するために、法人内他施設 (神戸愛生園) より、支援員 1 名の応援派遣を得ることがありました。感謝しております。

(2) 通所部ご利用者の感染事案発生

2023 年 1 月 7 日～18 日の期間、通所ご利用者 4 名、入所ご利用者 1 名が新型コロナウイルスに感染。ご利用者は全員軽症で回復。入所者 1 名から他者への拡大は防げ、対応した職員の感染も防護できた。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホーム ケアホームきたすま  
管理者 山本 隆志

### ケアホームの基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い、愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。
4. 利用者が地域の主体であることをともに感じるができる支援を目指します。

### 2022 年度の報告について

2022 年度においても、感染症の影響を受けつつ入居者の皆様が生活をされる状況でした。感染症対策及び、ご家族の高齢化により、一時帰省が出来なくなったご利用者が 1 名確認できました。

家庭的な雰囲気での生活に入居者の笑顔が見られました。通所先での感染事例が見られる最中も安全な環境を確保しつつ通所することが出来ました。

昨年度から導入した食材配達サービスが定着できたことは業務省力化と支援の充実が成果として見られました。

ご利用者の高齢化への対応が今後の課題ですが、バックアップ施設と連携して入居ご利用者が少しでも長く地域での生活が継続できるように支援の内容を充実させていきます。

今後は感染症の動向を見ながらにはなりますが、今年度実施出来なかった外出調整等を再開することが求められていますので、次年度に引き継いでいきます。

### 1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第 2 種)	共同生活援助	5 名	知的障害者

## 2. 推進状況

### (1) 総合的な課題・対策

実行計画	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
高齢・重度化への対応	①バックアップ施設との連絡を密に実施 神戸明生園及び、聖隷総合相談センターとの連携強化を継続支援体制の増強	① 送迎時の連絡を中心に実施 連携のための連絡手段に課題あり	△
利用者の安全の確保	①火災訓練の継続 体調不良時の対応力強化	① 体調不良時の対応は連携できた 火災訓練は点検時に職員のみで実施、利用者は未実施	○
地域生活の定着	①近隣との良好な関係維持（近隣住民の入れ替わりのため） ②移動支援等外部サービス利用の継続	① 近隣住宅が入れ替わり交流は希薄（トラブルは無し） ② 感染症予防で縮小	×
予算に沿った収入の確保	①利用率安定維持	① 安定	◎
設備改修・永続的運営に向けて	①積立金の継続的な実施	① 実施	◎
専門性の向上	①オンライン研修の提供 ②虐待防止の徹底（個別に研修実施） ③個別支援計画内容の実効性の向上 ④新規職員採用補強（夜間帯含む）	① 動画視聴実施 ② 動画の視聴研修を実施 ③ 一部利用者を実施 ④ アプローチするも未達	△

## 3. 出来た事案

特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
神戸市立ワークセンターひょうご  
しごとサポート中部  
神戸障害者就業・生活支援センター  
障害者雇用就業・定着拡大推進事業  
所 長 森 崎 康 文

### 基本方針

1. 法人の基本理念のもとに、標記の4事業を一体的・有機的に運営する。
2. 障害者が「1人でも多く、1日でも長く」一般就労できるよう支援する。
3. 個々の訓練生・相談者に適した就職支援・定着支援を継続的に進める。
4. 関係機関との連携の強化に努め、障害者の一般就労の伸展を目指す。
5. 神戸地域における障害者就労支援の中核施設として、その専門性の向上を図る。

### 第4期中期計画のビジョン

就労支援を通して、すべての利用者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

### 2022年度の事業報告について

第4期中期計画の最終年度となる2022年度は、標記4事業を一体的・有機的に運営し、障害のある方が「一人でも多く、一日でも長く」一般就労できるよう、就職支援・定着支援を推進しました。

まず、ワークセンターひょうごですが、年度初めの在籍者数が16名と定員のほぼ半数からのスタートという非常に厳しい状況でした。そのため、利用者確保を最優先事項とし、特別支援学校をはじめ、各区役所、支援機関等40か所以上に足を運び、積極的な営業活動、および顔の見える関係づくりを行いました。また、将来的に利用につながる可能性を広げるため、見学や実習の受け入れ、就Bアセスメントを積極的に受け入れました。結果、年度内に7名の途中入所者を迎え、2023年度4月からの利用希望者を12名確保し、2023年度は26名スタートできる見込みとなりました。また、利用者が少ない中ではありますが、報酬区分の維持のため、就職者を一定数輩出する必要があり、年度内に8名の就職者を輩出しました。また、利用者について、知的障害のある方に限定せず、精神障害、発達障害、聴覚障害がある方など多様な障害種別の受け入れを実施しました。職員の専門性を向上させ、将来的には、神戸地域における就労支援の核として、様々な職業課題や障害特性のある方の支援ができる施設を目指したいと考えております。

次に、しごとサポート中部をはじめとする就労相談部門です。昨年度はコロナ禍で職場定着支援のための企業への訪問を見合わせたり、事業によっては中止せざるを得ないことがありましたが、今年度は個別の相談支援はもとより、相談者向けのプログラムや各関係機関との会議・研修などについて、どうすれば安全に実施できるかという視点で協議を行い、感染対策や開催方法を工夫することで、可能な限り実施することができました。

【ワークセンターひょうご】

1. 事業概要

開設年月日：1996年4月1日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労移行支援事業 －神戸市立ワークセンターひょうご－	30名	知的障害	2006年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労定着支援事業	－	知的障害	2018年8月1日
公益事業(市委託)	相談支援事業 －しごとサポート中部－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	1996年4月1日
公益事業(国委託)	相談支援事業 (雇用安定) －神戸障害者就業・生活支援センター－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2004年7月1日
地域生活支援事業 (県委託)	相談支援事業 (生活支援) －神戸障害者就業・生活支援センター－			
公益事業 (県補助事業)	職場開拓事業 －障害者雇用就業・定着拡大推進事業－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2004年7月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
【共通】 法人内部研修への積極的参加	法人内部研修への参加	①法人内部研修への参加 (各職位研修、理念研修など)	ア) 法人新採職員研修 (4月) イ) 主任・副主任研修 (6月) ウ) 施設職員ビジネス基礎マナー講座 (6月) エ) 主任・副主任研修 (7月) オ) 法人事業種別研修 相談支援事業 (10月) カ) 法人事業種別研修 通所・日中活動支援事業 (10月) キ) 法人フォローアップ研修 (10月) ク) 一般職員研修 (11月) ケ) 中級職員研修Ⅱ (11月) コ) 法人事業種別研修 施設入所支援事業1回目 (11月) サ) 法人事業種別研修 相談支援事業 (12月) シ) 法人事業種別研修 (1月) ス) 中級職員研修Ⅲ (2月) セ) 困難事例共有会 (2月) ソ) 施設入所支援事業研修 (3月) タ) 総合職員研修 (3月)	◎
【共通】 神戸聖隷ハンドブックの活用	会議等での神戸聖隷ハンドブックの活用	①ハンドブックを活用した職員によるお話	ア) 職員会議にて、毎月ハンドブックを共有したり、職員による話をしていたが、コロナ禍で、職員会議の時間を短縮したため未実施	×
【共通】 法人理念の共有	基本理念の唱和	①全体職員会議での理念の唱和	ア) 各職員会議及び全体職員会議にて法人基本理念の黙読を実施	○

(2) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	上期実施状況	達成度
【共通】 内部研修、外部研修の	外部研修の活用	①外部研修参加	ア) 34種の外部研修に延べ55名の職員が参加	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
効果的な活用	内部研修の活用	①内部研修実施	ア) ビデオ教材による研修実施に向けて準備 (4~8月) イ) 2講座 10名参加 (9月) ウ) 2講座 4名参加 (10月) エ) 2講座 8名参加 (11月)	◎
	外部資源の活用	①就業支援アドバイザーの活用	ア) 専門家からの助言が必要なケースがあるかどうか、職員に確認したが、処遇困難なケースがなかったため、開催を見合わせた	△
	権利擁護意識の向上	①虐待防止事例検討会の実施 (年2回)	ア) ワークセンターひょうご職員8名が虐待事例検討会を実施 (12月、1月)	△

### (3) QOLの視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
【ワーク】 訓練内容の充実	訓練プログラムの充実	①訓練内容のブラッシュアップ	ア) 座学実施 (4、5、7、10、11、2、3月) イ) 訓練生にワークサンプルを使用したピッキング作業を提供 (6月) ウ) 作業の出来高自己チェック表を作成 (11月) エ) 作業出来高記録表の試験運用 (1月)	○
	外部訓練の拡充	①体験実習先開拓	ア) フェリシモに新規実習依頼 (6月) イ) 第一生命チャレンジドに新規実習依頼 (9月) ウ) 第一生命チャレンジド(株)大阪見学 (10月) エ) ソックコウベ(株)配送センター見学 (10月) カ) ぽー愛見学 (10月) カ) フェリシモに2名の利用者が体験実習 (10月) キ) ぽー愛に1名の利用者が体験実習 (10月~11月) ク) あしすと阪急阪神見学 (10月)	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
			㌾) 法人内の Tunagari に打診 (12 月) ㌿) ㈱バイク王&カンパニーに 1 名の利用者が体験実習 (12 月) ㍀) 第一生命チャレンジド㈱に 1 名の利用者が体験実習 (12 月) ㍁) AIG ハーモニーに 2 名の利用者が体験実習 (2 月)	
	職員のスキルアップ	①障害についての勉強会	㍂) 職員会議時に自閉症の DVD を視聴 (6、8、11 月)	○
【共通】 職場定着支援の継続	在職者の交流促進	①在職者交流会の実施 ②ドリーム、ほっとロビーの実施	① ㍂) 第 1 回在職者交流会を実施。参加者 13 名 (7 月) ㍃) 第 2 回在職者交流会を実施。参加者 36 名 (11 月) ㍄) 第 3 回在職者交流会を実施。参加者 27 名 (2 月) ② ㍂) ドリームを 11 回開催した。参加者延べ 192 名	◎
	就労定着の促進	①就労定着支援事業の実施	㍂) 14 名の方と契約を実施	◎
【就労】 利用者・相談者の利便性向上	相談者の利便性向上	①土曜開所継続	㍂) 毎月第 3 土曜日に 2 名の職員を配置し、開所した。来所相談 12 件、電話相談 53 件	◎
【就労】 就労相談支援の充実	就労相談支援の拡充	①生活困窮者等支援及び地域関係機関支援	㍂) 前年度まで雇用安定事業の委託内容であったが、今年度は含まれず未実施	—
	相談者の現状とニーズ把握	①現況調査 (葉月作戦) の継続 (年 1 回)	㍂) 職員への周知、送付内容の精査、送付準備 (4~7 月) ㍃) 786 名の方に現況調査票を送付 (8 月) ㍄) 返送のあったものをシステムに反映し、支援が必要な方に連絡を実施 (9 月~12 月) ㍅) 報告書を作成 (2 月)	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
【共通】 支援マニュアルの整備による円滑な業務遂行	マニュアル作成・更新	①マニュアルの作成、運用と見直し	ア) 訓練生役割マニュアルの一部改訂 (11月)	◎
【共通】 ワンストップサービスの機能の拡充	重層的な相談支援の実施	①生活、発達、就労の一体的な相談支援の現状把握	ア) 併設のひょうご障害者相談支援センター、神戸市発達障害者中部相談窓口との連携ケースは合計 19 件	◎
【共通】 虐待防止セルフチェックリストの実施	虐待防止の促進	①チェックリストの実施	ア) 虐待防止チェックについて、全職員がオンラインで実施 (9月、2月) イ) 虐待防止取り組み報告シートを作成 (3月)	◎
【共通】 顧客満足度調査の実施	虐待防止の促進	①調査実施と集計	ア) 顧客満足度調査を実施 (11～12月) イ) 結果を HP にアップ (1月)	◎
【共通】 虐待防止研修	ニーズの把握	①虐待防止研修の実施	ア) ワークセンターひょうご職員 8 名が虐待防止研修を受講 (12月、1月)	◎

#### (4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
【共通】 事業内容の充実と誠実な遂行	関係機関との各会議の開催	①関係機関との連携会議の開催 (ネットワーク会議) ②関係機関との連携会議の開催 (就労移行支援部会) ③関係機関との連携会議の開催 (教育関係機関就労支援連絡会議)	① ア) 第 1 回ネットワーク会議を開催。71 名が参加 (5月) イ) 第 2 回ネットワーク会議を開催。52 名が参加 (2月) ② ア) 第 1 回就労移行支援部会を開催。44 名が参加 (8月) イ) 第 2 回就労移行支援部会を開催。37 名が参加 (12月) ③ ア) 第 1 回教育関係機関就労支援連絡会を開催。16 名が参加 (8月) イ) 第 2 回教育関係機関就労支	◎   ◎  ◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
			援連絡会を開催。16 名が参加 (3 月)	
	相談者の実習の機会の確保	①神戸市トライアル実習、訓練雇用の実施	ア) 訓練雇用のジョブ的支援 (毎月) イ) 神戸市障害者トライアル実習公募 (5 月) ウ) 神戸市障害者トライアル実習面接実施 (6 月) エ) 神戸市障害者トライアル実習実施 (7~12 月) オ) 訓練雇用の支援を延べ 46 回実施	◎
【ワーク】 積極的な営業活動	ワークセンターについての情報発信	①見学受入 ②学校等訪問 ③HP 更新と内容の充実	① ア) 25 件、105 名の見学を受け入れ ② 下記の通り、学校等を訪問 ア) 特別支援学校 (7)、須磨区役所、あけぼの学園 (6 月) イ) 特別支援学校 (1)、エコール神戸 (7 月) ウ) 【来所】市教育委員会、いたみ杉の子発達支援連携室 (7 月) エ) 特別支援学校 (12)、あけぼの学園 (8 月) オ) 区役所 (8)、明石市市役所、しごとサポート北部 (9 月) カ) 【来所】須磨区役所 (9 月) ③ ア) ワークセンターひょうご、アリエッタ北須磨の満足度調査の実施結果をアップ (5 月) イ) ブログ更新 (随時)	◎
	訓練生確保	①途中入所者の確保	① ア) 7 名の途中入所者を確保	◎
【ワーク】 利用者の出	安定した出勤率の達成	①出勤率の確保	① ア) 法定利用率 47.49%	△

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
勤率と職場 定着率の向 上	職場定着の促 進	②定着率の確保	② ア) 毎月の職員会議で就労定着 支援利用者の状況把握を実施 イ) 定着率(42 月以上 78 月未 満) : 95.16%	◎

#### (5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
地域交流 の継続	地域の人々との 関係構築 地域貢献	①地域交流の継続	ア) 7 月に近隣小学校の親子を 対象にイベントを企画して いたが、新型コロナウイルス 感染拡大のため、中止	△
		①地域清掃活動	ア) 9 月の雇用啓発キャンペ ーンと連動して実施予定して いたが、新型コロナウイルス 感染拡大のため、中止 イ) 訓練時間に事業所周辺の清 掃活動を実施 (10、3 月)	○
地域内の 関係機関 の支援力 向上	地域内の支援 者支援	①中部ネットワーク会議	① ア) 第 1 回中部地域就労推進ネ ットワーク会議を開催 (11 月) イ) 第 2 回中部地域就労推進ネ ットワーク会議を開催 (1 月 21 日) ウ) 中部地域就労推進ネットワ ーク会議を開催 (1 月 31 日)	◎
		② 6 者会の開催	② ア) 毎月開催し、神戸市、しご とサポートと連携を図った イ) 6 者会より波及し、参画機関 共催で神戸市就労推進ネッ トワーク会議を企画・開催 参加者 22 名 (1 月)	◎
		③就業支援基礎研 修	③ ア) 就業支援基礎研修を、兵庫 障害者職業センターと共催 参加者 41 名 (7 月)	◎

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
【共通】 ワークライフバランスを意識した働き方の励行	仕事と家庭生活のメリハリ	①超過勤務、有給休暇取得の状況確認	ア) 超過勤務が月 30 時間を超える職員なし イ) 有給休暇取得は、すべての職員が年 5 日以上取得。全職員の平均有休取得率 80%以上	◎
	風通しの良い職場づくり	①職員面談の実施	ア) 定期的な職員面談を実施 (5、6、8、9、10、11、12、2、3月)	◎
【共通】 職場環境の整備	職場環境の整備	①職場環境改善委員会 (仮) の立ち上げ ②委員会での課題検討	① ア) 職場環境改善委員会を立ち上げ、年間計画を策定 ② ア) 委員会を開催し、職場環境について協議 (4~9月) イ) 職員アンケートを実施 (7月) ウ) アンケートを分析し、すぐに改善できることを実施 (8、9月)	◎ ◎

3. 出来た事案  
特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
グループホーム アリエッタ北須磨  
施設長 森 崎 康 文

### 基本方針

1. 利用者一人ひとりの人権と主体性を尊重した支援を行います。
2. 利用者が元気に職場等に出かけ、安心して帰って来ることができる“心の拠りどころ”となり、「一日でも長く」働き続けられるように支援します。
3. 地域と連携し、地域に根ざしたホームとなるよう努めます。

### 第4期中期計画のビジョン

就労支援と生活支援を通して、すべての利用者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

### 2022 年度の事業報告について

第4期中期計画の最終年度である2022年度は、新型コロナウイルスへの対応を第一に、事業運営を行ってきました。手指消毒、毎朝夕の検温、マスク着用の徹底はもとより、共用スペースの消毒や食事提供方法を個室対応にするなど、感染予防に努めました。それでも職員や利用者が新型コロナに感染することがあり、発生時の対応についてマニュアルを作成しました。それをもとに徹底した対応を行うことで、感染が広がることはありませんでした。今後も、利用者の皆さまが安心して生活でき、かつ職員が安心して働ける環境を整えてまいります。

今年度のトピックとして、①生活支援のマニュアルの作成・見直し、②避難訓練の調整について、③利用率の低い方へのアプローチ、が挙げられます。

1つ目の生活支援のマニュアルについて、昨年度、作成したマニュアルをもとに、新型コロナへの対応を始め、利用者の支援方法が変更するたびに内容を更新しました。また、医療面でのケアに関する事が増えた際には、確実な対応ができるよう、世話人に漏れなく共有を徹底しました。今後も、利用者がより快適かつ安全に生活できるように、定期的に支援マニュアルを更新し、確実な共有を図りたいと思います。

2つ目は、避難訓練を企画し、11月に実施しました。今回、避難訓練に合わせて、災害用簡易トイレの設置訓練も実施し、緊急時の避難に加えて、トイレが使用できなくなった場合の対処についても学ぶことができました。また3月には、防災に関する講義を行い、災害があった場合の避難場所や連絡先などについて入居者同士で話をしながら紙面にまとめるワークを行い、防災に関する意識づけを図りました。

最後に、経営面についてですが、開設当初よりグループホームの宿泊数が週1日と少ない方がおられました。管理者による面談を実施し、利用に踏み切れない理由を確認しました。障壁となっていることについて他機関と連携し解決を図ることで、10月より基本はホームで過ごし、週末に帰省するサイクルとなり、約3割だった利用率が8割程度になりました。

収支状況が安定しつつありますので、今後は、利用者の自立度を高めていける支援を展開したいと考えます。

【アリエッタ北須磨】

1. 事業概要

開設年月日：2020年1月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	10名	知的障害者	2020年1月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	上期実施状況	達成度
【共通】 法人内研修への積極的参加	法人内研修への参加	① 法人内研修への参加（各職位別研修、理念研修など）	ア) 職員シフトの関係上、研修への参加なし	×
神戸聖隷 ハンドブックの活用	会議等での神戸聖隷ハンドブックの活用	①ハンドブックを活用した職員によるお話	ア) 職員シフトの関係上、未実施	×
法人理念の共有	基本理念の唱和	①職員会議での理念唱和 ②ハンドブック活用	ア) 職員シフトの関係上、未実施。職員室に理念を掲示	×

(2) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	上期実施状況	達成度
研修の効果的な活用	外部研修の活用	①内部研修参加	ア) 職員体制やシフトの関係上、参加なし	×
	内部研修の活用	①外部研修実施	ア) 職員体制やシフトの関係上、未実施	×
権利擁護の推進	権利擁護意識の向上	①虐待防止研修等への参加	① ア) 内部で虐待防止研修を実施(12月)	◎
		②虐待チェックリスト(セルフチェック)の実施	② イ) 虐待防止チェックについて、全職員がオンラインで実施(9月、2月)	◎

(3) QOLの視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	上期実施状況	達成度
マニュアルの整備	マニュアル作成	①基本的な生活支援のマニュアル作成 ②個別のスケジュール作成	① ア) 各シフトの支援内容や職員の動きを整理し、新型コロナ対策を踏まえたマニュアルの更新を実施 ② ア) 生活面で課題のある利用者について、見守りや直接支援の必要性があり、スケジュールを更新	○ ○
健康管理	医療機関との連携	①医療機関との連携による適切な健康管理	ア) 利用者の体調不調時に、協力医療機関や利用者のかかり付け医をタイムリーに受診	○
防災対策	避難・防災訓練の検討	①消防設備点検 ②避難訓練等の実施	① ア) 消防設備点検を実施し、所管の消防署に報告済み(6月) ② ア) 消防避難訓練について、11月の実施にむけて調整(9月) イ) 11月の消防訓練で、簡易トイレの設置訓練を実施 ウ) 防災に関する講義・ワークを実施(3月)	○ ◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	上期実施状況	達成度
収支の改善	収支状況の把握と改善策の検討	①稼働率の把握 ②宿泊回数が少ない利用者への利用勧奨	① ア) 毎月、利用率の把握を実施 昨年度比+1000千円 ② ア) 10月より、利用率8割程度となる。	◎ ◎
堅実なバックアップ体制構築	バックアップ体制の構築	①緊急時のワークセンターひょうごによる速やかな対応とフォロー	① ア) ワークセンターひょうご職員が、夜間も含めて緊急時に対応できる体制を確保 イ) 停電が発生。入居者のフォロー、食材の管理、復旧後の待機などの対応を実施(9月)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
地域との連携	地域とのつながりをつくる	①地域でのイベント等への参加・協力	ア) おいでやすカーニバルに、入居者4名、職員5名が参加(9月)	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	上期実施状況	達成度
ワークライフバランスを意識した働き方の励行	仕事と家庭生活のメリハリ風通しの良い職場づくり	①超過勤務、有給休暇取得の状況確認	① ア) 超過勤務については、業務上必要な場合を除いては基本なし。 イ) 有給休暇取得状況の確認	○
		②職員面談の実施	② ア) サービス管理責任者と世話人等によるコミュニケーションを日常的に実施 イ) 1名の職員と面談を実施(7月) ウ) 5名の職員と面談を実施(3月)	◎

2. 出来た事案  
特になし

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
ひょうご障害者相談支援センター  
神戸市障害者基幹相談支援センター  
神戸市発達障害者中部相談窓口  
所 長 森 崎 康 文

### センターの基本方針

#### 【ひょうご障害者相談支援センター】

1. 障害のある方（以下、「相談者」という）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が住み慣れた場所で暮らせるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を行います。
2. 困難ケースへの対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。
3. 障害の有無に関わらず、住み慣れた場所で安心して暮らすことができるよう、関係機関との協働のもと、区自立支援協議会事務局として協議会の活発な運営を担います。
4. 兵庫区障害者地域生活支援拠点として「見守り支援事業」の委託を受け、障害者の見守りを各関係機関と連携しながら行い、相談支援機能と地域社会資源の連携体制の構築に取り組みます。

#### 【神戸市障害者基幹相談支援センター】

1. 市内の特定相談支援事業者の統括および、区自立支援協議会と市自立支援協議会・神戸市施策推進協議会の連携に向けた後方支援等を行うことにより、神戸市の相談支援体制の強化に貢献します。
2. 兵庫県下の各圏域との協働を通して、人材育成を含めた神戸市の相談支援体制の拡充と新カリキュラムに基づいた初任者研修、現任者研修、新たに主任相談支援専門員研修を実施します。

#### 【神戸市発達障害者中部相談窓口】

1. 発達障害のある方（以下、「相談者」という。）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が自立した地域生活と社会参加ができるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を提供します。
2. 困難ケースへの対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。

#### 【第4期中期計画のビジョン】

障害のある方が安心して地域生活を続けていけるよう身近な相談機関としての役割を果たします。

## 2022年度の事業報告について

全事業共通として昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策として検温や手指消毒等の日々感染防止対策を継続し、職域接種で希望者にはワクチン接種を実施する等安心して働ける職場環境の構築に努めました。

まず最初に障害者相談支援センターですが、自立支援協議会の事務局として各部会運営を行いました。5月の全体会は規模を縮小して、対面で開催することができました。相談支援部会では「計画相談の集い」として特定相談支援事業所に特化した話し合いを行ったり、活性化部会では子どもの課題を中心としたプロジェクトの企画等次年度につながる話し合いを持ちました。委託の調査業務（認定区分、勘案、移動支援）では、訪問を基本としていますが、感染への懸念から訪問に抵抗を感じている方には電話で聞き取りを行う等対象者の状況に応じて対応しました。地域生活支援拠点としての役割では見守り支援事業で対象者への訪問や関係機関との連携を深められるよう、区内のあんしんすこやかセンターを訪問し事業の啓発、研修会を開催しました。また要援護者支援では区内3か所の基幹福祉避難所の避難訓練に参加し障害者の受け入れについて具体的な対応策を助言する等関係構築に努めました。地域支援機能強化事業では地域移行を推進するために、入所施設や精神科病院を訪問し現状把握と共に支援者の意識向上を図りました。また支援者向けの研修を開催する等ネットワークの構築にも貢献しました。

次に基幹相談支援センターは、定期的な圏域コーディネーター会議や階層別の会議だけではなく、市内特定相談支援事業所や市内相談支援センターの更なる後方支援に取り組めるよう、積極的に事例検討会に参加しファシリテーション力を身に付けられるように支援者へ働きかけました。市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会では、参加者の密集を避けるため、少人数で同じ内容を5回開催し、相談支援専門員の質の向上に努めました。また初任者研修修了者のフォローアップとしてファーストレベル研修を行い、相談員が孤立することないよう定着を目指しました。「きほんの〜き」では隔月にオンラインを活用して、支援センター職員を対象に経験年数に関係なく、その都度タイムリーな話題で意見交換を行いました。また神戸市療育ネットワーク会議の委員や神戸市自立支援協議運営協議会に事務局として外部会議に参加しました。初任者研修、現任者研修ではファシリテーターとして研修プログラムが円滑に遂行できるよう担当で落ち合わせを行い、相談支援専門員の育成に協力しました。

最後に発達障害者中部相談窓口では、年度当初は職員の異動、産休、退職等落ち着かない状況でした。今年度は神戸市から委託業務が拡充され、相談窓口連絡会の運営（年12回）、事例検討会での検討事例の調整等、4窓口の中心的な役割を担うようになりました。三田谷治療教育院、関西学院大学、兵庫教育大学との連絡調整では、参加者のとりまとめや調整業務を行いました。また地域活動支援センターとの連携では、担当区のセンターを訪問し顔の見える関係作りに努め、ケースを通して同行支援等を行いました。発達障害者への理解と啓発を目的に「おいでやすカーニバル」で相談ブースを設けることを企画していましたが、開催規模縮小に伴い参加ができず、アウトリーチの一環として担当区（中央区、兵庫区、長田区、須磨区）にある定時制学校にアンケート調査を行いました。窓口のアピールと発達が気になる生徒について聞き取りを行い、支援につながりやすい関係作りに努め、訪問校（長田商業高校）からの教員向けに研修会の依頼を受け、発達障害者の理解につながるよう尽力しました。専門性の向上では関西学院大学の講師が巡回相談で来所し、ケース検討を通じて個々の相談員のスキルアップを図り、毎月他の相談窓口との連絡会でも事例検討を行いました。また弁護士から触法相談者の裁判への協力依頼があり、発達障害者の特性を伝えることで再犯防止につながるよう努め

ました。引き続きグループセッションやペアレントトレーニングにも参加しています。

## 1. 事業概要

### 1. 事業概要

開設年月日：2002年7月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 （第2種）	一般相談支援	－	身体障害児・者	2002年7月1日
	特定相談支援	－	知的障害児・者	
	障害児相談支援	－	精神障害児・者	
公益事業	神戸市発達障害者中部相談窓口	－	発達障害者	2009年7月1日
公益事業	神戸市障害者基幹相談支援センター	－	相談支援事業者	2012年5月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
法人理念に触れる機会を活かし研修に参加	理念研修に参加	①法人理念研修に参加	ア) 法人新採用職員研修（4月） イ) 法人一般職員研修（6月） ウ) 法人フォローアップ研修（10月） エ) 法人事業種別研修（10、11、12、1、2、3月） エ) 法人一般中級研修（2月） オ) 困難事例共有会（2月） カ) 法人総合職員研修（3月）	○
聖隷ハンドブックの活用	ハンドブックを活用した職員によるお話し	①職員会議時に職員からお話し	ア) 職員会議時に職員のお話し（毎月）	○
法人基本理念の唱和	全体職員会議時に唱和	①全体職員会議時に唱和（2ヶ月毎）	ア) 全体職員会議時に法人基本理念を黙読（偶数月） イ) 各セクションの職員会議時に法人基本理念を黙読（毎月）	○

## (2)人材育成の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
多様な相談に応じることができる職員を育成できるよう育成プログラムを活用	定期ヒアリング SV の定例実施	①定期ヒアリング(2回/年) ② SV (3回/年) 2週間以内に記録を整備、提出	① ア) 職員と定期ヒアリングを実施(8月) ② ア) 機能強化員と副主任によるスーパービジョン(6、7、11月) イ) SV 実施後は記録を課長、所長に提出(毎回)	○
内部研修、外部研修の効果的な活用	内部研修の実施 外部研修の参加	①内部研修の企画、立案、調整、実施(2回/年)	ア) 担当者による打合せ(5、6月) イ) NHK ハートネット TV 動画を活用しテーマ別研修を企画(7、8月) ウ) 内部研修としてテーマ別に6回に分けて実施(9、10、11月)	◎
人員配置増に伴い業務内容を整理	職員配置の増員につき業務分担、内容を整理	①市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会の充実	ア) 市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会を5回開催。参加者57名、サービス等利用計画の評価、行政説明、効率的な事業運営について(12、1月) イ) 初任者研修修了者を対象にファーストレベル研修、参加者36名(2月) ウ) きほんの〜き ZOOM 配信(隔月)年5回開催、延べ参加者43名	◎
初任者研修の企画構成委員として企画運営及び実施	初任者研修の企画、構成、実習受け入れ調整	①新カリキュラム導入に伴い円滑な研修の企画、構成	ア) 初任者研修インターバル期間の受け入れ調整(9月) イ) 初任者研修受講者1回目60名(神戸圏域17名)、3回目54名(神戸圏域16名)に修了証を交付(10、11月) ウ) 現任者研修講義、演習講師(1、2月)	○

(3) QOLの視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
定期的なケース検討	区打ち合わせ 朝礼、職員会議	①毎月の区との打ち合わせ ②朝礼時のケース共有 ③職員会議時にケース検討	① ア) 区とケース共有を行い、困難ケースの対応等打ち合わせ（毎月） ② ア) 朝礼時に気になるケースは随時報告、共有データで遅番や休みの職員にも周知 ③ ア) 職員会議時にケース検討（毎月3ケース） イ) 個別支援会議（10月2ケース、11月1ケース、12月2ケース、1月1ケース）	◎
発達障害者相談窓口と地域活動支援センターとの連携	地域活動支援センターの訪問、ケース共有	①地活との連携により、ケースを深める（3回/月）	ア) 中央地活、地活ヨハネ、地活長田、ゆめのの集いに連携が必要なケースの確認を行う（毎月） イ) 地活ヨハネ（6、8月）地活長田（11月）、地活パッソ（1月）、ハーモニー垂水、ヒュッゲ（3月）見学 ウ) 窓口相談者をゆめのの集いにつなぎ登録（10月）	◎
ワンストップサービス機能の定着	各事業所間の共有	①各事業の進捗状況の確認及び共有	ア) 発達、就労、支援センター、ワークセンター連携ケース（年間22件）	◎
虐待防止セルフチェックリスト	サービスの質の向上	①虐待防止セルフチェックリストの活用	ア) 法人虐待防止チェックリスト実施（9、2月） イ) 虐待防止報告シート（3月）	○
顧客満足度調査		①顧客満足度調査の実施（1回/年）	ア) 顧客満足度調査計画相談契約者に配布：11名、発達相談窓口19名。回収：計画8名、発達10名（11月） イ) 法人ホームページに結果をアップ（1月）	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
虐待防止研修	サービスの質の向上	①虐待防止チェックリストの活用（2回/年）	ア) 意思決定支援と虐待防止に関する研修会（9月） イ) 神戸市障害者虐待対応力向上研修（12月） ウ) 虐待対応力向上研修（1月） エ) 苦情解決、虐待防止委員（9、3月）全体職員会議時に委員会報告（12月） オ) 虐待を疑われる案件ケース2件を兵庫区に通報	◎
環境整備		①アメニティーの向上	ア) 担当者間で打合せを行い、掲示物の整理、更新（毎月） イ) 感染防止対策としてソファ、手すりの消毒、検温、来館者名簿の設置（毎日）	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
神戸市からの委託業務継続	自立支援協議会、調査業務、見守り支援事業、相談支援体制強化、相談窓口機能	①自立支援協議会事務局運営（各部会、運営委員会、総会）	ア) 総会（5月） イ) 運営委員会（8月を除いた偶数月） 相談支援部会（毎月）3区合同（須磨、長田、兵庫区/9月） 事業所部会（7、8、10、1、2月） 防災を考える部会（6、8、10、12、1月） 活性化部会（4、6、7、9、10、11、1、3月） のりあいネットワークプロジェクト（3月） ハートンマルシェ（毎月）	◎
		①調査業務（勘案、区分、移動支援）	ア) 調査件数上半期（勘案 300件、区分 38件、移動支援 75件、訪問入浴 1件） 下半期（勘案 365件、区分 38件、移動支援 26件）	◎

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
神戸市からの委託業務継続	自立支援協議会、調査業務、見守り支援事業、相談支援体制強化、相談窓口機能	①見守り支援事業 (関係機関連携、連絡会)	ア) 見守り支援員連絡会(毎月) イ) 区内8か所のあんしんすこやかセンターへの広報、啓発(6、7、9、10、11月) ウ) 身体知的相談員連絡会で事業案兄(4月)	○
		①相談支援体制強化 (圏域コーディネーター連絡会、階層別連絡会)	ア) 圏域コーディネーター連絡会にて兵庫県より情報提供、圏域の相談支援関連の状況、意見交換(毎月) イ) コーディネーター連絡会(奇数月) ウ) 機能強化員自主連絡会(毎月) エ) センター連絡協議会(毎月)	○
		①発達障害者相談窓口機能 (相談員連絡会、PT、GS)	ア) グループセッション(11、2月) イ) ペアレントトレーニング(4、5、6、10、11月)、終了者交流会(3月) ウ) 兵庫教育大学井澤先生事例検討会(6、8、10月) エ) 関学巡回支援(10月)	○
加算要件を満たす体制確保	事業所加算の取得	①指定研修修了者を配置	ア) 初任者研修受講終了者1名(10月) イ) 医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修受講(6、12月)	○
個別ニーズへの対応	計画相談、一般相談支援の取り組み	①計画相談26件、地域定着2件、地域移行1件	ア) 計画相談契約者垂水区に転居のため1名(5月)、介護保険施設入所者1名終了(7月) イ) 年度途中新規契約者5名：合計26名(3月末現在) ウ) 地域移行、地域定着支援対象者はなし	△

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの把握と対応	身体的相談員連絡会の開催	①地域課題の抽出 (3回/年)	ア) 神戸市より相談員、支援センター職員向けにアンケート調査(6月) イ) 相談員連絡会、研修会(8、12月)	○
地域ニーズの把握と対応	ほっとかへんネットへの参画	①関係機関との連携 (実務者会、生活環境改善事業研)	ア) ほっとかへんネット兵庫役員会に出席(5、7、11月) イ) 総会(6月) ウ) 兵庫運河祭(10月) エ) 相談プロジェクトチーム会議(5、8、9、10月) オ) 災害時支援活動プロジェクト会議(9、10、12、1月) カ) 災害支援研修会(11月) キ) 生活環境改善事業(3月)	◎
地域ニーズの把握と対応	発達障害者の理解と啓発	①おいでやすカーニバルで相談ブースを設置	ア) 「おいでやすカーニバル」中止のため、定時制高校を対象に発達障害に関するアンケート調査を実施、支援の必要性を確認 イ) 長田商業高校の教職員向け研修会(2月)	◎
	災害時要援護者支援	①障害者支援センターとして避難訓練の実施	ア) 区内3か所の基幹福祉避難所と避難訓練(10、11、2月) イ) 基幹福祉避難所との訓練に「防災を考える部会」より障害当事者(聴覚)1名参加(2月)	◎

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
働きやすい職場作り	有給休暇の取得推進	①計画的付与 (5日以上)	ア) 取得率75.2%	○
	超過勤務の軽減	①各職員の超過勤務を月/10時間以内	ア) 超過勤務月/10時間を超える職員はなし	○
	職場環境改善	①働きやすい職場環境を検討	ア) 担当者間で打合せ(4~9月) イ) 職員アンケートを実施(6月) ウ) 3つの改善策を実施(8月)	○

2. 出来した事案

(1) 特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 ひょうごデイサービスセンター  
施設長 大嶋 信幸

ひょうごデイサービスセンターの基本方針

1. 利用者に重い障がいがあっても、利用者を支える家族も含めて、地域社会で『普通に生きる』ことができるよう、『笑顔と真心』で支援する。
2. 利用者の『人権を尊重』し、『喜びと感動』を生み出すサービス提供に努める。
3. 利用者と家族の悩みや課題をしっかりと受け止め、個別支援計画に基づき、『専門性とチームワーク』による『質の高い思いやりのあるサービス』を提供し、『地域社会に貢献』する。
4. 今までの手段や方法にこだわらず、人の持つ『知恵と無限の可能性』を信じ、『絶えず前進』することに努める。

### 第4期中期計画のビジョン

地域生活支援拠点としての役割を果たし、利用者とその家族が安心して地域生活を続けられるように支援します。

職員が安心して働き続けられる事業所を目指します。

2022 年度の事業報告について

第4期中期計画の最終年度は、これまでの振り返りと現状の確認を行い、ゴールを見据えて推進すると共に、計画の一部を変更し、課題の解決に向けて取り組みました。

今年度、特に力を入れて取り組んだのが「職員の知識と技術の向上」です。支援の核となる個別支援計画についての勉強会を5回シリーズで開催し、改めて個別支援計画の重要性を学ぶ機会を持ちました。併せて、よりご利用者のニーズに沿った支援内容になるように、個別支援計画書、モニタリング表の様式の改訂を行いました。次に、昨年度より法人で取り組んでいるケア記録等のペーパーレス化に向けて、ノートパソコンを7台購入して環境を整え、各事業の業務日誌とケア記録を手書きからExcel入力へと変更しました。特別なことはできていませんが、現状の課題に向き合い、職員全員で取り組めたことは大きな前進でした。

また、理念の理解を深めるための「神戸聖隷ハンドブックを用いた分かち合い」では、毎月テーマを決めてハンドブックを輪読し、輪読した箇所を意識した支援を行い、実践した中での気づき等をアンケートにて振り返りました。その結果を共有することで、理念や行動規範に対してお互いが感じていることを分かち合うことができました。

そして、昨年度初めて受け入れを行ったトライやるウィークですが、新たに1校から依頼があり、3校4名の受け入れを行いました。少しずつですが地域との繋がりを感じています。

日中活動では、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた上で、2年間中止になっていた外出活動を再開しました。春はイオンモール神戸南、秋はマリンピア神戸と近隣ではありましたが、参加された皆様に笑顔が溢れ、心待ちにされていたのが伝わってきました。今後も感染対策に細心の注意を払いつつ、ご利用者に喜ばれる活動を提供していきたいと思えます。

第4期中期計画で取り組んだ3年間の成果を活かして、次年度からの第5期中期計画も職員が一つの方向を向きながら、利用者・家族の心の拠り所となる事業所を目指していきます。

## 1. 事業概要

開設年月日：1996年5月1日

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	25名	身体・知的障害者	2006年10月1日
老人デイサービスセンター(第2種)	共生型通所介護		要介護高齢者 障害者	2018年9月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	15名	身体・知的障害者	2006年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	重心・生活介護	20名	重症心身障害者	2012年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	短期入所	6名	身体・知的障害者	2016年4月1日
公益事業	日中一時支援		身体・知的障害者	2018年10月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
理念研修の実施	外部講師を招いた研修	①外部講師を招いての研修実施(年2回)	ア) 神戸愛生伝道所竹内牧師に講師依頼(4月) イ) 第1回基本理念研修(5月) ウ) 第2回基本理念研修(11月) エ) 振り返りアンケート実施(6月、11月)	◎
職員のリードによる法人基本理念、ひょうごデイサービス基本方針の唱和	職員のリードにより週1回法人基本理念、ひょうごデイサービス基本方針唱和	①法人基本理念及びひょうごデイサービスセンター基本方針を毎週月曜日の朝礼で輪読 ②夜勤専任者会議での輪読	① ア) 毎週月曜日朝礼にて唱和 イ) 基本理念と基本方針の理解についてのアンケート実施(9月、11月) ② ア) 夜勤専任者会議にて基本理念とアクシスひょうご基本方針を唱和	◎
神戸聖隷ハンドブックを用いた分かち合い	神戸聖隷ハンドブック輪読と分かち合い	①神戸聖隷ハンドブックの輪読と分かち合い(年10回、セッションごと2か月/回)	ア) 毎月各セッションにて輪読 イ) 輪読した内容を意識した支援を各々で実施(毎月) ウ) 実施した支援についてアンケート実施(毎月) エ) 取り組みについての振り返りアンケート実施(9月、2月) オ) 担当者にて振り返り実施(3月)	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
接遇ハンドブックを用いた勉強会	接遇ハンドブックを用いた勉強会	①接遇ハンドブック等を用いた勉強会（年3回） ②振り返りアンケート実施	① ア)接遇アップキャンペーンに合わせて接遇ハンドブック読み合わせを実施(5月、10月、2月) ② ア)振り返りアンケート実施(8月、10月)	○

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
職員の知識と技術の向上	外部研修への参加	①外部研修参加(年12回)	ア)外部研修 4名参加(法人研修除く) てんかん基礎講座:1名 サビ管更新研修:3名	△
	内部研修の実施	①内部研修(年4回) ②外部研修受講者による報告会	① ア)第1回内部研修実施(6月) 「新着職員研修」 イ)第2回内部研修実施(9月) 「身体拘束の適正化について」 ウ)第3回内部研修実施(1月) 「身体介護」 エ)第4回内部研修実施出来ず ② ア)外部研修への参加が少なかったため未開催	△
身体的・精神的負担の軽減	エルダー制度の確立・運用	①継続した運用、見直し	ア)「エルダー指導記録」の記載事項及び内容について検討(5月～9月) イ)「エルダー指導記録」の記載内容を入れた記入例作成	△
	介護福祉機器等の運用・検討	①導入済み福祉機器の有効的な活用方法を検討・試行	ア)新着職員向けに装着型介護ロボットの講習会を実施(7月) イ)各セクションにて介護ロボットの装着を実施(8月～3月)	△
	職員の不安の把握、対応策の検討、実施	①職員の不安の把握継続 ②職員アンケートの結果に基づき対応策検討	① ア)意見箱を継続して設置 イ)意見箱に投書1件 ② ア)1月にアンケート実施	◎

(3) QOL の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの作成・更新と有効的な活用	エルダー制度と連携したマニュアルの活用	①マニュアルの活用方法の検討 ②携帯用共通マニュアルの作成・配布	① ア) 配布マニュアルの大きさや活用方法を検討 ② ア) 携帯用共通マニュアルを配布	△
	支援の標準化を目指したマニュアルの活用、見直し	①マニュアルの更新 ②活用方法の見直し	① ア) 食事・排泄マニュアル更新(6月) イ) 入浴・服薬介助マニュアル更新(7月) ウ) 移乗介助・記録マニュアル更新(8月) エ) 日常業務マニュアル更新(9月) オ) 福祉機器マニュアル更新(10月) カ) ボランティアの受け入れについて・所在不明時の対応マニュアル更新(11月) ② ア) 次年度以降の取り組みについての検討および、次年度担当者への引継ぎ実施(3月)	○
医務機能の維持・強化	医務ミーティングの開催	①医務ミーティングの定期開催(月1回)	ア) 毎月1回開催	◎
	ひょうごデイ全体での協働体制の確立	①協働体制の準備・試行	ア) 今年着任の看護師が所属セクションの看護業務を習得(5~8月) イ) 上半期の振り返りおよび下半期の見通しを検討(9月) ウ) フォロー業務習得へ向けたレクチャーを実施(10月、11月) エ) 協働体制の構築へ向けた、看護業務一覧表を作成(1月、2月) オ) 協働体制の振り返り及び次年度の体制を確認(3月)	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
利用者支援の再考	送迎・入浴等支援業務の見直し	①ひょうごデイ全体での相互協力体制の検討 ②事業所間の業務体験実習を実施	① ア) アンケートと集計を実施(10月～12月) 検討までは至らず ② ア) 事業所間での職員の業務(活動プログラム)体験実施(5～7月、9月実施)	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
日中活動利用を視野に入れたアクシスひょうごの計画的な受け入れ	ひょうごデイ、他事業所利用者の日中利用促進とそのため受け入れ調整	①将来を見据えての短期入所利用を推進 ②計画的な受け入れによる日中活動プラス利用促進	① ア) 日中事業所利用者への短期入所利用推進を継続 ② ア) 緊急時に備え計画的に日中利用を含めた短期入所の受入継続	○
利用率安定のための待機者確保	受け入れ可能になった時に備えた待機者確保、待機者のスポット利用のお誘い	①待機者リストの作成 ②関係機関との連携による新規利用者の発掘	① ア) 待機者リスト:1名(多機能生活介護) ② ア) 見学(生徒、保護者、教師) 神戸特別支援学校(5月)、友生支援学校(5月、6月)、盲学校(8月、10月) イ) 支援学校実習受け入れ 生活介護: 神戸特別支援学校1名(6月)、友生支援学校1名(9月) 就労継続支援B型: 1名(12月) インクルージョン: 友生支援学校3名(6月、9月、12月)、青陽須磨支援学校1名(6月、10月)	△
一日の受け入れ人数増のための事業所内整備	受け入れ可能人数増のための事業所内整備	①障害特性に合わせた快適な環境の整備	ア) 廊下奥のスペースを整備(5月) イ) レイアウト変更とキーボード設置(7月) ウ) 壁掛けテレビ設置(12月)	◎

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
コスト削減を含めた収支バランス健全化の全体での周知徹底	コスト削減	①昨年度実施した削減項目への取り組み継続 ②経費削減の意識を高める啓発活動の実施	① ア) 昨年度実施項目の確認及び今年度削減対象品目の決定 (5月) ② ア) 啓発ポスター、空調使用についての意見交換会実施(5月) イ) 啓発ポスター作成に至らず	△

(5) 地域の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域との交流からニーズを把握	交流プログラムの企画・作成・実施	①「トライやるウィーク」の受け入れ ②地域交流プログラムの検討及び作成	① ア) 須佐野中学校、兵庫中学校と打ち合わせ実施(8月) イ) 吉田中学校より新規依頼(7月) ウ) トライやるウィーク(11月) 3校4名参加 ② ア) ワークキャンプ、活動プログラム作成(7月) ※新型コロナウイルス感染拡大に伴いⅠ期・Ⅱ期共に中止	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
業務プロセスの見直しと構築	業務内容の洗い出し、業務分担の見直し	①アクセス入浴業務体制の確立 ②業務分担の見直し	① ア) 日中事業所との協働体制で実施 ②計画変更 ア) 個別支援計画研修実施 個別支援計画策定の意義(5月) アセスメントについて(6月) 個別支援計画について(7月) モニタリングについて(8月) 個別支援計画書作成：事例検討(1月) イ) 個別支援計画書、モニタリング表の様式見直し、改訂(8月、9月) ウ) 支援員情報交換会実施(6月、9月、10月、12月)	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
	パソコン共有データファイルの整理	①データファイルの整理 ②整理方法ルールの見直し・改訂	① ア) 共有フォルダのデータ整理 イ) データファイル一覧表作成 ② ア) 整理方法のルールの見直しを実施。(2月)	◎
	ICT 化等による環境の整備	①情報収集・導入品検討 ②ケア記録等の Excel 入力化	① ア) 今期は導入予定なし ② ア) 各部門の業務日誌 Excel 入力用書式を作成及び入力開始(5月～3月) イ) 各部門のケア記録 Excel 入力用書式の作成及び入力開始(9月～3月)	◎
有給休暇取得方法の見直し	有給休暇取得状況の把握と計画的取得	①希望有休アンケート実施(年度当初) ②アンケート結果を反映させた勤務シフト作成	① ア) 年度当初計画分を昨年度末にアンケート実施 ② ア) 取得状況をまとめ共有(6月) イ) 上半期取得状況表作成(9月) ウ) 未取得者の報告、取得促進(10月～12月) エ) 取得者の状況確認(1月～2月)	○
緊急ショート受け入れ体制の整備	緊急ショートステイ受け入れ体制の整備	①マニュアルの更新 ②年末年始緊急受け入れ体制の構築	① ア) 拠点センター連絡会参加(8月) マニュアルの更新、課題の整理 イ) 緊急受入 13 件延べ 53 日 ② ア) 「年末年始緊急受入マニュアル」改訂(11月) イ) 運営会議・アクシス会議にてマニュアルの共有 ウ) 待機シフト作成(12月)	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
夜間緊急時の対応の整備	通常夜間緊急時の対応整備	①マニュアルの更新 ②緊急時の課題抽出及び対応訓練の実施	① ア) マニュアルの更新 「個別マニュアル」更新、「緊急対応マニュアル」更新(10月) イ) 「緊急受入依頼の対応」についてフロー図を作成、マニュアルに追加(9月) ウ) 「利用者支援習熟状況確認表」マニュアル追加(10月) エ) 夜勤者業務マニュアル更新(12月) オ) 個別マニュアル・フェイスシート内容更新(2月、3月) ② ア) 課題抽出及び対応訓練実施内部研修にて対応方法を学習 5月：嘔吐処理(ガウンテクニック) 6月：「心肺蘇生、AED操作」	◎
	一人夜勤緊急時の対応整備	①マニュアルの更新 ②緊急時の課題抽出及び対応訓練の実施		

### 3. 出来た事案

(1) 特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸市立自立センターひょうご  
施設長 大森 陽子

神戸市立自立センターひょうごの基本方針

1. 利用者の人権を尊重し、『心の声』に耳を傾け、寄り添い、共に歩みます。
2. 利用者が地域の中でその人らしく暮らすことを支えるため、『福祉のプロ』集団として、個々の専門性を高め、チームワークによる質の高いサービス提供を目指します。
3. 地域の社会資源として、諸機関・諸団体と連携し、地域福祉の向上に努めます。

### 第4期中期計画のビジョン

利用者・家族の今日と明日を笑顔でぎゅっと包み込める自立センターとなります

2022年度の事業報告について

第4期中期計画の最終年度となる今年度は、3つの実行計画を重点目標に挙げていました。

1つ目は「職員の支援力の向上」で、ご利用者の高齢化・重度化に対応できるよう、安全で快適な介護技術の習得に努めました。移動支援については、昨年度に引き続き理学療法士による移動支援勉強会を実施しました。ビデオと実演を交えながら、具体的な支援方法を学ぶことができました。また、移動支援セルフチェックを定期的の実施し、自分自身の支援を振り返る機会としました。排泄支援については、プライバシーや感染症対策に配慮したトイレの環境整備と排泄支援マニュアルの見直しを行いました。マニュアルに沿った支援の実施については、課題が残っているため、今後も継続して取り組んでいきます。

2つ目は「ご利用者・ご家族の将来のイメージを明確にする」という実行計画です。昨年度に様式を完成させた自立センターひょうご版の「未来ノート」を製本して各家庭にお渡し、記入をお願いしました。3年後、10年後というように、各時点でのご利用者・ご家族の年齢、目標を記入するページがあり、段階を踏んで考えることで将来のイメージを明確にするきっかけとさせていただきました。モニタリング等のご家族との面談の場を通じて、職員も内容を確認・共有できたので、今後は同じ将来の目標に向かって支援を進めていきたいと思えます。自立センターでは、今年度4名のご利用者が施設やグループホームへの入所等により退所されるなど、次のステージを考える時期に差しかかっているご家庭も多い現状です。将来にわたってご利用者・ご家族が安心して生活できるように、今後も「未来ノート」を有効に活用していきます。

最後3つ目は「リスクマネジメントの意識向上」です。第4期計画を通じて力を入れてきた取り組みですが、今年度は年3回のリスクマネジメント研修を実施しました。研修では危険予知訓練の手法を用い、グループワーク形式でイラストや写真からリスクを予測することで、事故を未然に防ぐ視点を養いました。事故後の対策についての振り返りの実施など、これまでの取り組みが実を結び、年間の事故件数の減少という目標を2年連続で達成することができました。

「ご利用者・ご家族の今日と明日を笑顔でぎゅっと包み込める自立センターとなります」という第4期のビジョンの実現に向け、これらの計画に取り組んできました。2023年度から始まる第5期中期計画にも今期の成果と課題を引き継ぎ、さらなる発展に繋がられるよう取り組みを続けていきます。

1. 事業概要

開設年月日：1996年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	60名	知的障害者	2007年4月1日
老人デイサービスセンター（第2種）	共生型通所介護		要介護高齢者	2018年9月1日

2. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
基本理念の勉強会の実施	①基本理念勉強会の実施（年3回） ②勉強会ごとに振り返りシートの記入 ③講師との打合せ	① ア)第1回基本理念研修実施。テーマは「福祉」「人とのつながり」（4月） イ)第2回基本理念研修実施。テーマは「結束力」（9月） ウ)第3回基本理念研修実施。年間の総まとめ(2月) エ)当日参加できなかった職員向けにビデオ研修を実施。 ②参加職員への振り返りアンケートを実施。 ③吉川講師と前年度の振り返りと今年度のスケジュール、毎回の研修内容の打合せを実施。	◎
基本理念の各項目についてのディスカッション	①基本理念の各項目についてのディスカッションの実施（年2回） ②内部研修の実施	① ア)ディスカッションの内容について話し合い(4月) イ)第1回ディスカッションを実施し、個人目標とグループ目標を設定(4月) ウ)個人目標、グループ目標のポスターを作成・掲示(5月) エ)第2回ディスカッションを実施し、個人目標とグループ目標の振り返り(11月) ② ア)内部研修の内容についての検討(9月) イ)内部研修実施(10月)	◎
神戸聖隷ハンドブックの輪読	①毎週月曜日に輪読を実施	①毎週月曜日にハンドブックを輪読	◎

## (2) 人材育成・定着の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
自立センター標準マニュアルに沿った支援	① マニュアルの見直し、マニュアルに沿った支援の実施（排泄） ② 移動支援研修（応用編）の実施（年 2 回） ③ 移動支援セルフチェックシートの実施（年 2 回） ④ アセスメントの実施と個別マニュアルの作成 ⑤ プライバシーに配慮した環境整備	① ア) 移動支援マニュアル見直し(5月) イ) 排泄マニュアルの見直しと周知(3月) ② ア) PT と研修の打ち合わせ(8、9月) イ) 研修に向けてのアンケート実施(9月) ウ) PT による移動支援研修(応用編)の開催(9月) ③ 移動支援のセルフチェック実施、集計(6、10、2月) ④ 4名の個別マニュアル(移動)の作成(5、6、2月) ⑤ プライバシーの観点から、多目的トイレ(男女)の扉をカーテンからスライドドアに改修(4月)	◎
新着職員の育成と定着	① エルダー制度の継続 ② エルダー会議の開催（年 4 回） ③ リニューアルした内容での新着職員研修の実施	① 新着職員 2 名のエルダーの選定(4月) ② エルダー会議の開催(5、7、9、11、1月) ③ 対象者 7 名に新着職員研修の実施(6、8、9、1、2、3月)	○
事例検討会の開催	① 事例検討会の開催（年 2 回） ② 事例作成、支援経過の報告と共有	① ア) 第 1 回事例検討会開催(8月) イ) 第 2 回事例検討会開催(10月) ② ア) 第 1 回事例検討会の内容検討と事例作成(5～7月) イ) 第 2 回事例検討会の内容検討と事例作成(9月)	○
外部研修受講の共有	① 研修受講後、朝礼での研修概要報告（全研修対象） ② 職員会議での研修報告（ピックアップした研修対象）	① ア) 外部研修を 25 名が受講。 イ) 研修受講後、朝礼で研修概要報告。 ② ピックアップした研修の報告を 10 名が実施。	○

## (3) QOLの視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
日中活動の充実(満足感のあるサービスを提供する)	①ご利用者のニーズに合った日中活動の定着	① ア)各グループで新しい活動の実施(グラウンドでの活動、椅子座りダンス、ゲーム大会、音楽活動、創作活動、バスケットボール) イ)定着への取り組みとして、週に1回、新しい活動を実施。	◎
利用者・家族の将来のイメージを明確にする	①「未来ノート」について職員間での共有 ②「未来ノート」を各家庭に配布し記入を依頼 ③年2回のモニタリングを通じ、「未来ノート」を確認し、完成	①職員会議、各グループミーティングで説明・共有 ② ア)各家庭に配付及び記入依頼(8月) イ)回収及び必要な項目ページの印刷(9月) ③10月より2回目のモニタリングを通じ、家族と内容の確認。	◎
虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会の実施	①虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会の実施(年2回)	① ア)勉強会の打合せと事例作成(5、11、12月) イ)研修担当4名で、虐待・不適切ケア評価表に基づく第1回勉強会を実施(6月) ウ)職員全体で第2回勉強会を実施(12月)	○

## (4) 経営強化の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
新規利用者の獲得	①各グループの月別利用率の共有と課題の分析 ②新規利用者受け入れのための方策の検討 ③見学・体験実習の積極的な受け入れ ④ホームページを通じた空き情報等の情報発信	①新規利用者の受け入れに向けた現状把握のため、グループごとの出席率を毎月の職制会議・職員会議で共有。 ②上期に受け入れを断った方を別のグループで再度体験実習を受け入れ、次年度の受け入れに向けて検討。 ③盲学校、支援学校等の家族、教員の見学を5件受け入れ(7、8、11、12月)。3名の体験実習を受け入れ(9、3月)。他1名の実習を予定していたが、先方の都合により中止。 ④ ア)ホームページ更新(5月:春の外出活動とランチ会、8月:よつば寄席、11月:秋の日帰り外出)	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
		イ) 毎月の空き情報を発信	
祝日も含めた魅力ある活動の提供	①年間プログラムの策定と実施	① ア) 年間プログラムの策定(4月) イ) 祝日プログラムのポスターをご利用者と共に作成し、施設内に掲示 ウ) 祝日プログラムの実施(映画祭り、コンサート、夏祭り、ミニオリンピック、おばけやしき、思い出館スライドショー、新春ゲーム大会、豆まき大会、おはなし会)	◎
大規模改修に向けた神戸市へのアプローチ	①神戸市との協議 ②トイレの改修(プライバシーに配慮した改修)	①神戸市からの見学来所時に大規模改修の必要性を伝達。 ② ア) 多目的トイレ(男女)の改修(カーテンからスライドドアに交換) イ) 男性トイレの便器の交換(タンクレストイレ)	○
・活動スペースの見直し・整備 ・施設内美化活動	①活動スペースの見直し・整備 ②施設内美化活動の実施(年4回)	① ア) 作業室のレイアウト変更、各グループの活動スペースの整備(6、3月) イ) グランドの日除け交換、相談室の壁紙貼替・腰板取付工事、作業室の壁の穴補修 ② ア) 施設内美化活動で普段できない箇所の整理、清掃等を実施(6月:加湿器清掃、9月:扇風機清掃、12月:更衣室清掃、3月:作業室のレイアウトと事務所整理) イ) 洗濯槽洗浄(月1回)	◎

(5) 地域の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
よつば寄席の開催	①よつば寄席の開催(年1回:7月) ②感染対策を徹底した開催	① ア) よつば寄席開催。地域の方30名が参加。(7月) イ) チラシ作成(6月)、チラシ配布(7月) ② ア) 事前に検討した感染対策を徹底して開催。 イ) 寄席と共に行うイベントの検討。コロナ禍のため、検討のみ。	◎

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域清掃の実施	①月 1 回の地域清掃の実施 ②施設名等の印字入りビブス着用での清掃	①地域清掃実施(4、5、6、9、10、11、3月) ※7、8、12、1、2月は猛暑と寒冷期の為実施休止。 ②神戸マツダスタッフとビブス着用で地域清掃を実施。 ③神戸マツダへ感謝状贈呈(3月)	◎

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
有給休暇の取得促進計画の策定	①有給休暇取得促進計画の策定・実施	① ア)月の祝日回数に応じて希望休を調整し、有給休暇取得を促進。 イ)誕生日有給休暇の取得希望調査。 ウ)毎月の有給休暇の取得実績を入力し実績を可視化。 エ)年間の有給休暇取得率は 74.3%。	○
業務改善の取り組み	①業務改善の取り組み	① ア)朝礼終礼ノート、医務日誌の記入範囲、共有方法の検討、決定(5、6月) イ)事務時間確保の取り組み内容を検討、全体に共有(7、8月) ウ)事務時間確保の取り組みを試行(8～9月) エ)事務用品注文方法の周知について検討。職員への説明の実施(10～12月) オ)利用者出席状況表の見直し。1 か月間試用し、再度見直して本格運用(1～3月)	○
ワークライフバランスの取り組み	①ワークライフバランスの取り組みの実施	① ア)ワークライフバランスの取り組み内容検討(8、9月) イ)ワークライフバランスの取り組みとして、時間外で行っている業務内容の実態調査を実施(9月～) ウ)7名に残業内容確認表配布。回収して集計・分析を行い、職制で共有(10～12月)	△
事故・ヒヤリハットの検証と再発防止システム	①事故・ヒヤリハットマニュアルの見直しとマニュアルに沿った実施。 ②再発防止システムの	① ア)検討の結果、マニュアルは現行のものを使用(8月) ② ア)事故・ヒヤリハット報告の月次状況の共	◎

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
の確立	<p>確立</p> <p>②ヒヤリハット報告件数の増加に向けた取り組み</p>	<p>有(5～3月)</p> <p>イ)事故報告振り返り日の記入用のボードを設置(9月)</p> <p>ロ)事故報告件数減少とヒヤリハット件数増加</p> <p>事故件数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度 124件、2021年度 97件</li> <li>2022年度 84件</li> </ul> <p>ヒヤリハット件数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度 59件、2021年度 70件</li> <li>2022年度 74件</li> </ul>	
リスクマネジメントの意識向上	<p>①リスクマネジメント研修(事例検討会)の実施(年3回:6、10、2月)</p> <p>②外部のリスクマネジメント研修への参加</p>	<p>①リスクマネジメント研修実施(10月:事故防止対策事例検討会、12、1月:危険予知訓練の手法を用いた事例検討会)</p> <p>②外部のリスクマネジメント研修に参加(11月)</p>	◎

3. 出来た事案  
特にありません。

以上

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 ワークセンターわかまつ

施設長 岩本 康則

ワークセンターわかまつの基本方針

1. 法人の基本理念に基づき、ご利用者のニーズに即した支援を行います。
2. 個別支援計画に基づき、人権を尊重し支援を行います。
3. 就労継続支援施設として、働く喜び、社会人としての役割などを伝えていきます。
4. “人間力づくり” “こころづくり” “ものづくり” ができるよう支援します。

### 第4期中期計画のビジョン

地域にじわっと浸透する

作業内容が充実する

2022 年度の事業報告について

4 月に神戸市と法人間で賃貸借契約を結び、今年度から賃料が発生することになりました。これまで以上に財政面で厳しい状況の中、出来る限りの新型コロナウイルスの感染防止対策をおこなってきましたが、7 月後半に集団感染（クラスター）が発生し約 1 週間（実質 4 日間）の休業を余儀なくされました。ご利用者、ご家族には大変ご迷惑をおかけしました。途中ご利用者、ご家族が感染し、自宅まで水や食料を運ぶ支援も実施するなど職員は懸命に頑張ってくれました。わかまつ再開後もしばらくはご利用を自粛される方もおられましたが、8 月半ばにようやく回復しました。4 回目のワクチン接種についても推奨しながらご家族の付き添い等が困難な場合は、職員が予約から接種会場まで同行する支援も行ないました。落ち込んだ出勤率をカバーするためにご利用者・ご家族に協力を得ながら祝日開所も積極的に行ない、年間 277 日を営業し、利用率の回復に努めました。

まつぼっくり（カフェ）は通常営業を維持しながら第 1 土曜日を営業しました。大正筋商店街での大きなイベントはありませんでしたが、神戸市プレミアム付電子商品券 Ko-Pay にも店舗申請し、参加することが出来ました。また、認知症カフェは毎月定期的に開催し、参加者も徐々に増えてきています。認知症サポーター養成講座も今年度は新たに 2 名受講しました。

ベーカリー部門では、原材料費の高騰に伴い 4 月から焼き菓子の価格を引き上げましたが、引き続き神戸地区の各施設、事業所にご協力いただき注文販売を行いました。そしてコロナ禍で様々な販売イベントは縮小される中、紙製品も加えた自主生産品を自立支援協議会と連携して長田区では区役所での販売（長田にこここマルシェ「スイミー」）、須磨区ではコープでの店頭販売（コープすまるとしえ）など販路を広げ、売り上げ増につながりました。下請作業は新たな会社と取引を開始したことで途切れなく作業を提供できるようになりました。

理念研修として吉田常務の講話をお聞きし、先人の思いを伝えてもらうことで全職員が貴重な時間を持つことができました。また、地域貢献部会と連動して自然災害と新型コロナ感染症の BCP の策定に着手しました。特に今回の集団感染の発生の経験を活かし、より良いものにしていきたいと思っております。今年度で第 4 期中期計画は終了しますが、次年度以降新たなビジョン達成に向けて取り組んでいきたいと思っております。

1. 事業概要

開設年月日：2004年10月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	40名	知的障害者

2. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
キリスト教福祉を学ぶ機会の設定（理念理解定着部会との連動）	①理念研修の実施 理念研修の開催 神戸聖隷ハンドブックの輪読 ②理念部会との連動 キリスト教福祉基礎研修受講 他法人研修への参加	① ア) 吉田常務を招いて理念研修を実施（6月） ② ア) キリスト教福祉基礎研修への参加（10, 11月） イ) 他法人研修は中止	○

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
実習の積極的受け入れ	①保育実習、介護等体験実習、福祉体験学習、社会福祉士実習等の積極的受け入れ（随時）	① ア) 神戸常盤短期大学保育実習（5, 6, 2, 3月） イ) 神戸女子大学相談援助実習前期（6, 10月） ウ) 兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科（7月） エ) ワークキャンプを受入予定中止（8月）	○
内部研修の実施や外部研修への参加	①内部研修の実施 講師に依頼し内部研修の実施 事例検討会の実施	① ア) 新任職員に対し内部研修実施（6, 8月） イ) 虐待防止事例検討会実施（10月） 振り返り学習会（1月） ウ) 苦情解決のプロセスについては虐待防止研修の一環として確認（10月） エ) 総合職員研修（3月）	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
	苦情解決に向けてのプロセス ②外部研修への参加 市民福祉大学等の受講	② ア) 障がい福祉施設新任職員研修 [Web] (7 月) 新任職員研修 (11 月) イ) 兵庫 DWAT 基礎研修 [Web] (7 月) ウ) 発達障害者仕事サポーター養成講座、育児休業取得促進に向けた研修 (11 月) エ) 苦情解決セミナー (11 月) オ) 法人業務種別研修 (12, 2 月)	

(3) QOLの視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
安定した作業支援の提供	①目標工賃支払額 5,000 千円／年 (利用者 39 名) 神戸地区施設・事業所への注文販売の継続 下請作業内容(企業)の検討、移行 製菓商品のグレードアップ	ア) 工賃支払額 5,090 千円 平均 11,019 円／月 (39 名) イ) 神戸地区事業所注文販売 神戸聖生園 (5, 9, 10, 2 月) やさかだ い (6, 3 月) 友が丘地区 (4, 11 月) キ ャナル地区 (8, 1 月) 神戸光生園 (7 月) ウ) まつぼっくり土曜営業 (毎月第 1 土曜) エ) 新規作業受注 [アヴェール] (5 月～) オ) 障害者工賃向上アドバイザー等 派遣事業未実施 カ) 販売活動 (はっぴねすコーナー, コープすまるしえ, すまるしえ, ぬ くもりマルシェ, はあ〜とふるふ あんどフェスタ, にこにこマルシ エ) キ) 自主生産: 献金袋等(クリスマス, イースター), 海図紙袋, 海図製品, ちょこっと袋, ガーゼハンカチ	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
生活ニーズ支援、社会参加支援の提供	①ご利用者との面談(2回/年)実施 モニタリングの確実な実施。 再アセスメントの実施(継続) ご利用者・ご家族の高齢化への対応(取り組み)の継続	ア)モニタリング順次実施(8,9,2,3月) イ)ご利用者・ご家族のサポートを継続実施。関係機関と連携し調整会議、つなぎ支援を随時実施 ウ)利用者自治会にて満足度調査実施(12月)	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
修繕工事の実施	①工事内容の検討 照明機器のLED化に向け、わかまつ内の電気設備の確認 神戸市との連絡・調整	ア)作業場ファンコイル故障により随時神戸市等との協議実施[次年度に神戸市負担の工事決定) イ)神戸市への調整、電気設備の確認等は未着手。次年度に実施予定。	△
年間営業日と利用率の管理	①訓練等給付費の月毎管理、販売等による休日稼働の実施 利用者自治会の隔月実施、社会活動毎月実施	ア)営業日数277日/年 イ)訓練等給付費の管理(毎月) ウ)祝日稼働の実施 (4,8,9,10,11,2,3月) エ)利用者自治会の実施(偶数月) オ)社会活動[健康診断含む]の実施(毎月第4土曜日)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
大正筋商店街が企画するイベントに積極的に参加	①随時、企画に参加 大正筋商店街、株式会社くにつか等の企画イベント	ア)「神戸まつり」代替イベント「KOBE元気まつり2022」参加(5月) イ)こうべ商店街・小売市場お買物券(こうべでこうて)参加(7~10月) ウ)大正筋夏祭り当日にまつぼっくり営業(8月) エ)Ko-Payの「まつぼっくり」での店舗申請、参加(11,12,1,2月) オ)大正筋商店街総会出席(2月)	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
イベントの企画・開催（部会との連携）	①認知症カフェの実施 参加者増に向けての取り組み 「認知症サポーター養成講座」への複数名受講	ア) 認知症カフェ実施(毎月第1金曜日) イ) こうべオレンジカフェ連絡会出席(9月) ウ) 「認知症サポーター養成講座」2名受講(1月)	◎
ホームページの定期更新(イベント企画時の広報活動)	①ホームページの定期更新 まつぼっくりのHPの更新(認知症カフェのアピール)	ア) ホームページの随時更新 イ) わかまつ通信第16～18号発行(8, 12, 3月) ウ) 法人 Facebook にまつぼっくり(認知症カフェ)投稿(9, 12月)	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
大災害発生時の対応準備	①マニュアルの更新 ②BCP(事業継続計画)の作成に向けた取り組み	① ア) マニュアル更新(10月) イ) 避難訓練実施 (火災:6月、地震:3月) ② ア) 自然災害編、新型コロナウイルス感染症編を地域貢献部会と連動して作成(9月)	◎
防犯対策の整備	①防犯対策学習会の実施(1回/年)	① ア) 今年度未実施	×
有給消化率のUP(取得率50%以下の職員)	①2021年度取得日数より1日増(取得率50%以下の職員)	ア) 有給5日取得に向け時期指定実施(9, 10, 11月) イ) 前年度有休取得率50%以下の職員の取得率は、対象者全体での前年度比では8.3%増。但し、前年度50%以上取得していた職員が40%台に下がるなど引き続き有給休暇取得推進の働きかけが必要。	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
ノー残業デーの週 2 回実施	①ノー残業デーの週 2 回の取得に向けた取り組み 確実に毎週水曜日の取得をめざす 各職員に水曜日+1 日(曜日)を決めてもらい取得する	ア) 各職員にノー残業デー（水曜日)+1 日(曜日)の設定（5 月） イ) 新型コロナによる休業、職員減により未実施	△

### 3. 出来した事案

#### (1) 新型コロナウイルス感染症集団感染の発生について

7 月に新型コロナウイルス感染症が拡大する中、わかまつでも 7 月 11 日に陽性が確認され、その後急激に増えたため 7 月 13 日～19 日まで（実質 4 日間）休業しました。最終的にはご利用者 12 名、職員 3 名（みなし陽性含む）が罹患しました。この間、ご利用者・ご家族が共に罹患し、他のサービスや支援を受けることができない状況になった方もおり、職員が水や食料を届けるなどの支援を行ない何とか乗り切った事案もありました。また、作業においても休業中は下請作業の納期に間に合わせるよう職員は尽力してくれました。

また、1 月に数名の陽性確認がされましたが、拡大することなく家族感染内で終息し、大事に至る事はありませんでした。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 せいれいやさかだい  
施設長 岩井 誠一

### せいれいやさかだいの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援・サービスを提供します。
2. 小集団において一人ひとりが主体性を発揮し、自己表現できる集団作りを目指します。
3. 企業内事業所として与えられた仕事に責任を持って取り組み、社会参加の喜びを提供します。
4. 生活介護事業(友が丘事業所)のプログラムのオープン活用と、地域に開かれたサービス提供を目指します。
5. 親なきあとの安心、安全な生活実現を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「利用者の生きがい・やりがい・働きの叶える支援と居場所づくりを」を目指します。

### 2022 年度の事業報告について

下半期は、新型コロナウイルスに感染した方が、10月(1名)・11月(1名)・1月(5名)・2月(5名)出たことにより、一時的に事業所を閉鎖するなどの対応が生じました。幸いにして、3事業所全てを閉じるような事態には至りませんでした。濃厚接触者の可能性を考慮し健康観察のため数日間の自宅待機を要請したことで、事業運営・収入に多少なりともダメージを負う結果となりました。法人内グループホーム側にも濃厚接触疑い・健康観察による待機要請によって負担が生じました。

また、新規利用者の獲得・定員数の確保にむけ、関係機関への働き掛けを継続してきましたが、残念ながら一人の獲得に留まりました。他法人・他事業所をご利用されている2名の利用者については、やさかだいの利用日数が減少となりました。7月の就労継続支援B型1名の退所に続き、12月には生活介護の利用者1名が、当初の予定より早く神戸愛生園へサービス移行されたことで収入減となり、当初予算との差異が更に拡大する結果となりました。

友が丘事業所を中心とした地域活動への参加も、コロナ禍の影響もあって計画していた行事や活動を中止・参加を見合わせたため、積極的な地域との関係づくりには至りませんでした。コロナ禍で地域住民との交流が減少したことで、地域とのふれあいや住民の皆さんとの関係がやや希薄となってしまったことは否めません。高齢化する地域にある事業所として出来ることを見つけ、新たな関係の構築を図って行きます。

3月に入り、シミズ・林タオルからの作業受注が増えています。次年度は安定した作業量が得られそうな見込みです。また、作業適応が難しい利用者への提供作業として、新規軽作業(封入作業・箱折り)を受託することが出来ました。楽しみの一環、新たなせいれいやさかだいの魅力として、農福連携作業(玉ねぎ収穫)、じゃがいも・さつま芋の定植を計画し実施しました。さつま芋の定植作業は、神戸聖生園と一緒に取り組み、事業所の付加価値向上を目指しました。

現在ご利用の利用者への寄り添った支援・丁寧な対応を大切に、引き続きせいれいやさかだいの活動に生きがいを感じ、ご利用していただけるよう努力して行きます。

1. 事業概要

開設年月日：1991年4月1日

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	15名	知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	15名	知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	10名	知的障害者	2012年11月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
キリスト教福祉に触れて考える機会を持つ	(1)利用者家族の悩みに積極的な支援を実施	① 利用者及びご家庭の悩みに対し、積極的支援の提供 ② 提供状況について見直しと共有	① ア) 就労B利用者の3事業所合同ケア会議実施(7月) イ) 生活介護利用者家族と移行について話し合い実施(6月) ③ ア) 上記アの件について後見人と協議し単独送迎を実施。(8~9月) イ) 通常送迎に戻し、支援内容を検討。(10~11月) ウ) 後見人との協議し就労Bから生活介護で支援を実施。(3月)	○
	(2) 学習会・施設見学を通し、キリスト教福祉に触れる機会を確保	① 法人内事業所見学の実施(臨時職員全員対象) ② キリスト教基礎研修参加 ③ 事業所において法人理念やキリスト講座の実施(1回/年)	① コロナ禍により未実施 ② 参加者なく未達成 ③ 5月、竹内牧師を講師に迎えキリスト的視点から過去の支援を振り返る研修を開催	△

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
ハンドブック（理念・接遇）の更なる活用	（1）唱和・読み合わせに留まらず働きを考える学びの実施	① 理念の唱和 （毎月曜日） ② 接遇のしおり、ハンドブックの読み合わせの実施（毎日朝礼時、職員会議） ③ 理念、接遇についての研修実施 ④ 研修の見直し	① 毎週月曜日に基本理念の唱和を実施 ② 朝礼時に接遇のしおり読み合わせを実施 ③ 研修は未実施 ④ 研修の見直しを職制で実施	○

(2) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
福祉専門職としてのスキル（知識・支援力）向上	1) 職員個々のスキルに応じた研修計画立案と自己研鑽の推進（介護技術・就労・地域生活・資格等）	① 研修計画の立案と調整 ・階級、スキルに応じた研修への参加及び調整 ・研修機会に応じて参加 ② 市民福祉大学等の研修案内の情報提供と受講推進（通年）	① ア) 主任副主任研修に参加（7/4） イ) 上級一般職研修1名参加 ウ) ハラスメント研修参加（7/22） エ) 財務管理学習会参加（7/13） オ) 障害者虐待対応力研修参加（1/19） カ) 他業種交流研修1名参加 ② 研修情報は随時回覧・ミーティングで提供	○
	（2）障害理解と専門的支援の実践（ABA、認知症サポーター研修会の内部研修）	① 上野中学教諭の協力のもと障害理解に必要な研修継続2回/年（8月、10月） ② 認知症サポーター研修の開催（2回/年） ③ 研修内容の見直し ④ 研修受講者による情報共有、支援報告の実施	① ABA研修は未実施 ② 認知症サポーター研修を全職員が受講（6/9、19） ③ 研修内容見直しを職制で実施 ④ 終礼、職員会議にて研修の報告会を実施	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
	3) 研修報告会の実施	① 研修受講者による研修内容の報告 ・職員会議にて実施 ② 各研修実施後の効果検証 ・研修後のアンケートの実施	① ア) 終礼にてコメント発表 イ) 職員会議にて報告会を実施 ② ア) 認知症サポーター研修は講師にコメント提出 イ) 研修効果の検証未実施	△
職員の課題解決能力の向上	(1) 課題解決に向けた定期的な進捗管理と支援振返りの実施	① 一般職以上には考課課題の進捗を含む面接実施 (2 回/年 6 月、12 月) ② 臨時、パート職は仕事についての聞き取り等実施 (2 回/年 6 月、12 月) ③ 課題に対する支援の振返りを会議にて実施 (随時)	① 一般職員に考課課題の面接実施 (3 月) ② パート職員の聞き取り実施 (7.8 月、12~3 月) 臨時職員に聞き取りを実施 (12~3 月) ③ 振返りの話し合いを実施 (就労 B. K 氏) (9 月. 12~3 月)	△
	(2) 事業所間の課題理解と支援交流	① 3 事業所間の利用者・職員の交流活動の検討と実施 (毎月/職員会議) ② 各事業所の課題について報告と検討 (毎月/職員会議) ③ 活動内容の見直し	① ア) 3 事業所合同の土曜活動を実施 イ) 職員会議内、終礼 zoom ミーティングで情報交換を継続 ② ア) 職員会議内で現状報告 イ) 終礼 Zoom で直近の状況報告を実施 ③ 企業閑散期に他企業より受託作業を獲得 ア) 折込みチラシ (11 月~) イ) 箱の組み立て (2 月~) ウ) 封入作業 (2 月~)	△

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
	(3) 支援力に不安を持つ者・実習生らへのより丁寧な支援の実施	① 支援員の抱える課題に積極的なアプローチの実施（グループミーティング、支援会議、ケア会議：随時） ② 実習生の実習課題に丁寧な支援、働きかけ（随時） ③ アプローチの見直しと情報共有、実施（手順書の作成等）	① ア) 就労 B、K 氏の課題について職員会議等で報告（7月） イ) 事業所移行について検討、実施（2月） ウ) 事業所移行を試行（3月） ② 9/1～9/30 神戸女子短期大学保育実習、各事業所で実習生とミーティング実施 ③ ア) 運転マニュアルの改訂 イ) 個別支援マニュアル改定を検討（9月） ウ) 個別支援マニュアル改訂（10月）	○

(3) QOLの視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
作業・生活・活動環境の改善	(1) 各事業所の利便性の向上	① 改善等の執行状況確認(2回/年 4月、9月) ・シミズ事業所：各部屋の照明、トイレの快適性を追求 ・林タオル事業所：作業効率・衛生面を重視した動線の確認 ・友が丘事業所：高齢、重度化対策と備品整備 ② 各事業所の改修改善ニーズの収集、試算と検討による提案を状況に応じて実施	① ア) シミズ事業所、照明の改装未実施 イ) トイレ、変更なし ウ) 友が丘事業所重度化、高齢化対策未実施 ② ア) アルコールチェッカーを購入し導入(5月) イ) パルスオキシメーターの追加購入 ウ) 友が丘事業所、カーテン購入未実施、セキスイハウス5年点検実施 エ) 各種電気機器、屋外清掃用品購入	△

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
	(2) 社会を意識した活動提供	① 自治会運営内容の見直し(2回/年) ② 自治会運営方法について利用者、職員間で共有 ③ 総会の実施(1回/年) ④ 定例会の実施(1回/2ヶ月) ⑤ 生活を送る上で必要となる学びの会の実施(2回/年)	① ア) 4/23 運営規定の確認 イ) 5/14 土曜活動の確認 ウ) 7/23 日帰り旅行、クリスマス会の日程と場所の検討 ② 4/23 利用者自治会総会内で話す ③ 4/23 総会実施 ④ 定例会実施(4/23、5/14、7/23、11/14、1/28 実施) ⑤ 防災学習会実施(1/14)	○
高工賃獲得を目指す新たな取り組みの検討	(1) 事業所外ワーク(作業)の確保	① 法人敷地内(友が丘1丁目)清掃の実施(毎月) ② 農家支援の実施(1回/年 5月末~6月 淡路:玉ねぎ作業) ③ 事業所近隣農家訪問(通年) ④ 事業所近隣企業訪問(通年) ⑤ 農福連携を行っている事業所見学、及び関係者からの情報収集(随時)	① 定期的実施 ② 5月~6月、淡路島玉ねぎ収穫作業実施 ③ 近隣農家訪問未実施 ④ 事業所近隣企業訪問実施(12、1、2、3月) ⑤ 農福連携実施事業所訪問未実施、見学・研修機会を伺うがタイミング会わず	△
8050への対応	(1) 独居者・高齢化家族の成年後見制度活用希望者への支援	① 制度利用、及び活用の促進 ・成年後見制度に関する用紙の配付(2回/年 7月、11月) ・家族会のニーズに応じた研修会の実施	① ア) 家族会で「みまもり通信」を配布、内容説明 イ) 職員会議で活用推進会議の内容説明とケース説明 ウ) 家族会から出前トーク依頼(9月) エ) 神戸市成年後見支援センター出前トーク実施(10月)	△

## (4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
活動拠点	(1) 3 事業所活動拠点の継続	① 3 事業所の関係者（企業、自治会）との関係維持 ② 物件情報等収集を継続	① ア) 年度初め挨拶実施（2 企業, 1 自治会, 4 月） イ) 夏の挨拶実施（2 企業, 1 自治会, 7 月） ウ) 年末年始挨拶（4 企業, 1 自治会） ② 情報収集は未実施	△
活動拠点の堅持と関係づくり	(2) 企業、近隣との関係づくり	① 各事業所における関係企業、自治会関係人物への訪問（1 回/月） ・林タオル販売 ・(株)シミズ ・北須磨団地自治会 ・北須磨児童館 ・竜が台 7 丁目自治会 ② 関係者からの要望（クレーム含む）に迅速に対応	① 各企業は担当者とその都度話し合いを実施、企業役職者とは季節の節目に挨拶実施 ア) 北須磨団地自治会はその都度訪問。自治会イベントにも参加する（清掃等） イ) 児童館は月 1 回訪問し、次亜水を配達 ② 早急の要件なし	○
企業内事業所内であるデメリットからの脱却	(1) 高額工賃支給による給付費収入増を目指す	① 外部作業の試験的取組を繰り返し検討 6 月：淡路島玉ねぎ作業 9 月：事業所近隣からの受注作業 ② 作業実施による収入と工賃配分金額の検証（6 月・10 月・2 月）	① ア) 淡路島玉ねぎ作業実施 イ) 事業所近隣企業からの受託作業獲得（1 月～） ② 工賃配分金額の検証は未実施	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
魅力ある事業所づくり	(1) 作業及び活動の取り組み状況を可視化し、利用者に達成感を提供	① 月々の売り上げを視覚化する ・工賃をグラフ化して作業室に掲示 (1回/月 更新) ② 年間予定と月予定の活動内容を確認 ・画像等で内容を保存し、掲示	① ア) グラフ化未実施 イ) 工賃・作業の取り組み状況等の説明は終礼でその都度各事業所職員に報告実施 ② ア) 年間予定掲示は未実施 イ) 月予定は掲示 ウ) 各事業所でイベントの画像を掲示	△
	(2) 事業所の魅力をアピール	① ミニ広報誌<友が丘 掲示用>編集と発行 (年間6回偶数月) ② 広報誌の発行<外部用> (年間2回) ③ Facebook・Instagramの更新 (年間6回)	① ミニ広報誌発行は未実施 ② 広報誌の発行(1回、3月) ③ Facebook、Instagramの更新実施(年間約100回)	○

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2022年度計画	実施状況	達成度
地域行事、活動への積極的参加と協力の実施	<p>(1) 地域行事・活動等への参加・準備・協力を積極的に取り組む (行事、活動、清掃活動含む)</p>	<p>① 支援者は地域行事へ積極的に参加し、地域との関係性を構築 ・友愛まつり、支え愛・たすけあい学習会 (5月：北須磨)、 ・ふる里まつり、安心安全コミュニティー像の集い(8月：北須磨) ・運動会(10月：北須磨) ・クリスマス会 (12月：北須磨)</p> <p>② 地域行事、清掃活動に利用者参加を推進 ・寿喫茶(北須磨)、すくすく喫茶(北須磨)、さくら喫茶(神の谷) ・友が丘交通公園・広場、3事業所周辺、北須磨団地前バス停(清掃活動)</p>	<p>① ア) 友愛まつり中止、支え愛たすけあい学習会(不参加) イ) ふる里まつりは中止 ウ) 安心安全コミュニティー像の集いに施設長出席 エ) 北須磨運動会中止 オ) クリスマス会中止</p> <p>② ア) 寿喫茶、すくすく喫茶は友が丘事業所が参加 イ) さくら喫茶はシミズ、林タオル事業所が参加 ウ) 友が丘交通公園の芝刈り実施(春～秋) エ) シミズ事業所周辺のクリーン作戦実施 オ) 林タオル周辺溝・社屋周辺清掃・除草実施 カ) 北須磨団地前バス停清掃は週1回実施 キ) 北須磨団地自治会55周年記念式典祝賀会に参加(11/9)</p>	○
	<p>(2) 地域コミュニティーの活用と関係構築</p>	<p>① 地域コミュニティー施設の活用を通して関係者との関係性を向上 ・友が丘地域福祉センター ・老人いこいの家</p> <p>② 新たな活用方法等について提案と情報発信</p>	<p>① ア) 北須磨福祉センターの活用は卓球活動を通して実施 イ) 老人憩の家、自治会館は喫茶を通して活用を実施</p> <p>② コロナウイルスの影響のため新たな施設活用は自粛・未実施</p>	○

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
	(3) 地域高齢者の生活支援要請を活動に反映	① 近隣高齢者のニーズ把握を実施 ・民生委員の会合に出席 (2回/年) ② 北須磨地域のウォーキングを兼ねた地域パトロール、あいさつ運動の実施 ③ AEDの設置	① 民生委員会に施設長、課長が出席 (7月) ② バス停清掃も兼ねて、北須磨周辺のウォーキング、あいさつ運動を実施 ③ AEDの設置は予算不足により未実施	○
関連企業を対象とした奉仕活動の実施	(1) 林タオル販売、シミズに対し除草・掃き掃除などの奉仕活動を実施し、更に周辺企業へアピール	① 除草、落ち葉掃き、ゴミ拾い等奉仕活動の提供 ・定期的な奉仕活動実施 ② 実施内容の見直し ・実施した内容を振替えり、時間と場所を見直す。	① 林タオル周辺の除草、落ち葉掃き、屋内清掃を実施 ② 実施時間と場所について職員間で共有を実施	○

(6) 人事労務危機管理の視点

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
労務環境への配慮と改善	(1) 日常的な関り（挨拶・労い）を大切にした関係づくりと労務配慮の実践	① 訪問、支援ヘルプ等を通して職員との信頼関係と声掛けによる関係づくり (随時) ② 労務状態 (体調、家族看護、介護等) を早期に把握し、負担軽減等を実施 (随時)	① 訪問、支援ヘルプは随時実施のため、職制で振り返りを実施 ② ア) 連絡、調整を随時行う イ) 支援者の体調・悩み・相談等に随時対応	○
労務へのモチベーション向上	(1) 労務状況の改善と効率的な働き方の提供	① 行事、活動の計画実施を支援し労いと感想を共有 (随時) ② 収入を含めた効率的な働き方の提案 (随時)	① 年間を通して一般職員への聞き取りを実施 ② 土曜活動に伴う振替休日の調整、有給休暇の取得促進を実施	○
南海トラフ大震災をはじめとする災	(1) 福祉避難場所としての役割	① 運用マニュアルの整備 ・地震災害時の対応マニュアル (8月)	① BCP 計画を職員会議で共有	△

実行計画	計画内容	2022 年度計画	実施状況	達成度
害への対応と備え	(2) 訓練の実施	① 訓練計画の作成と実施(2回/年 5、10月) ② 訓練内容の見直し(2回/年 5、10月)	① 地震、防災の全体学習会を実施(1月) 火災訓練実施(3月,2事業所) ② 避難経路の見直し実施(3月)	○
	(3) 備蓄品の確認と補充	① 備蓄品管理リストの作成(6月) ② 備蓄品のチェックと補充、追加品目の検討(2月) ③ 地域貢献推進部会との連携(備蓄品情報の提供)	① 備蓄品チェックリストの作成を実施(11月) ② 現在保有している備蓄品チェックを実施 下半期に LED ランタン・備蓄食料品を追加購入 ③ 半期毎の情報共有を実施	○

### 3. 出来した事案

(1) 特にありません。

## 2022 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホームのぞみ  
管理者 岩井 誠一

### グループホームのぞみの基本方針

1. 一人ひとりの基本的人権を尊重したサービスを提供します。
2. 利用者の障害特性を理解し「その人らしい暮らし」を共に考え支援します。
3. 一人ひとりが主体性を発揮し、生活の場面で生きがいを感じられるよう支援します。
4. 安心安全な生活が送れる環境づくりと衛生面の提供を行います。
5. 地域の皆さんとの交流機会を求め、利用者の積極的な関わりと参加に努め地域にひらかれた関係づくりをめざします。

### 第4期中期計画のビジョン

**利用者・ご家族に寄り添い、互いに笑顔溢れる居場所の創造と提供をめざします。**

#### 2022 年度の報告について

開所から丸2年が経過しました。グループホームとしては、ようやくスタートラインに立てたところではないかと思えます。2022年度は、利用者・ご家族の理解を求めながら、ホームの利用率を伸ばそうと努力してまいりました。利用日数が伸び悩む方には、ご自宅での訪問看護サービスをホーム内でも実施していただくことを提案しました。職員は他事業者の方が訪れることで心配もありましたが、大きな問題もなく受け入れることが出来ました。その後、同様のサービスを希望される方があり、現在、3人の方が週1~2回の訪問看護を利用されています。課題は、日中活動先・訪問看護・グループホーム・ご家族・本人の間で交わされる情報や状態についてタイムリーに共有できないことです。リハビリ後、翌日に身体の痛みを訴えてくることがあると、生活の中で何処かで打撲したのか、日中活動先で何かあったのかと右往左往することがあります。利用者支援をより良いものにしていくために、客観的かつタイムリーな情報共有が重要と考え、改善に向け取り組んでまいります。

1月~2月にかけて、ホーム内で新型コロナ感染が確認されました。長期休みの間の感染、日中活動先でのクラスター感染などが続き、結果、利用者5名・ご家族3名・職員4名が感染する事態となりました。自宅待機中に本人から家族に感染が広った方もおられ、ホーム利用は2月中旬まで2名の利用となりました。これにより収入への影響は大きなものとなりました。集団生活ゆえに起こる様々な事態に備え、出来ること・準備を整える必要性を強く感じた一年となりました。

また、ご家族の高齢化・健康問題等により、週末帰省受入れが困難となるご家庭が出ています。この先、想像しているよりも早く、ご自宅に帰省出来なくなる時期が訪れるのではないかと心配しています。利用者の笑顔が溢れる居場所づくりの為に出来ること・やれることを一歩ずつ前進させるべく、誠意をもって寄り添い・信頼される支援を心掛けてまいります。

1. 事業概要

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	8名	知的障害者

2. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
基本理念の浸透	① 会議前の理念の唱和 ② 神戸聖隷ハンドブックの輪読 ③ 第2回理念研修の実施	① 年度当初に実施 ② 会議毎の実施には至らず。数回の試みに留まる。 ③ 未実施	△

(2) 職員育成の視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上	① 感染症対策・対応に関する研修参加 ② 障害特性に関する外部研修への参加	① 6月の職員会議で新型コロナ・ノロウィルスの研修を実施。感染症対策の外部研修参加は無かったが、新型コロナの対応について会議内で研修を実施。 ② 年間を通してWEB研修等の案内を周知。法人内他業種研修を1名受講。	○
事業所内研修の実施	① 内部研修の実施 ② 法人内グループホーム合同研修の企画・実施 ③ 職員会議を月1回定例で実施、支援上の課題・対応・業務内容について共有	① キリスト教福祉講座への参加希望募り、1名が参加。 ② 未実施 ③ 職員会議を定例で実施、利用者個々の支援等共有をはじめ、法人内の情報等共有を実施。	△

(3) QOLの視点

実行計画	2022年度計画	実施状況	達成度
健康管理	① 毎日の健康状態(体重・血圧)の把握 ② 必要に応じた医療機関への受診・通院等の実施	① 対象者において継続・実施。 ② 対象者において医療機関への受診と通院支援を実施。服薬管理を薬剤師に相談・取組みを継続・実施。	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 業務マニュアルの整備・修正・見直しの実施</li> <li>② 本人・ご家族からの支援見直し・変更への迅速な対応</li> <li>③ 支援会議の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 確認事項の更新をホワイトボードで伝達。更新後、書式の一部改善を実施。遅出業務マニュアルを作成。</li> <li>② 家族の会を6月・3月に実施。支援の見直し等はその都度聞き取り確認を行い対応。</li> <li>③ ご家族、サビ管でのモニタリングを実施、職員会議内で支援状況を確認し実施。</li> </ul>	○
余暇の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 一人ひとりに応じた余暇の提案と支援の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 支援計画に基づいた余暇活動（買い物・送迎）を実施。</li> </ul>	○
虐待防止・人権擁護意識の浸透	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 虐待防止・人権擁護に関する研修の実施</li> <li>② セルフチェックの実施</li> <li>③ 成年後見制度の活用促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 職員会議内で資料配布。3月、職員会議内で研修を実施。</li> <li>② 法人セルフチェックを年2回実施。</li> <li>③ 未実施。後見人の方とは定期的に金銭管理等の内容について確認を行っている。</li> </ul>	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
利用率の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 365日開所を基本とし、利用率90%を目指す</li> <li>② 病院受診・送迎を含めた利便性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 下半期1・2月の新型コロナ感染によって利用率が減少したため未達。</li> <li>② 上半期同様、利用者の家庭状況等に応じ不定期にて送迎、受診付添いを実施（8名中4名）</li> </ul>	△
バックアップ施設の体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>① せいれいやさかだいの日中及び夜間緊急時支援体制を整備し共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① のぞみ勤務状況に応じて、入浴調理支援・送迎・受診付添い・日中支援・夜勤対応等を実施。</li> </ul>	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域清掃活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 年2回の地域清掃に参加、グループホームの存在をアピール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 6月北須磨自治会大掃除には、主任、課長、管理者が参加。12月も管理者をはじめ職制が参加。</li> </ul>	○

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
地域との連携	① 地域コミュニティの利用・夏祭り等の行事参加	① 新型コロナの影響により、地域行事自体が中止。行事参加には至らず。	×

(6) 人事労務危機管理の視点

実行計画	2022 年度計画	実施状況	達成度
防災対策	① 年 2 回の避難訓練を実施 (9 月・3 月) ② 感染症予防に備えた備蓄品の確保 ③ 自然災害時に備えた備蓄品の確保 ④ B C P 計画の策定	① 神戸聖隷オアシスの避難訓練 (6 月・12 月) を実施。職員が参加。 ② 備蓄品として、マスク、ガウン、フェイスガードを購入。その後、使い捨てガウン等の提供があり補充。 ③ 非常食 (乾パン・ $\alpha$ 米・水・手回し式ラジオ・LED ランタン) を補充。 ④ 作成済み。共有・見直し・検討は未実施。	○

3. 出来た事案

(1) 特にございません。

2022年度 事業報告別表 1(事業実績)

■ **入力不要** ※稼働日数が協定等で定められている事業以外は  
■ **要入力** 法定年間稼働日数で利用率を算出しています

特養・グループホーム・施設入所支援 (入所型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝人	
		利用延べ人数		利用率①		地域生活移行	
		2022年度 目標	2022年度 実績	2022年度 目標	2022年度 実績	2022年度 目標	2022年度 実績
特養 平生園	60	21,243	21,154	97.0	96.6		
〃 さくらの苑	29	10,373	10,260	98.0	96.9		
GH わらしべ	18	6,439	6,422	98.0	97.7		
入所 恵生園	60	21,445	21,144	97.9	96.5	0	0
〃 真生園	60	21,555	21,175	98.4	96.7	0	0
〃 神戸愛生園	50	17,338	16,175	95.0	88.6	0	0
〃 神戸明生園	60	21,432	20,885	97.9	95.4	0	0
GH グループホームもみの木	5	1,750	1,738	95.9	95.2		
〃 グループホームかしの木	7	2,370	2,201	92.8	86.1		
〃 グループホームかしの木Ⅱ	5	1,668	1,381	91.4	75.7		
〃 めぐみ	6	1,341	1,282	61.2	58.5		
〃 せいれいやまて	10	3,211	3,176	88.0	87.0		
〃 たいのはた東(定員5人+体験1人)	5	1,716	1,633	94.0	89.5		
〃 南落合	5	1,602	1,747	87.8	95.7		
〃 アリエッタ北須磨	10	2,919	3,069	80.0	84.1		
〃 のぞみ	8	2,458	2,303	84.2	78.9		
〃 きたすま	5	1,765	1,808	96.7	99.1		
〃 みなみたもん	5	1,653	1,706	90.6	93.5		
〃 ふくだ	10	3,395	3,448	93.0	94.5		

短期入所支援事業	定員数	単位＝人		単位＝%	
		利用延べ人数		利用率①	
		2022年度 目標	2022年度 実績	2022年度 目標	2022年度 実績
高齢 さくらの苑	10	3,467	3,338	95.0	91.5
障害 恵生園	3	387	410	35.3	37.4
〃 真生園	4	210	446	14.4	30.5
〃 神戸愛生園	5	730	967	40.0	53.0
〃 神戸明生園	10	2,004	1,009	54.9	27.6
〃 アクシスひょうご	6	2,411	2,690	110.1	122.8

通所介護・生活介護・児童発達・放課後等デイ 重症心身障害者日中活動支援事業 日中一時支援事業 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		年間稼働日数
		利用延べ人数		利用率②		
		2022年度 目標	2022年度 実績	2022年度 目標	2022年度 実績	
通所 さくらの苑	18	4,797	4,459	86.0	79.9	310日
〃 デイセンターひょうご(共生型)	25	808	575	12.0	8.6	
〃 神戸市立自立センターひょうご(共生型)	60	143	136	0.9	0.8	
生活 恵生園	60	16,356	16,138	101.3	100.0	
〃 真生園	60	15,887	15,902	98.4	98.5	
〃 神戸愛生園	60	15,437	15,071	95.6	93.4	
〃 神戸聖生園	60	13,955	13,109	86.5	81.2	
〃 せいれいやさかだい	25	5,893	5,611	87.6	83.4	
〃 神戸光生園	54	12,691	12,403	87.4	85.4	
〃 神戸明生園	80	19,560	18,913	90.9	87.9	
〃 デイセンターひょうご(多機能型)	25	4,676	4,644	69.5	69.1	
〃 自立センターひょうご	60	13,274	12,493	82.2	77.4	
〃 トゥモロー	8	1,504	1,415	78.0	73.4	市との協定日数 241日
〃 インクルージョンひょうご	20	2,590	2,426	48.1	45.1	
日中 真生園	5	12	1	0.7	0.1	
〃 神戸明生園	10	14	11	0.4	0.3	
〃 アクシスひょうご	6	0	2	0.0	0.1	
児童 すまいる	20	3,171	3,451	66.9	72.8	市との協定日数 237日
〃 らみい	10	1,851	1,588	70.9	60.8	市との協定日数 261日
〃 エスポワールこじか	10	2,058	1,971	85.8	82.1	市との協定日数 240日
〃 めぐみ	10	1,398	1,336	52.0	49.7	

単位＝人

就労移行支援事業・就労相談 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝人		就労定着支援	
		利用延べ人数		利用率②		就職者数		利用延べ人数	
		2022年度 目標	2022年度 実績	2022年度 目標	2022年度 実績	2022年度 目標	2022年度 実績	2022年度 目標	2022年度 実績
移行 神戸光生園	6	255	234	15.8	14.5	1	0	31	32
〃 ワークセンターひょうご	30	2,517	3,833	31.2	47.5	10	8	365	366
定着 和生園	—	—	—	—	—	—	—	32	31
相談 しごとサポート中部	—	—	—	—	—	90	78	—	—
〃 神戸障害者就業・生活支援センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—

就労継続支援B型 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝円		単位＝円	
		利用延べ人数		利用率②		時間給工賃(平均)		月配分額(平均)	
		2022年度 目標	2022年度 実績	2022年度 目標	2022年度 実績	2022年度 目標	2022年度 実績	2022年度 目標	2022年度 実績
就B 和生園 (6月定員変更)	34→40	9,745	7,532	90.6	72.7	126	210	17,000	17,970
〃 せいれいやさかだい	15	3,027	2,408	75.0	59.7	54	66	4,900	5,960
〃 神戸友生園	40	8,911	8,665	82.8	80.5	100	164	10,000	11,044
〃 神戸光生園	30	6,870	6,299	85.1	78.1	144	154	14,468	16,285
〃 デイセンターひょうご(8月定員変更)	10→15	2,630	2,579	97.8	71.9	159	221	3,000	4,279
〃 ワークセンターわかまつ	40	8,726	8,679	81.1	80.7	114	126	10,170	11,019

居宅介護支援・相談支援	支援内容・対象	単位＝件	
		支援件数	
		2022年度 目標	2022年度 実績
居宅 居宅介護支援事業さくらの苑	ケアマネージング	974	1,116
障害 びあほくたん	障害者	455	454
〃 発達障害者支援センター・ランチ	発達障害者	425	433
〃 エスポワールこじか相談支援事業所	障害児	242	253
〃 恵生園相談支援事業所	障害者	203	218
〃 神戸障害者就業・生活支援センター	障害者	7,500	6,954
〃 しごとサポート中部	障害者	—	—
〃 ひょうご障害者生活支援センター(夜間支援含む)	相談・緊急対応	6,500	5,601
〃 神戸市発達障害者中部相談窓口	発達障害者	1,010	711
〃 きたすま障害者生活支援センター	相談・緊急対応	7,200	7,549
〃 神戸聖隷総合相談センター	相談	670	670

生活援助・介護予防・職場開拓	項目	単位＝件	
		件数	
		2022年度 目標	2022年度 実績
障害 あったかプラザ(飲食店)	来店人数	4,398	4,544
〃 障害者専門職業紹介事業	職場開拓活動	400	429

診療所	単位＝人	
	診療延べ人数	
	2022年度 目標	2022年度 実績
医療 真生園診療所	1,068	1,068
〃 風クリニック	1,550	1,602
〃 神戸愛生園診療所	3,000	3,171

法定年間稼働日数	365日
法定年間稼働日数	269日

注意：利用率の計算方法

①入所型事業及び短期入所事業	利用延べ人数÷(定員数×365日)
②日中型事業	利用延べ人数÷[定員数×(365日-8日×12ヶ月)]

※年度途中に開所・閉所の場合、上記計算方法を応用

【例】定員20名の通所事業が1月に開所し、3月までの利用延べ人数が1250人の場合  
利用率＝1250人÷(20人×(23日+20日+23日))＝94.7%

2022年度 事業報告別表 2 (設備整備実績)

No.	施設名	施設 件数No.	件名	内容概略	整備完了時期	事業金額 (千円)	財源			
							サービス区分	財源科目	備考(補助金・助成金)	補助助成金 (千円)
1	真生園	1	天井走行リフト更新(南寮等)	天井走行リフトの老朽化及び修理困難機種の新 更新	2022年6月	9,273	生活介護	修繕積立資産取崩収入		
2	さくらの苑	1	インカムシステム整備一式	職員間のコミュニケーションツールとして、また ナーズコールや眠りスキャンを連動させる事で 職員の歩数削減等業務効率化を図る	2023年3月	2,728	さくらの苑(地域密 着特養)	備品積立資産取崩 収入	令和4年度兵庫県労働環境 改善支援事業	1,240
3	さくらの苑	2	介護保険請求ソフトウェア更新	2017年5月開設と同時に導入した介護保険ソフト 「ほのぼのNEXT」の使用権が5年を迎えるの で端末8台と地域密着特養のライセンス更新	2022年5月	1,998	さくらの苑(地域密 着特養・短期入所)	減価償却積立資産 取崩収入		
4	神戸愛生園	1	業務用洗濯機	汚物用洗濯機が経年劣化のため更新	2022年5月	1,325	生活介護	減価償却積立資産 取崩収入		
5	神戸愛生園	2	作業棟自動ドア	既設のものが故障しており、設置から40年近く 経つため更新	2023年1月	536	生活介護	減価償却積立資産 取崩収入		
6	神戸光生園	1	洗面台自動水栓工事	利用者用2階洗面台を蛇口式からセンサー式自 動水栓へ取り替え工事	2023年7月	627	生活介護	経常経費寄付金収 入	家族会指定寄附金	627
7	神戸明生園	1	厨房業務用食器洗浄機	老朽化に伴う入替	2022年4月	821	生活介護	減価償却積立金取 崩収入		
8	神戸明生園	2	パソコン1台	支援課職員の業務省力化	2022年5月	162	生活介護	運営資金		
9	神戸明生園	3	男性棟浴室スーパーバイオマット	老朽化に伴う入替	2022年6月	145	生活介護	運営資金		
10	神戸明生園	4	more牌がい支援記録システム使用権バック	支援課職員の業務省力化	2022年7月	76	生活介護	運営資金		
11	神戸明生園	5	校食用冷凍庫	老朽化に伴う入替	2022年7月	250	生活介護	運営資金		
12	神戸明生園	6	女性棟温水ヒーター(ポイラー)更新工事	老朽化に伴う入替	2022年8月	2,497	生活介護	減価償却積立金取 崩収入		
13	神戸明生園	7	厨房用ガス給湯器	老朽化に伴う入替	2022年8月	237	生活介護	運営資金		
14	神戸明生園	8	女性棟ガス給湯器	業務省力化のための新設	2022年9月	319	生活介護	運営資金		
15	神戸明生園	9	ほのぼの支援記録システムライ センス更新費用	現在使用しているシステムの更新費用	2022年10月	2,135	生活介護	運営資金		
16	神戸明生園	10	公用車(中古)購入	公用車の入替のため	2022年11月	940	生活介護	減価償却積立金取 崩収入		
17	神戸明生園	11	パソコン2台	支援課職員の業務省力化	2022年12月	269	生活介護	運営資金		
18	神戸明生園	12	電動介護用ベッド(中古)2台	支援課職員の業務省力化	2023年1月	360	生活介護	運営資金		
19	神戸明生園	13	空間除菌装置(グリーンマイル)設置	園内の感染症対策の一環	2023年2月	919	生活介護	減価償却積立金取 崩収入		